

# 官報

號外

昭和六年三月十一日

## ○第五十九回 衆議院議事速記録第二十五號

昭和六年三月十日(火曜日)

午後二時三分開議

議事日程 第二十四號

昭和六年三月十日

午後一時開議

- 一 海外移住政策ニ關スル質問 (津崎尙武君提出)
- 二 航空ニ關スル質問 (永田良吉君提出)
- 三 醫藥制度ノ大缺陷ニ關スル質問 (鈴木梅四郎君提出)
- 四 健康保險法ノ實施ニ關スル質問 (鈴木梅四郎君提出)
- 五 滿蒙政策ニ關スル質問 (岸田正記君提出)
- 六 人造絹絲輸入關稅並外國製人絹使用目的ノ保稅工場特許ニ關スル質問 (松井文太郎君外三名提出)
- 七 新聞記者ノ資格制定ニ關スル質問 (飯村五郎君提出)
- 八 北海道拓殖ニ關スル質問 (松實喜代太君提出)
- 九 天皇ノ大權國體觀念軍人精神並政治上ノ原則ニ關スル質問 (松實喜代太君提出)
- 十 國際紛爭平和的處理ニ關スル質問 (田川大吉郎君提出)
- 第一 競馬法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

- 第三 牧野法案(政府提出) 第一讀會
- 第四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第五 關稅定率法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第七 船舶積量測定法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會
- 第八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第九 蠶絲業組合法案(政府提出) 第一讀會
- 第十 蠶絲業法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第十一 右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第十二 輸出生絲檢查法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第十三 耕地整理法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第十四 國立公園法案(政府提出) 第一讀會
- 第十五 土地收用法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第十六 家祿賞典給與未濟ニ關スル法律案(末松浩一郎君外四名提出) 第一讀會
- 第十七 鑛業法中改正法律案(丹下茂十郎君外一名提出) 第一讀會

- 第十八 度量衡法中改正法律案(一松定吉君提出) 第一讀會
- 第十九 計量士法案(一松定吉君提出) 第一讀會
- 第二十 未成年者飲酒禁止法中改正法律案(長尾半平君外二十四名提出) 第一讀會
- 第二十一 恩給法中改正法律案(山下谷次君外一名提出) 第一讀會
- 第二十二 刑事訴訟法中改正法律案(一松定吉君外四名提出) 第一讀會
- 第二十三 刑事訴訟法中改正法律案(長谷川陸郎君外二名提出) 第一讀會
- 第二十四 利息制限法中改正法律案(一松定吉君外四名提出) 第一讀會
- 第二十五 利息制限法中改正法律案(原夫次郎君外三名提出) 第一讀會
- 第二十六 民事訴訟法中改正法律案(村岡吾一君外三名提出) 第一讀會
- 第二十七 航空法中改正法律案(永田良吉君提出) 第一讀會
- 第二十八 河川法中改正法律案(山根儀重君外五名提出) 第一讀會
- 第二十九 借地借家調停法中改正法律案(小久江美代吉君外二名提出) 第一讀會
- 第三十 借家法中改正法律案(小久江美代吉君外二名提出) 第一讀會
- 第三十一 六大都市ニ關スル法律案(森田茂君外十八名提出) 第一讀會
- 第三十二 產業組合中央金庫法中改正法律案(山谷義治君外十四名提出) 第一讀會
- 第三十三 產業組合中央金庫法中改正法律案(岸田正記君外二名提出) 第一讀會
- 第三十四 廢兵優遇ニ關スル法律案(一松定吉君外一名提出) 第一讀會
- 第三十五 司法代書人法中改正法律案(斯波貞吉君外一名提出) 第一讀會

- 第三十六 農會法中改正法律案(平場清次郎君外三名提出) 第一讀會
- 第三十七 農會法中改正法律案(末松浩一郎君外十二名提出) 第一讀會
- 第三十八 耕地整理法中改正法律案(平場清次郎君外三名提出) 第一讀會
- 第三十九 酒造稅法中改正法律案(古島義英君外一名提出) 第一讀會
- 第四十 道路維持修繕費負擔者負擔法(栗原彦三郎君提出) 第一讀會
- 第四十一 穀類搗精製粉取締法案(大竹貫一君外四名提出) 第一讀會
- 第四十二 私生子ノ名稱ニ關スル法律案(一松定吉君外六名提出) 第一讀會
- 第四十三 負債整理組合法案(土井權大君外三名提出) 第一讀會
- 第四十四 產業組合法中改正法律案(土井權大君外三名提出) 第一讀會
- 第四十五 農工銀行法中改正法律案(土井權大君外三名提出) 第一讀會
- 第四十六 日本勸業銀行法中改正法律案(土井權大君外三名提出) 第一讀會
- 第四十七 北海道拓殖銀行法中改正法律案(土井權大君提出) 第一讀會
- 第四十八 米穀需給法案(土井權大君外三名提出) 第一讀會
- 第四十九 米穀需給特別會計法案(土井權大君外三名提出) 第一讀會
- 第五十 計理士法中改正法律案(定塚門次郎君外二名提出) 第一讀會
- 第五十一 無盡業法中改正法律案(松田正一君外二名提出) 第一讀會
- 第五十二 古物商取締法中改正法律案(石原善三郎君外二名提出) 第一讀會
- 第五十三 身元保證ニ關スル法律案(一松定吉君外三名提出) 第一讀會
- 第五十四 辨理士法中改正法律案(名川侃市君外四名提出) 第一讀會
- 第五十五 大日本帝國國旗法案(石原善三郎君提出) 第一讀會

第五十六 大正十五年法律第五十二號

中改正法律案(土地區劃整理ニ伴フ清算金等ニ關スル件)(安藤正純君外三十八名提出) 第一讀會

第五十七 震災ニ因ル土地區劃整理施行地區内ノ假建築者手期限變更ニ關スル法律案(戶井嘉作君外三十八名提出) 第一讀會

○議長(藤澤機之輔君) 諸般ノ報告ヲ致サセマス

〔書記官朗讀〕

一去七日貴族院ヨリ受領シタル政府提出案左ノ如シ

船舶積量測定法中改正法律案  
一政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ  
關稅定率法中改正法律案  
(以上三月七日提出)

蠶絲業組合法案  
蠶絲業法中改正法律案  
(以上三月八日提出)

(第一號)昭和五年度歲入歲出總豫算追加案  
(以上三月九日提出)

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ  
衆議院議員選舉法中改正法律案

提出者

末松愷一郎君 深水 清君  
榊部 荒熊君 武谷甚太郎君  
岡野 龍一君 作田高太郎君  
山杵 儀重君  
(以上三月九日提出)

發明獎勵ニ關スル建議案

提出者

竹内友治郎君 安藤 正純君  
土井 權大君

東北帝國大學ニ農學部増設ニ關スル建議案

提出者

菅原 傳君 守屋 榮夫君  
星 廉平君 大石 倫治君

長谷川陸郎君 小山倉之助君  
佐藤 正君  
(以上三月七日提出)

ブラジル國アマゾン河口ベレン市ニ帝國領事館設置ニ關スル建議案

提出者

服部 教一君 定塚門次郎君  
濱野徹太郎君 木原 七郎君  
鷺野米太郎君

國有林野所在府縣ニ對シ交付金下付ニ關スル建議案

提出者

鹿兒島縣笠野原飛行場ニ陸海軍爆撃飛行隊設置ニ關スル建議案

提出者

鹿兒島灣沿岸ニ海軍航空隊設置ニ關スル建議案

提出者

耕地ノ擴張改良促進ニ關スル建議案

提出者

丹下茂十郎君 高草美代藏君  
高橋熊次郎君 土井 權大君  
片野 重脩君  
(以上三月九日提出)

明治神宮競技ニ關スル建議案

提出者

信太儀右衛門君 牧山 耕藏君  
球磨川改修ニ關スル建議案

提出者

北海道廳警察專用電話擴張ニ關スル建議案

提出者

小池 仁郎君 一柳仲次郎君  
(以上三月十日提出)

一議員ヨリ提出セラレタル質問主意書左ノ如シ

國際軍縮會議ニ關スル質問主意書

提出者 田川大吉郎君  
(以上三月七日提出)

雪國地帯ノ鐵道速成ニ關スル質問主意書

提出者

八田 宗吉君  
區劃整理ニ際シ東京市ノ小學校舍移轉補償金ニ對スル不當處分ニ關スル質問主意書

提出者

遠藤 千元君  
(以上三月九日提出)

一政府ヨリ受領シタル答辯書左ノ如シ  
衆議院議員津崎尙武君提出海外移住政策ニ關スル質問ニ對スル答辯書

提出者

衆議院議員永田良吉君提出航空ニ關スル質問ニ對スル答辯書

提出者

衆議院議員鈴木梅四郎君提出醫藥制度ノ大缺陷ニ關スル質問ニ對スル答辯書

提出者

衆議院議員鈴木梅四郎君提出健康保險法ノ實施ニ關スル質問ニ對スル答辯書

提出者

衆議院議員岸田正記君提出滿蒙政策ニ關スル質問ニ對スル答辯書

提出者

衆議院議員松井文太郎君外三名提出人造絹絲輸入關稅並外國製人絹使用目的ノ保税工場特許ニ關スル質問ニ對スル答辯書

提出者

衆議院議員飯村五郎君提出新聞記者ノ資格制定ニ關スル質問ニ對スル答辯書

提出者

衆議院議員松實喜代太君提出北海道拓殖ニ關スル質問ニ對スル答辯書

提出者

衆議院議員田川大吉郎君提出國際紛爭平和の處理ニ關スル質問ニ對スル答辯書

提出者

衆議院議員遠藤千元君提出區劃整理ニ際シ東京市ノ小學校舍移轉補償金ニ關スル質問ニ對スル答辯書

提出者

津崎 尙武  
昭和六年二月十日

題ノ爲ノミナラズ其ノ根本の觀念ハ世界ノ平和ト人類ノ幸福ニ貢獻スルニアル從テ我ガ國ノ海外移住政策ハ其ノ根本の方針ヲ確立シテ之ガ實行ヲ期セネバナラヌ政府ハ我ガ國ノ海外移住政策ニ關シ根本の方針ヲ確立シテアリヤ若シアリトセバ其ノ方針如何

二 我ガ國ノ海外移住政策ハ世界ノ各方面ニ對シ其ノ事情ニ應ジテ方針ヲ樹立シ實行ヲ期セネバナラヌ政府ハ何レノ方面ニ海外移住ヲ獎勵セントスルヤ

三 中、南米各國ハ獨リ「ブラジル」ノミナラズ日本人ノ移住ニ依リテ拓カルベキモノナリト思惟ス政府ハ之等各方面ニ對スル移住獎勵ノ方策アリヤ若シアリトセバ具體的ニ示サレタシ

四 滿蒙モ亦日本ノ移住政策上ヨリ觀ルモ重要ナル方面デアアル現ニ朝鮮ノ我ガ國民ニシテ彼ノ地方ニ在住スル者百萬ヲ超エ而モ非常ナ迫害ヲ受ケテ居ル政府ハ滿蒙ニ對スル移住政策ヲ如何ニ定メアルヤ

五 海外移住組合ハ我ガ國ニ於ケル企業移民ノ制度ヲ創設セルモノデアアル海外移住政策上最新元ヲ劃スルモノデアアル從テ本組合ノ運用如何ハ我ガ國ノ海外移住政策上極メテ重大デアアル政府ハ本組合法施行後ノ實績ヲ如何ニ觀ルカ

六 海外移住組合法制定ニ伴ヒ組合ノ設立並活動ニ關スル補助金貸付資金等政府ノ支出シタル諸費ニ關シ其ノ各年度ノ金額如何、各費目ニ付キ明示ヲ望ム

七 海外移住組合購入土地ノ面積、箇所並其ノ購入土地ニ入植セシ家族數及ビ人員如何

八 貸付資金ノ支出並其ノ回收狀況、移住地ノ現狀及ビ其ノ將來ノ見込如何

九 海外移住組合ハ其ノ重大ナル業務ノ一トシテ移住ノ斡旋ヲ爲サネバナラヌ

然ルニ海外移住組合會ハ其ノ業務ヲ海外興業株式會社ニ委任セルハ如何ナル理由ナルカ政府ハ此ノ重大ナル事項ヲ看過スルモノナリヤ

十 移住者渡航ノ斡旋ヲ海外移住組合會自ラ之ヲ爲サシテ他ニ委任セル結果遂ニ「ブラジル」ニ於ケル移民誘入ノ免許問題ニ遭遇シ海外移住組合ハ自

己ノ移住者即チ所謂企業移民ヲ自ラ取扱ヒ得ズ却テ契約移民取扱者タル海外興業株式會社ニ支配セラルルニ至ツタ

スノ如キニ本組合法制定ノ趣旨ニ反スルモノデアツテ其ノ責任ハ極メテ重大デア

アル政府ハ本問題ヲ此ノ儘ニ看過スルヤ如何

十一 外務省拓務省及ビ海外ニ於ケル官吏等ニシテ海外移住組合ガ自ラ移住者

ノ取扱ヲ爲サントスルニ付テ反對ノ行動ヲ執リタル事實ナキヤ若シアリトセ

バ政府ハ之ヲ其ノ儘ニ看過スルヤ

十二 海外移住組合聯合會ガ「ブラジル」ニ對スル移民誘入認可ヲ得ルコトニ政

府ハ盡力スル意思アリヤ

十三 政府ハ海外移住組合並移住組合聯合會ノ監督ニ遺憾ナキヤ

十四 海外移住組合聯合會ノ土地購入及ビ其ノ處分並管理等ニ關シ何等ノ過失

ナシトスルカ政府ノ所見如何

十五 海外移住獎勵費ノ使途ニ關シ政府ハ從來ノ方針ヲ以テ満足ナリト思惟ス

ルヤ

十六 海外興業株式會社ノ業績ハ政府ニ於テ満足スル狀態デアルカ而シテ政府

ガ同會社ニ補助シテ居ル直接間接ノ經費ノ種類、金額ヲ其ノ當初ヨリ今日ニ

至ル迄明細ニ指示セラレタシ

右及質問候也

昭和六年三月十日

内閣總理大臣 濱口 雄幸

衆議院議長 藤澤幾之輔殿

衆議院議員津崎尙武君提出海外移住政策ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書進候

〔別紙〕

衆議院議員津崎尙武君提出海外移住政策ニ關スル質問ニ對スル答辯書

一 國民ノ海外發展ハ世界ノ平和ト人類ノ幸福ニ貢獻スルヲ以テ主眼トスヘキ

ハ言フ俟タサル所ニシテ政府ノ海外移住ニ關スル根本方針モ此ノ趣旨ニ則リ

テ海外移住植民ノ保護獎勵ヲ行フニ在リ從ツテ之カ實行ニ當リテハ特ニ彼我ノ

社會上經濟上其ノ他諸般ノ條件ヲ考察シ國際相互ノ利益ト友誼ノ増進ニ遺憾

ナキ様有效適切ナル方策ヲ講シ共助共榮ノ實ヲ擧ケンコトヲ期セントスルモノナリ

二 政府ハ世界ノ何レノ國何レノ地方ヲリト雖モ苟モ邦人ノ移住ヲ歡迎シ且ツ

其ノ國情カ邦人ノ移住ニ適スルモノアル場合ハ何時ニテモ移住獎勵ヲ爲ス方針ナリ

三 伯國以外ノ中南米諸國ニ對スル移住獎勵ハ夙ニ政府ノ考慮シ居ル處ニシテ

右各國ニ調査員ヲ派シ其ノ調査報告ハ在外公館ノ調査報告ト共ニ適宜之ヲ國

内ニ紹介シ或ハ實地調査ヲ試ミ又必要ノ場合ハ渡航費ヲ補助シ其ノ他教育、

醫療、産業施設等ノ問題ニ深甚ノ考量ヲ廻ラン他而移住國トノ協定ヲ結ビ又

ハ移民關係法規ノ改善ヲ促ス等以テ此ノ方面ニ於ケル我カ國民ノ移住ヲ容易

ナラシムルト共ニ之カ獎勵ニ努メツツアリ

四 滿蒙ニ對スル移住政策ニ付テハ政府トシテハ從來ヨリ積極的ニ其ノ移住ヲ

獎勵シタルコトナキモ滿鮮兩地ノ接壤ノ關係ニ在ルヲ以テ永年間ニ自發的ニ

移住セルモノ今日ニ於テハ約百万前後ヲ算スルニ至レリ。此等移住者ニ對シ

テハ時ニ多少ノ迫害アルハ遺憾ナルモ

其ノ都度出先官憲ヲシテ匡正ノ途ヲ講セシメ銳意在留民ノ保護ニ當リツ、アルト共ニ之カ救濟、教育、産業並ニ金融等ニ關シ出來得ル限り助成善導ノ途ヲ講シツ、アリ

五、海外移住組合ノ運用ハ我國移民政策上極メテ重要ナル事項ナルヲ以テ政府

ハ之カ運用ニ關シ銳意力ヲ須ヒ來リタ

ルモ我國農村ノ不況、伯國財界ノ恐慌

並革命等ノ爲メ、當初豫期セル如キ成

果ヲ看ルルニ至リ居ラス。然レトモ今後

事業ノ遂行ニ一段ノ刷新ヲ加ヘ組合ノ

目的達成上遺憾ナキヲ期セムトス

六、海外移住組合及同聯合會ノ設立以來

之カ目的ヲ達セシムルタメ政府ノ貸付

シタル資金及補助金ハ左記ノ如シ

記

一 海外企業費貸付金生産資金貸付金内譯

費目 年度 昭和三年度 同 四年度 同 五年度 十二月末 計

海外企業費貸付金 三、〇四三、九一〇 一、〇一一、六〇六 四、〇五五、五一六

土地購入代金 八四、七三七 一〇八、四六五 一九三、〇〇〇

幹線道路築造費 一九四、七三七 一八、五七一 二一三、〇〇〇

土地區劃及測量費 一〇、一六七 一五、二九九 二五、〇〇〇

登記料 三三、〇〇〇 四、四六二 三七、四六二

土地調査費 七四、二二〇 一九、七四三 九三、九六三

諸給及雜費 二五〇、〇〇〇 二五〇、〇〇〇 五〇〇、〇〇〇

生産資金貸付金 三、五三二、二一一 一、八二二、四六六 五、三五四、六七七

計 三、〇四三、九一〇 一、〇一一、六〇六 四、〇五五、五一六

二 海外移住組合及同聯合會ニ對スル公益施設費事務費其ノ他諸費補助金内譯

費目 年度 昭和三年度 同 四年度 同 五年度 十二月末 計

事務費補助金 一〇〇、〇〇〇 一〇〇、〇〇〇 二〇〇、〇〇〇

公益施設 同 四、五〇〇 三、三〇〇 七、八〇〇

土地調査費同 同 四、五〇〇 三、三〇〇 七、八〇〇

土地測量費同 同 一〇〇、〇〇〇 一〇〇、〇〇〇 二〇〇、〇〇〇

計 一〇〇、〇〇〇 一〇〇、〇〇〇 二〇〇、〇〇〇

七、海外移住組合ノ購入土地面積及箇所

ハ別紙ノ如クニシテ之ニ對スル入植者

ハ在伯者ノ入植者ヲ合シ昭和六年一月

末迄ニ三百八家族千六百二十七名ニ上

海外移住組合會取得土地一覽表 (昭和六年一月末現在)

所	在	地	面積
サンパウロ州	チエテ	サンジョゼ、ドス・ドラ・ドス・チエ	一、一八、七九二、五
		テ、兩河ノ間ニ介在シテ河ヲ隔	
		テテノ、ロエス、テ線ル、サンビ	
		河東岸ノ二箇所ノ散地	

サンパウロ州	アリアンサ	ノロエステ線ルッサンビーラ驛ヨ	二七、三九三
同	移住地	バストス	三三、三三〇
同	移住地	三十軒ベーン河沿ノ地	一、二〇〇
同	移住地	ペンサ耕地	三二、二五〇
同	移住地	チエテ移住地接續地	三二、二五〇
同	移住地	パナナ州	三二、二五〇
同	移住地	トレスバテ	三二、二五〇
同	移住地	東側流域ノ地	三二、二五〇
同	移住地	パナナ、パネマ河支流チバジイ河	三二、二五〇
同	移住地	ラスイグラ	五二、四三三
同	移住地	リオ・ドーセ	二六三、三九八、五
同	移住地	本流ト支流サスイダ	
同	移住地	ランデ河ト合流地附近	
同	移住地	計	二七、三九三町歩

備考  
アリアンサ移住地 二七、三九三町歩  
内譯  
一、信濃移住地 六、二五〇町歩  
一、鳥取移住地 三、〇〇〇同  
一、富山移住地 三、二五〇同  
一、熊本移住地 三、一五五同  
一、接續移住地 一、七三三同  
肩替組合ノ組織變更前ニ於ケル移住地分譲狀況 (昭和二年十一月末現在)

協會名	移住積	分譲		未分譲積
		自在地	不在地	
信濃	二七、三九三町歩	六、二五〇町歩	三、〇〇〇同	三、二五〇同
鳥取	三、〇〇〇	三、一五五同	一、七三三同	
富山	三、二五〇			
熊本	三、一五五			
計	二二、〇八〇	二四九	七七八〇	七二五八

八 貸付金ノ支出ニ就テハ第六項参照  
海外企業費貸付金及生産資金貸付金ハ  
何レモ未タ償還ノ時期ニ達セス 尙聯  
合會ノ取得セル移住地中バストス、チ  
エテ、アリアンサ三移住地ニ對シテハ  
昭和四年度ヨリ移住者ノ入植事務ヲ開  
始シ産業、衛生、教育等ノ一切ノ施設  
ヲ施シ本年一月末現在ニ於テ千六百二  
十七名ノ入植者ヲ出シ現在何レモ相當  
ノ收益ヲ收メツツアルヲ以テ將來ニ於  
テハ入植者ノ増加ト珊瑚樹ノ成熟ト共  
ニ益、發展スベキモノト認ム

九 海外移住組合聯合會カ組合員ノ移住  
ノ斡旋ヲ爲スヘキハ組合設立當初ノ計  
畫ナリシト雖モ右ハ相當ノ熟練ト經費  
トヲ要シ且ツ之カ即行ハ現地ニ於ケル  
諸般ノ關係上考量ヲ要スル點アリタル  
ニ依リ差當リ之ヲ海外興業株式會社ニ  
委託スルモ已ムヲ得サルモノト認メラ  
ル

十 組合員ノ渡航斡旋ハ財政上對外關係  
上並事務遂行ノ便宜上支障無キ限リ自  
テ之ヲ行フヲ可トスヘク組合設立當初  
ニ於テハ之カ計畫ヲ爲シタルモ爾後諸  
種ノ事情ニ因リ海外興業會社ニ委託シ  
居レルモ之必シモ組合法制定ノ趣旨ニ

反スルモノニハ非スト認ム

十一 海外移住組合聯合會カ組合員ノ渡  
航ノ斡旋ヲ爲サントスルハ組合設立當  
初ノ計畫ナルモ之カ實行ニ當リテハ細  
心ノ考量ヲ拂フヲ要スルニ鑑ミ關係在  
外公館長ニ於テモ現地ニ於ケル諸般ノ  
條件等ヲ篤ト考察シタル結果未タ其ノ  
時機ニ非サル旨ノ意見ヲ有シタルヲ以  
テ政府ニ於テモ大體之ヲ諒認セリ

十二 海外移住組合聯合會カブラジルニ  
對スル組合移民ノ誘入ヲ行フコト内外  
諸般ノ情勢上適當ナル時機ニ達スレハ  
必要ニ應シ相當盡力ヲ爲ス意嚮ナリ

十三 海外移住組合聯合會ノ監督ニ就  
テハ常ニ報告書ヲ徴シ若クハ職員ヲ派  
シテ實地監査ヲ爲シ遺憾ナキヲ期シツ  
ツアリ又海外移住組合聯合會伯國出張  
所ニ於ケル事業其他ノ監督ニ就テハ在  
外公館ノ外特ニ隨時派遣セル職員ヲシ  
テ嚴重ナル監査ヲ勵行セシメ居レリ

十四 聯合會ノ事業ハ遠隔ノ地ニ於テ經  
營スル爲事情ノ不明事業草創ノ際等ノ  
爲其ノ土地購入及其ノ處分並ニ管理ニ  
關シテ多少遺憾ノ點アルヲ認メ目下之  
カ刷新ニ努メツツアリ

十五 政府ハ海外移住者ニ對シ渡航費及  
手數料全廢報償金ヲ補助シ居ルモ必シ  
モ現在ノ狀況ヲ以テ満足セルニアラス  
將來積極的ニ海外移住ノ獎勵ヲ行ハン  
カ爲メ常ニ對策ノ講究ヲ怠ラズシテ時  
代ノ進運ニ適應シ適切ナル保護獎勵ノ  
方途ヲ講スルコトニ努メムトス

十六 海外興業株式會社ノ業績ハ必シモ  
政府ニ於テ満足シ居ルモノニアラス當  
ニ督勵シテ改善ニ努メシメツツアリ而  
シテ當初ヨリ同社ニ對シ補助シタル金  
額種類ノ合計左ノ如シ

海外興業株式會社補助金調 (自大正十 年至昭和五年十二月)	金 額
保護費	七七四、一五五
渡航獎勵費	八、三九一、六五三
渡航手續料全廢 報償金	一、四九八、六三〇
イグアペ、桂、レ ジストロ産業組 合助成費	三〇、〇〇〇
サンパウロ農事 實習場設置助成 費	三〇、〇〇〇
教育、衛生、産 業施設費補助	一三三、六〇一
合計	一〇、九五七、〇三九

右及答辯候也  
昭和六年三月十日  
外務大臣 男爵幣原喜重郎  
拓務大臣 松田 源治

航空ニ關スル質問主意書  
右成規ニ據リ提出候也  
昭和六年二月十日  
提出者 永田 良吉

航空ニ關スル質問主意書  
一 航空省設置ニ關スル政府ノ所見如何  
二 内地、臺灣連絡定期飛行ニ關スル政  
府ノ所見如何  
三 航空審議會開設ニ關スル政府ノ所見  
如何  
四 航空兵力充備ニ關スル政府、特ニ陸  
軍當局ノ所見如何  
五 特別大演習ニ於ケル航空兵力ノ少ナ  
キ理由如何  
六 國內及對外航空路開設ニ關スル政府  
ノ所見如何  
右及質問候也  
右答辯ハ口頭ヲ以テセラレムコトヲ望ム  
昭和六年三月十日  
内閣總理大臣 濱口 雄幸  
衆議院議長 藤澤義之輔殿

衆議院議員永田良吉君提出航空ニ關スル  
質問ニ對シ別紙答辯書差進候  
(別紙)

衆議院議員永田良吉君提出航空ニ關ス  
ル質問ニ對スル答辯書

一 航空行政機關ノ統一ニ關シテハ政府  
ニ於テモ夙ニ研究申ニシテ民間航空事  
業ノ獎勵指導等ハ既ニ遞信省ニ於テ又  
基礎的學理ノ研究ハ文部省ニ於テ統一  
セラレアルモ一般器材ノ製造及研究機  
關ノ統一ハ陸海軍民間各其ノ用途ニ  
從ヒ要求スル所異ルノミナラズ本邦ノ  
如ク陸海軍航空技術ノ個々ニ發達セル  
狀態ニ於テハ其ノ實施ニ付幾多困難ノ  
事情アリ從テ航空省設置ニ關シテハ猶  
慎重考究申ナリ

二 内地臺灣間ニ航空路ヲ設置シ定期航  
空ヲ實施スルハ内地交通ノ便益ヲ增  
進スルガ爲ニ極メテ肝要ナルハ言フ俟  
タザル所ニシテ政府ニ於テモ夙ニ考  
究申ナルガ之ガ爲ニハ相當ノ經費ノ支  
出ヲ要スルヲ以テ將來財政ノ許ス限リ  
可成速ニ其ノ實現ヲ期セムトス

三 航空事業ノ重要性ニ鑑ミ我國航空政  
策ノ確立ヲ圖ル爲航空ニ關スル調査審  
議機關ヲ設置スルコトニ關シテハ政府  
ニ於テ夙ニ考究中ニ屬ス

四 航空兵力ノ充實ニ關シテハ陸軍ニ於  
テモ之ガ實現ヲ急務トシ曩ニ大正十四  
年軍備整理ノ際可成大ナル整備ヲ爲シ  
タルモ猶所望ノ點ニ達セザルヲ以テ目  
下種々研究審議ヲ進メツツアリ而モ之  
ガ爲大ナル經費ヲ要スルニ拘ラズ國家  
財政ノ現況ハ今俄ニ之ニ要スル資ヲ國  
庫ニ要求シ得ザルヲ以テ種々之ガ對策  
ニ就キ研究中ナリ

五 幾許ノ航空兵力ヲ配屬スベキヤハ演  
習ノ目的及内容ニ關スル問題ナルヲ以  
テ一概ニ其ノ多寡ニ關シテ答辯スルコ  
トヲ得ズ

六 國內及國際航空線路ノ開設ヲ圖ルハ  
頗ル緊要ノ事項ナルヲ以テ政府ハ曩ニ  
我國主要幹線航空路タル東京大連間ニ  
定期航空路ヲ開設スルト共ニ國際航空  
路ノ開設ニ關シテハ既ニ當局者間ニ交  
渉中ノモノアリ其ノ他ノ國內線路或國  
際線路ノ開設ニ關シテモ夙ニ考究申ナ  
ルガ之ガ爲ニハ相當ノ經費ノ支出ヲ要  
スルヲ以テ將來財政ノ許ス限リ可成速  
ニ其ノ實現ヲ庶幾セムトス

右及答辯候也

昭和六年三月十日

陸軍大臣 宇垣 一成

外務大臣 男爵幣原喜重郎

逓信大臣 小泉又次郎

海軍大臣 男爵安保 清種

醫藥制度ノ大缺陷ニ關スル質問主意書  
右成規ニ據リ提出候也

昭和六年二月十日

提出者 鈴木梅四郎

醫藥制度ノ大缺陷ニ關スル質問主意書  
第一 日本帝國ノ醫藥制度ハ建國以來國  
家の社會的ニシテ歐米ノ如ク個人の營  
利的ニ非ザリシハ歴史ノ明示スル所ナ  
ル然ルニ現在ノ制度ハ全ク醫師ノ個人  
的營利的ニシテ百弊之ニ因テ起ル政府  
ハ建國以來ノ歴史ニ鑑ミ此ノ制度ニ根  
本的改革ヲ施スノ意思ナキカ

第二 日本ノ醫學醫術ハ最近非常ノ進歩  
ニシテ將ニ歐米ヲ凌駕セムトシ、病者負  
傷者ノ幸福古來ナキ所ナリ而シテ此ノ進  
歩ノ原因ハ建國以來斯道先人ノ獻身の  
努力ノ累積ト國家ノ厚キ獎勵ト將又全  
國民ノ此ノ莫大ナル獎勵費ヲ負擔シタ  
ル三箇條ニ歸スヘキモノナリ隨テ此ノ  
進歩シタル醫學醫術ノ恩惠ニ浴スヘキ  
ハ國民ノ階級ト貧富トノ別ナク一切平  
等タルヘキ筈ナリ然ルニ現制度ハ國民  
ノ約四分ノ一ニ過キサル富メル階級ト

國民ノ約十分ノ一ニ足ラサル健康保險  
ノ被保險人及施藥施療ヲ受クル貧民階  
級トノミ此ノ恩惠ニ浴シ殘ル四分ノ三  
弱ニ當ル大多數ノ國民ハ全ク此ノ恩惠  
外ニ排斥セラレ居レリ政府ハ此ノ現狀  
ヲ以テ果シテ其ノ當ヲ得タリト信スル  
ヤ否ヤ

第三 人命ノ大切ナルコトハ國民ノ貧富  
ヲ問ハズ正ニ同一ニシテ其ノ間一點ノ  
相違ナキハ何人モ之ヲ疑ハサル正義ナ  
リ然ルニ現行醫藥制度ハ事實ニ於テ富  
メル國民ト最下級ノ國民ノ生命ノミヲ  
重シトシ他ノ大多數ノ國民ノ生命ヲ見  
ルコト鴻毛ヨリモ輕シ否殆ト其ノ眼中  
ニナキカ如シ政府ハ人命尊重ノ此ノ正  
義ニ反スル行政上ノ此ノ大失態ヲ何ト  
見ルカ敢テ其ノ所見ヲ質ス

第四 現行醫藥制度ニ於テハ一家ニ一人  
ノ病者アリ一箇月醫者通ヒヲスレハ少  
クトモ六七十圓ヲ要シ不幸一箇月入院  
スレハ第三等室ニ入りテモ金三百圓ヲ  
要ス政府ハ日本國民大多數ノ生活程度  
ハ病氣、負傷ノ際シテ斯ル重キ負擔ニ  
堪ユルモノト信スルカ敢テ其ノ所見ヲ  
質ス

第五 現在ノ開業醫ハ堅キ醫藥トラスト  
ヲ作リテ貧民病者ノ應招ヲ拒絶シ生ク  
ヘキ病人ヲモ死セシムル場合少カラズ  
然ルニ此ノ點ニ關スル政府ノ取扱ハ極  
メテ不親切ニシテ醫師ヲ取締ルコト極  
メテ寬大ナルハ多數國民ノ最遺憾トス  
ル所ナリ政府ハ此ノ不都合ナル現象ニ  
對シテ果シテ如何ナル所見ヲ有スルカ  
序テ乍ラ敢テ最近三箇年間ニ於ケル醫  
師不應招ニ對スル制裁即チ其ノ罪跡ト  
其ノ罪人數ノ明示ヲ求ム

第六 日本國民ノ死亡者ノ約半數ハ病ム  
モ生前ニ醫師ノ診察ヲ受クル能ハス死  
後ニ於テ始テ醫師ノ檢診ヲ受ケテ其ノ  
埋葬ヲ許サル而モ此ノ憐ナル死亡者ノ

檢診料ハ貧者ニ取リテハ非常ニ高ク一  
種高率ナル死亡稅タルノ觀アリ政府ハ  
此ノ貧者ノミノ負擔スル高キ此ノ檢診  
料ニ對シテ果シテ如何ナル感ヲ抱カ  
敢テ其ノ所見ヲ質ス

第七 醫師ノ分布ハ非常ニ不均ニシテ大  
都會ニハ人口五百人ニ對シテ醫師一人  
ノ割合ナル所アルニ或地方ニ於テハ人  
口一萬人ニ四、五人ニ過キサル所アリ  
就中全國一萬二千ノ町村中ニ醫師ナキ  
モノ三千ニ及フ始末ナリ政府ハ斯ル分  
布ヲ以テ國民衛生ヲ十分ニ保護スルコ  
トヲ得ルト考フルヤ否ヤ

第八 人口五百人ニ對シテ醫師一人ノ分  
布ハ開業醫ニ取リテモ頗ル不利益ニシ  
テ此ノ中過半ハ悉ク生活困難ナリ隨テ治  
療上ニ種種ナル惡弊行ハレ或ハ一週間  
ニテ治シ得ヘキ病氣ヲ故意ニ數週ニ延  
長シ或ハ效果少キ高價ノ注射ヲ強要シ  
或ハ專門達ノ病者ヲモ之ヲ專門醫ニ紹  
介セス殆ト瀕死ノ際迄自己ノ病院ニ抑  
留シタル等ニテ本員ノ前議會質問ニ揭  
ケタル醫師ノ十五大罪ヲ現出スルニ至  
リテ社會民人ノ受クル害甚シキモノ  
アリ政府ハ此ノ事相ニ對シテ何等ノ責  
任感ナキカ敢テ其ノ所見ヲ質ス

第九 人口二千人又ハ二千五百人ニ對シ  
一人ノ醫師ハ都會地ニ在リテハ或ハ相  
當ノ數ナルヘキモ面積廣ク山河ヲ隔ツ  
ル交通不便ノ地方ニ於テハ實際醫師ノ  
乏シキヲ感スルコト醫師ナキニ同シ政  
府ハ此ノ現狀ニ對シテ如何ナル所見ヲ  
有スルカ其ノ說明ヲ求ム

第十 醫藥制度ノ此ノ大缺陷ヲ幾分ニテ  
モ緩和補助セムトシテ起リタル實費診  
療所設置ニ對スル政府ノ態度ハ常ニ醫  
師會ノ運動ニ制セラレテ専ラ抑壓主義  
ヲ實行セリ現ニ社團法人實費診療所ノ  
支部設置ノ請願書ハ大正十四年ニ提出  
セラレ居ルニ拘ラス内閣力三度更迭シ

年ハ七年ヲ關スレトモ握リ潰シトナリ  
テ今ニ其ノ儘ナルカ如キ其ノ一例ナリ  
政府ハ醫療社會化ノ叫ビ天下ニ囂囂タ  
ルノ今日尙斯ル態度ヲ正當ナリトスル  
ヤ否ヤ敢テ其ノ所見ヲ質ス

第十一 一昨年九月八王子市民カ相互診  
療組合ヲ作りテ八王子相互病院ヲ新設  
シ診察無料、普通開業醫ノ半額ノ藥價  
及治療費ニテ經營シ現ニ八百餘戸ノ  
組合員ヲ有シ今ヤ同市及其ノ近郊ニ於  
ケル有益ノ機關ト爲レリ然ルニ八王子  
市南多摩郡醫師會ハ之ヲ仇敵視シ雇備  
關係ニ在ル同病院ノ勤務醫師四人ニ對  
シ同所ノ藥價診察料ハ同組合ノ所定ニ  
シテ雇備醫師ニ何等關係ナキニ拘ラス  
同醫師會ノ規約タル最低藥價診察料ニ  
比シ半額ナルヲ理由トシテ規約違反ト稱  
シ百五十圓ノ罰金ヲ請求シテ其ノ醫師  
ヲ脅迫シ更ニ同理由ニテ醫師會員ト  
シテ當然保有スル役員ノ選舉權被選舉權  
剝奪ノ暴行ヲ加ヘ居レリ然ルニ此ノ暴  
狀ニ對シ監督官廳タル東京府知事及內  
務省衛生局長ニ對シ組合側ヨリ訴フル  
所アレトモ之ニ對シ東京府知事モ內務  
省衛生局長モ何等ノ所置ヲ施サス同醫  
師會ノ狂暴行爲ヲ看過シテ同病院在勤  
ノ醫師ノ迷惑ナル立場ニ對シテ何等同  
情ノ所置ヲ採ラサルハ事實ナリトス政  
府ハ今ヤ醫療社會化ノ聲天下ニ叫ハル  
ルニ方リ醫師會ノ監督上該醫師會ノ行  
動ヲ正當トスルモノナリヤ否ヤ敢テ其  
ノ所見ヲ質ス

第十二 鐵道省關係ノ從事員及其ノ家族  
ノ爲ニハ鐵道病院アリ警視廳關係ノ役  
員、警官及其ノ家族ノ爲ニモ亦特別ノ  
病院アリ何レモ廉價ニ容易ク病氣、負  
傷ノ場合ニハ直ニ醫藥ニ接シ居リ政府  
ハ之ニ對シテ相當ノ補助ヲ爲シ居レリ  
又民間ノ大會社ニ於テモ相當ノ病院ヲ  
有シ社員及其ノ家族ニ對シテ前同様に

診察待遇ヲ與ヘ居ルモノアリ醫師會ハ  
之ニ對シテ其ノ藥價診察料ニ付何等苦  
情ヲ謂ハス然ルニ市民自ラ費用ヲ出シ  
自ラ共同ノ病院ヲ設ケテ診療上ノ便宜  
ヲ圖ルニ對シテハ右ノ如キ暴行壓迫ヲ  
加フルモ政府カ何等ノ制裁ヲ加ヘサル  
ハ全ク全國民ノ要望スル醫療ノ社會化  
ヲ妨遏スルニ同シ政府ハ國民自ラ共同  
ノ病院ヲ作りテ醫療ノ便宜ヲ圖ラムト  
スルモノニ對シテハ國民衛生ノ爲ニ寧  
ロ之ヲ補助スルコトカ正當ナリト思フ  
況ヤ醫師會ノ暴行ヲ傍觀スルハ不當ナ  
リ政府ノ本件ニ關スル所見ヲ質ス

第十三 警視廳ニ於テハ人民自ラ出金シ  
テ其ノ機關病院ヲ作ルノ請願ニ對シテ  
ハ早速認可ヲ與ヘタルニ愛知縣廳ニ於  
テハ醫師ノ經營セサル病院即チ國民共  
同設立ノ病院ニ對シテハ醫師會ノ思惑  
ヲ遠慮シテカ容易ク認可ヲ與ヘス願書  
提出後半年間ニ互リテ今ニ何ノ音沙汰  
ナシ聞ク所ニ據レハ內務省衛生局長ニ於  
テハ醫師ノ運動ニ制セラレ醫師ニ非サ  
ル人ノ病院經營ヲ認可セサル論議モア  
ル由時代錯誤モ亦甚シト謂フヘシ政府  
ハ此ノ問題ニ對シテ如何ナル方針ヲ有  
スルヤ敢テ其ノ所見ヲ質ス

第十四 醫療社會化ノ獎勵ニ對シテハ政  
府部内ニ全然相容レサルニ方針アリ即  
チ逡信省ハ國民衛生上實費診療所ノ設  
立ヲ獎勵シ之ニ對シテ其ノ低利資金ヲ  
貸與セルモノノ件數十九件金額二百七  
十餘萬圓ニ達スルノミナラス省自身ノ  
直轄セル簡易保險ノ被保險人ニ對シテ  
ハ現ニ實費診療ヲ經營シツツアリ然ル  
ニ內務省衛生局長ハ前項ノ如ク實費診療  
所ノ設置ヲ防遏シツツアリ又同省內務  
省中ニテ社會局ハ逡信省同様ノ方針ヲ  
取りテ各地方ニモ之ヲ獎勵シツツアル  
ハ矛盾ノ甚キモノナリ之カ爲ニ各府  
縣ニ於テモ實費診療所ノ設立ニ關シ其

ノ衛生課ニ於テハ之ヲ防遏シ其ノ社會  
課ニ於テハ之ヲ獎勵シテ其ノ設立ヲ助  
ケツツアルノ奇觀ヲ呈セリ政府部内ノ  
此ノ相容レサル矛盾不統一ニ屬スル現  
實ノ事相ニ對シテ政府ハ如何ナル所見ヲ  
有スルヤ敢テ其ノ眞意ヲ質ス

第十五 已上ノ如キ大缺陷ヲ有スル醫藥  
制度ノ癘ラス直接ノ結果ハ眞ニ驚クヘ  
キモノアリ今其ノ重ナルモノヲ舉クレ  
ハ左ノ如シ

1 日本國民ノ死亡率ハ諸文明國ニ比  
シテ非常ニ高キコト

2 日本國民ノ平均生命ハ之ヲ諸文明  
國ニ比シ是亦非常ニ短命ナルコト

3 文明國ノ恥辱トスル傳染病即チ肺  
結核、腸「チブス」、赤痢、「トトラホー  
ム」ヲ始トシテ幾多ノ流行病ハ是亦  
文明國ニ見ルコト能ハサル程ノ多數  
病者ヲ有スルコト

4 特ニ最恥トヘキ癩病救療ノ如キ多  
年篤志ノ外國人ノ手ニ任セ日本ノ官  
民ハ殆ト傍觀的ノ態度ヲ取テ怪シマ  
ス最近 皇室ヨリ之カ爲ノ御下賜金  
ヲ頂キ始テ官民合同ノ癩豫防協會設  
立ノ舉ヲ見ルカ如キ言語道斷ノ事實  
アルコト

5 日本國民ハ世界文明國中第一ノ恐  
ルヘキ病蟲帶菌者ナリ現ニ文明國ヘ  
ノ入國ニ際シ我カ國民ハ常ニ侮辱的  
取扱ヲ受ケ居ルコト

政府ハ此等ノ事實ヲ何ト見ルカ敢テ衛  
生行政上ノ責任觀念如何ヲ質ス

第十六 更ニ此ノ制度ノ大缺陷ヨリ生ス  
ル間接ノ惡現象ハ特ニ恐ルヘキモノア  
リ今其ノ顯著ナルモノノミヲ舉クレハ  
左ノ如シ

1 國民ノ貧窮ニ陥ル原因ノ六割餘ハ  
疾病、負傷ニ基クコトハ獨逸ノ率先  
研究發表スル所ニシテ他文明國皆之  
ヲ承認シ居レリ日本帝國ニ於テモ近

年大阪府ノ調査ニテ貧困原因ノ七割  
ハ疾病、負傷ニ因ルコトヲ發表シ内  
外共ニ今ヤ確實明白ノ事實トナレリ  
故ニ此ノ制度ノ大缺陷ハ日本國民ヲ  
驅リテ年年歳歳貧民ニ陥入レツツア  
ルモノナリトノ結論ニ到達ス

2 國民多數カ疾病、負傷シテ直ニ醫  
藥ニ接スルコト能ハス所謂妻臥病床  
兒哭飢ノ境遇ニ陥ルニ至テハ千人中  
一、二ヲ除ク外ハ皆富豪階級、特權  
階級カ天下ノ名醫ヲ招致シテ直ニ醫  
藥ニ接スルノ事實ヲ目撃シテ自己ノ  
現在ト比較シ遂ニ失望落膽ノ末ニ憤  
懣ニ堪ヘス國家組織、社會組織ノ不  
公平ヲ呪フノ結果思想ノ惡化ヲ促ス  
ハ人情上自明ノ理ナリ政府ハ思想惡  
化ノ此ノ大原因ヲ忘レテ省ミス徒ニ  
枝葉末節ニ付テ彼是焦慮スルハ本末  
顛倒ノ措置ニ非サルカ政府ノ本問題  
ニ關スル所見ハ果シテ如何敢テ明答  
ヲ求ム

3 此ノ惡制度ノ爲ニ國民多數ノ健康  
不良ト爲ルノ結果ハ日本國民勤勞能  
率ノ低下トナリ凡ユル方面ノ事業ハ  
遠ク先進國ニ劣ルニ至ルヘキハ當然  
ニシテ日本ノ文化、日本ノ富強ノ發  
展ヲ妨害スルコト亦自明ノ理ナリ  
政府ハ此ノ點ニ付果シテ如何ニ考慮シ  
ツツアルカ敢テ其ノ所見ヲ質ス

ハ自明ノ理ナリ此ノ點ニ關スル政府ノ所見果シテ如何  
第十七 政治ノ要諦ハ國民ヲシテ一人モ其ノ所ヲ得サル者ナカラシムルニアルハ古今東西ノ定論ナリ日本帝國ハ建國已來皇室ノ御家憲トシテ此ノ點ハ特ニ重要問題トナリ歴代聖天子ノ常ニ敬慮ヲ憐マシ給ヘル所ナリ然ルニ此ノ惡制度ノ爲ニ大多數ノ國民ヲシテ已上記述ノ如ク困苦ニ呻吟セシムルハ果シテ善政ナリト信スルヤ否ヤ政府當局者ノ之ニ對スル責任感ハ如何敢テ其ノ明答ヲ要ム

第十八 日本帝國現在ノ此ノ惡制度ニ根本的革新ヲ斷行シ國民ノ各階級ヲ問ハス貧富ノ別ヲ論セス疾病ノ負擔ノ時ハ直ニ醫藥ニ接スルコトヲ得セシムルニ至ラハ日本國民ノ健康ハ遠カラズ世界一トナルヘシ日本國民ノ健康カ世界一トナレハ其ノ活動勤勞ノ能率モ亦隨テ世界一トナルヘシ日本國民ノ活動能率カ世界一トナラハ日本帝國ノ文學、技藝、産業、經濟ヲ始メトシテ海陸軍事ニ至ル迄百般ノ事業カ皆世界一トナルヘキコト亦自明ノ理ナリ日本帝國カ世界ノ平和、人類ノ幸福ニ對シテ其ノ第一線ニ立ツヘキ大經綸ハ先ツ醫藥制度ノ根本的革新ニアリト確信ス政府ノ之ニ對スル觀念ハ如何敢テ其ノ所見ヲ質ス

右第十七及第十八ノ二項ニ付テハ國家經濟ノ根本的大問題ナルカ故ニ總理大臣ノ答辯ヲ要求ス  
右及質問候也  
昭和六年三月十日  
内閣總理大臣 濱口 雄幸  
衆議院議長 藤澤幾之輔殿  
衆議院議員 鈴木梅四郎君提出醫藥制度ノ大缺陷ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

〔別紙〕  
衆議院議員鈴木梅四郎君提出醫藥制度ノ大缺陷ニ關スル質問ニ對スル答辯書  
第一 現在ノ醫藥制度ハ多年ノ經驗ヲ經テ實施セラレツ、アルモノナルガ故ニ之ニ對シ根本的變更ヲ加フルノ意思ナシ  
第二、第三、第四及第六 醫藥ノ普及ハ政府ノ銳意努力シツツアル所ニシテ或ハ公私治療機關ノ無料診療施設ヲ獎勵シ或ハ公共團體又ハ基礎鞏固ニシテ經營確實ナル公益法人ノ輕費診療施設ヲ助成スル等本趣旨ノ徹底ニ遺憾ナキヲ期シツツアリ

第五 正當ノ事由ナクシテ診療ノ需ニ應ゼザル開業醫師ニ對シテハ法令ノ定ムル所ニ依リ嚴ニ取締ヲ勵行シツツアリ最近三ヶ年間ニ於ケル醫師不應招ニ對スル制裁左ノ如シ  
昭和三年  
一不注意ニヨリ窒息死ニ至ラシメタル嬰兒ノ往診ヲ求メラレタルニ應ゼズ罰金二十圓ニ處セラレタルモノ一件  
昭和四年  
一妊婦腹痛ニ付往診ヲ需メラレタルモノニ應ゼズ罰金三十圓ニ處セラレタルモノ一件  
一午前十一時頃往診ヲ需メラレナガラ正當ノ事由ナクシテ應ゼズ罰金二十圓ニ處セラレタルモノ一件

第七、第八、及第九、醫師ノ分布ハ國民ノ保健衛生ニ重大ナル關係ヲ有スルヲ以テ常ニ考慮ヲ怠ラズ成績漸次見ルベキモノアリト雖モ尙將來一層ノ努力ヲ怠ラザルベシ  
第十、第十二、及第十四、輕費診療機關ニ付テハ動モスレバ弊害ノ隨伴シ易キ傾向アルニ鑑ミ相當調査ヲ嚴重ニ爲スト雖モ其ノ基礎鞏固ニシテ經營確實ナルモノニ付テハ之ヲ助成スルノ方針ヲ執リツツアリ  
第十一、八王子相互診療組合對八王子市南多摩郡醫師會トノ問題ハ目下民事案件トシテ裁判所ニ繫屬中ナルヲ以テ此際ニ付テノ意見ヲ發表シ難シ  
第十三、政府ハ病院ノ經營者ガ醫師ニ非ザルノ故ノミヲ以テ之ガ設立ヲ認可セザルノ意思ナシ  
第十五、一、死亡率ノ減少及平均壽命ノ延長ニ關シテハ國民本位ノ向上、醫藥ノ普及等ノ方法ニ依リ銳意其ノ目的達成ニ努メツツアリ  
一、各種傳染性疾患ノ豫防ニ關シテハ從來努力ヲ怠ラズ我國民ノ如キ生活狀態ニ於テ消化器系傳染病ノ豫防ハ甚ク困難ナルモ腸「チブス」ハ近時相當ノ減少ヲ示シ赤痢ニ付テハ一進一退ノ狀態ニアルモ著シキ蔓延ヲ見ズ結核、トラホーム、癩、花柳病等ノ慢性傳染性疾患ノ如キハ近年漸次其ノ減少ヲ示シツツアリ  
一、癩ノ豫防ニ關シテハ道府縣立及私立ノ療養所ニ對スル助成等ノ方法ニ依リ努力ヲ續ケツ、アリ最近國立癩療養所ノ新設ヲ見更ニ來年度ニ於テ草津癩療養地區ヲ設定スベク其ノ所要豫算ヲ提出中ナルヲ以テ其ノ施設ハ漸次普及整備スルモノト認メラル尙其ノ運用ヲ完全ナラシムベク本法ノ改正法案ヲ議會ニ提出中ナリ  
一、日本國民特ニ農村住民ノ間ニ蔓延セル寄生蟲病ニ關シテハ從來其ノ検査ヲ獎勵セル結果分布狀態判明シタルヲ以テ其ノ驅除ニ努ムルト共ニ根絶ノ方策ヲ講ズルノ必要アルヲ認メ本議會ニ寄生蟲病豫防法案ヲ提出シタル

第十六、疾病者ノ數ヲ減少シ以テ國民ノ福利ヲ増進センガ爲ニハ衛生思想ノ發達、疾病豫防機關ノ完備、治療機關ノ普及及國民體位ノ向上ノ必要ナルヲ認メ之カ徹底ニ付テハ常ニ努力ヲ拂ヒツツアリ  
第十七、病シテ醫藥給セザルモノ無カラシムルハ醫事衛生上最モ重要トスル處ニシテ其ノ目的ノ達成ニ付テハ不斷ノ努力ヲ傾注シツツアリ  
第十八、醫藥ノ普及徹底ヲ期シ國民健康ノ保持増進ヲ圖ルハ最モ緊要ノ事項ニシテ之カ制度ノ改善ニ付テハ常ニ考慮ヲ怠ラザルトコロナリ  
右及答辯候也  
昭和六年三月十日  
内閣總理大臣 濱口 雄幸  
內務大臣 安達 謙藏

健康保險法ノ實施ニ關スル質問主意書  
右成規ニ據リ提出候也  
昭和六年二月十六日  
提出者 鈴木梅四郎  
健康保險法ノ實施ニ關スル質問主意書  
第一 保險醫ノ被保險者ニ對スル不當行為ノ監察ヲ主トシテ其ノ醫藥受負ノ主體タル日本醫師會ニ託スルノ制度ハ宛モ政府ノ工事ヲ受負ハセタル受負人ニ其ノ工事監督ヲ託スルト同様ニシテ行政上甚シキ失當ノ措置ナリト信ス政府ノ所見如何  
第二 保險醫ノ不當行為監督ニ關シ第五十八回議會ニ於ケル政府ノ答辯ハ左ノ如シ  
保險醫ノ被保險者ニ對スル不當行為ニ對シテハ日本醫師會ハ契約ニ基キ常ニ監督ヲ爲シツツアルモノ一方政府ニ於テモ各府縣ニ醫師タル技術官或ハ囑託ヲ夫々配置シ技術上ノ監督ヲ爲スノ外視察員ナル職員ヲ設置シ隨時保險醫ノ診療所ヲ巡回セシメ診療

健康保險法ノ實施ニ關スル質問主意書  
右成規ニ據リ提出候也  
昭和六年二月十六日  
提出者 鈴木梅四郎  
健康保險法ノ實施ニ關スル質問主意書  
第一 保險醫ノ被保險者ニ對スル不當行為ノ監察ヲ主トシテ其ノ醫藥受負ノ主體タル日本醫師會ニ託スルノ制度ハ宛モ政府ノ工事ヲ受負ハセタル受負人ニ其ノ工事監督ヲ託スルト同様ニシテ行政上甚シキ失當ノ措置ナリト信ス政府ノ所見如何  
第二 保險醫ノ不當行為監督ニ關シ第五十八回議會ニ於ケル政府ノ答辯ハ左ノ如シ  
保險醫ノ被保險者ニ對スル不當行為ニ對シテハ日本醫師會ハ契約ニ基キ常ニ監督ヲ爲シツツアルモノ一方政府ニ於テモ各府縣ニ醫師タル技術官或ハ囑託ヲ夫々配置シ技術上ノ監督ヲ爲スノ外視察員ナル職員ヲ設置シ隨時保險醫ノ診療所ヲ巡回セシメ診療

上ノ不當行爲ノ無之業當時注意ヲ爲シツツアリ

右答辯ノ如キ方法ニテハ保險醫ノ監督ハ事實上名ノミノ監督ト爲ルヘキハ事

1 以上ノ各監督者即チ日本醫師會、醫師タル技術官、囑託又ハ視察員ニ依リテ發見サレタル該法實施以來ノ保

2 第五十八回議會ニ於ケル政府ノ答辯ニテ不當行爲ノ爲ニ被告又ハ除名

第三 政府カ健康保險ノ診療ヲ日本醫師會ノ一手專賣トスルコトハ理論上ヨリ

第四 保險診療ヲ一手專賣ニ引受ケ居ル日本醫師會所屬ノ保險醫ハ多ク個人醫

科、耳鼻咽喉科、眼科、泌尿科、婦人科、産科等ニ相關聯スルモノ少カラス

此ノ萬屋ノ一醫師カ各科専門ノニ大進歩ヲ爲シ居レル今日其ノ治療上ノ技

第五 今日ノ醫術ハ大ニ進歩シテ光線、太陽燈ヲ始メテシテ治療上病原菌又ハ病理

第六 健康保險醫ノ多數ハ個人開業醫ニシテ規定ノ藥價、診察料ヲ拂フ普通患者

第七 政府カ保險醫ノ不當行爲ヲ監察スル上ニ於テモ各個ノ開業醫ニ對シテ之

第八 日本醫師會ニ一手專賣ノ爲ニ被保險者ハ公私立ノ最完備シタル各科綜

合病院又ハ同上公益法人病院ニ付日進

醫藥ノ恩惠ニ浴スルコトヲ得ス公私立又ハ公益法人ノ最進歩シタル綜合病院

第九 政府ハ健康保險診療ヲ日本醫師會ノ一手專賣ト決定シタルカ故ニ醫師會

第十 政府カ日本醫師會ニ一手專賣ヲ爲セシ結果ニ基キ自ラ大ニ不利ニ陥リタ

ニテ非常ノ減少ヲ來シ居ルニ今年度ハ昨年度ヨリモ更ニ甚シキ減少ヲ來シ救

護法ノ實施スラ財源ナキ爲不可能ナル現狀ナレハ政府ハ昭和六年度ノ契約ニ

際シ過去ニ於ケル日本醫師會ノ壓迫ニ依リテ不當ニ直上サセラレタル診療費

ハ此ノ機會ニ於テ診療費ノ下落ニ基キ大削減ヲ加ヘ斷乎トシテ之カ直下ヲ實

行スヘキ立場ニアリト信ス政府ハ此ノ問題ニ付過去ノ事實ニ鑑ミ如何ナル對

策ヲ有スルカ敢テ其ノ所見ヲ質ス

會ノ爲スカ儘ニ放任セラルカ如シ右ハ如何ナル理由ニ依ルカ敢テ其ノ所見ヲ質ス

第十一 健康保險醫ノ多數ハ個人開業醫ナルカ故ニ其ノ藥局ニ藥劑師ヲ置カス其ノ妻女、下女又ハ車夫ヲシテ調劑セシムルモノ少カラス政府ハ斯ル醫師ニ保險醫ヲ依託シテ果シテ安心ナリト信スルカ

第十二 醫藥分業ハ別トシテ一般開業醫ニ對シ其ノ藥ノ調劑ハ必ス藥劑師ヲタルヘカラストノ禁令ヲ發スルハ差當リ姑息ナカラ國民衛生上正當ニシテ且必要ナリト信ス本件ニ關スル政府ノ所見如何

第十三 政府ハ常ニ日本醫師會ノ利益ヲ圖ルニ偏シ藥劑師會ノ爲ニ同情ナントノ批難アリ特ニ健康保險法ノ實施ニ當リ此ノ傾向顯著ナルモノアリ之カ爲ニ日本藥劑師會中ニハ地方ニ依リ已ニ同法ノ調劑ヲ辭退スルノ決議ヲ爲セシモノアリ今ヤ全國藥劑師會ノ大問題ト爲リ居レリ若シ藥劑師會ヲ結束シテ其ノ調劑ヲ辭退シタリトセハ政府ハ健康保險法ノ實施上其ノ調劑ハ全ク藥劑師ノ手ヲ絶チテ之ヲ醫師ニ一任シ醫師ノ妻女、下女又ハ車夫ヲシテ實際調劑セシムルノ危險ヲ如何ニセムトスルカ敢テ政府ノ所見ヲ質ス

右及質問候也

昭和六年三月十日  
内閣總理大臣 濱口 雄幸  
衆議院議長 藤澤 幾之輔  
衆議院議員 鈴木梅四郎君提出健康保險法ノ實施ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

〔別紙〕  
衆議院議員 鈴木梅四郎君提出健康保險法ノ實施ニ關スル質問ニ對スル答辯書

第一 保險醫ノ被保險者ニ對スル健康保險法上ノ不當行爲ノ取締ハ政府直接之ヲ行ヒ日本醫師會ノ監督ニ委スル様ノコトナシ而テ日本醫師會ニ於テ行ヒツツアル保險醫ノ監督ハ契約者トシテ義務ノ不履行ヲ妨ク意味ニ於ケルモノニ過キス

第二 保險醫ノ不當行爲ノ明細別表ノ如シ

第三 健康保險ノ診療ハ獨リ日本醫師會ノミニ委嘱スルニ非スシテ官公立大學附屬醫院及道府縣所在ノ公立病院トモ契約ヲ締結シ被保險者ノ診療ニ支障ナカラシムル様努メツツアリ而テ大體現狀ヲ以テ其ノ診療ニ付キ支障ナキモノト思量シツツアルヲ以テ差當リ醫師會員タル醫師ノ所屬スル法人ト別個ニ契約ヲ爲ス必要ヲ認メサルナリ

第四 何レノ保險醫ノ診療ヲ受クルカハ全ク被保險者ノ自由ニシテ其ノ疾病ノ如何ニ依リ夫々專門醫ノ診療ヲ受クルコトヲ得且ツ二以上ノ疾病アル者ハ療養證明書ニ依リ他ノ適當ノ醫師ヲ之亦選擇シ得ルヲ以テ被保險者ノ診療ニ支障ヲ來スカ如キコトナント認ム、又一方官公立大學附屬醫院及公立病院トモ契約ヲ締結シツツアルヲ以テ診療上遺憾ナキヲ期シ得ルモノト認ム

第五 進歩セル醫療機械ハ一般保險醫ノ病院並ニ醫院ニモ夫々相當設備セラレ診療上支障ナント認ムルモ尙政府ハ前述ノ如ク官公立大學附屬醫院及公立病院トモ契約ヲ爲シ診療組織ノ完備ヲ期シツツアリ

第六 保險醫カ被保險者ヲ差別的取扱ヲ爲ス點ニ關シテハ政府ハ法施行當初ヨリ嚴ニ之ヲ取締リ現在ニ於テハ相當效果ヲ示シツツアリト認ムルモ將來共此ノ點ニ留意シ十分ノ努力ヲ致スヘシ

第七 保險醫ノ不當行爲ノ取締ニ關シテハ何分共保險醫多數ナル爲メ多少遺憾

ノ點ナキニ非サルモ監督職員ヲ設置シ其ノ他豫算ノ許ス範圍ニ於テ其ノ萬全ヲ期シツツアリ

第八 政府ハ前述セル如ク所謂各科綜合ノ各官公立大學附屬醫院、公立病院及日本醫師會ヲ通シ私立病院ニ於テ被保險者ノ診療ニ當ラシメツツアルヲ以テ診療上支障アリトハ認メス

第九 日本醫師會、日本齒科醫師會、日本藥劑師會、官公立大學及公立病院等ニ對スル昭和六年度ノ契約ニ關シテハ著々交渉中ニ屬ス御質問ノ主旨ニ付キテハ政府トシテモ十分考慮スル所アルヘシ

第十 健康保險組合ノ診療組織ニ關シテハ診療組織整備標準ヲ制定シ組合管掌被保險者ト政府管掌被保險者トノ間ニ診療上ノ差違ヲ生セシメサルコトニ努メ常ニ監督ヲ爲シツツアリ、其ノ診療組織ニ付何等傍觀ノ態度ヲ持シタルカ如キコトナキモノト思料ス

第十一 醫師ハ其ノ診療スル患者ニ限り自ら調劑ヲ爲スコトヲ得ルヲ以テ自己

ノ醫局ニ藥劑師ヲ置ク醫師ノミヲ保險醫トシテ指定スルノ必要ナシ

第十二 前項ノ如ク醫師ハ其ノ診療スル患者ニ限り自ら調劑ヲ爲スコトヲ得ルヲ以テ一般開業醫ニ對シ調劑ハ藥劑師ヲラサル可カラストノ禁令ヲ發スルコト能ハス

第十三 健康保險ノ診療組織トシテハ醫師、齒科醫師及藥劑師ト契約スルヲ以テ其ノ完壁ト信ズルカ故ニ政府ハ昭和六年度ノ藥劑支給ニ關シ過般來日本藥劑師會當局者ト交渉ヲ進メツツアルモ現在ニ於テハ遺憾ナカラ契約締結困難ナル狀勢ナリ然レトモ政府ハ今後トモ契約締結方交渉ヲ續クル考ナリ、萬一日本藥劑師會側ニ於テ契約締結ヲ拒絶スルニ於テハ適當ニ法規ノ認ムル範圍ニ於テ藥劑師ニ調劑セシムル方法ヲ講セントス

右及質問候也  
昭和六年三月十日  
内務大臣 安達 謙藏

保險醫ノ不當行爲明細表 (其ノ一)

發見者 昭和二年度

道府縣別	件數	發見者	事故ノ内容	備考
北海道	一		診療報酬ノ不當請求一	
大 阪	六		診療報酬ノ不當請求一 診療費ノ一部又ハ全部ヲ被保險者ヨリ直接收受シタルモノ五	
長 崎	一		診療報酬ノ不當請求一	
栃 木	一		診療報酬ノ一部又ハ全部ヲ被保險者ヨリ直接收受シタルモノ一	
奈 良	一		同	
愛 知	三		診療報酬ノ不當請求一 診療費ノ一部又ハ全部ヲ被保險者ヨリ收受シタルモノ二	
長 野	四		診療報酬ノ不當請求四	

政府及道府縣醫師會ト協同ニテ發見セルモノナリ

宮城	一	一	勞務不能ノ意見ニ虚偽アリ又ハ適正ナラサルモノ
岩手	一	一	同
福井	一	一	同
愛媛	四	四	診療報酬ノ一部又ハ全部ヲ被保險者ヨリ直接收受シタルモノ
大分	二	二	診療ヲ拒絶シタルモノ
熊本	四	四	診療報酬ノ一部又ハ全部ヲ被保險者ヨリ直接收受シタルモノ
宮崎	二	二	診療報酬ノ一部又ハ全部ヲ被保險者ヨリ直接收受シタルモノ
計	三二	三二	
道府縣別	件數	發見者	昭和三年度
北海道	六	六	診療報酬ノ一部又ハ全部ヲ被保險者ヨリ直接收受シタルモノ
東京	一七	一七	診療報酬ノ一部又ハ全部ヲ被保險者ヨリ直接收受シタルモノ
大阪	一〇	九	診療報酬ノ一部又ハ全部ヲ被保險者ヨリ直接收受シタルモノ
神奈川	三	二	診療報酬ノ一部又ハ全部ヲ被保險者ヨリ直接收受シタルモノ
兵庫	二	二	診療報酬ノ一部又ハ全部ヲ被保險者ヨリ直接收受シタルモノ
長崎	一	一	請求書又ハ報告書ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタルモノ
埼玉	一	一	診療報酬ノ一部又ハ全部ヲ被保險者ヨリ直接收受シタルモノ
千葉	五	五	診療報酬ノ一部又ハ全部ヲ被保險者ヨリ直接收受シタルモノ

茨城	一	一	同
栃木	一	一	同
奈良	二	二	診療報酬ノ一部又ハ全部ヲ被保險者ヨリ直接收受シタルモノ
三重	八	八	診療報酬ノ一部又ハ全部ヲ被保險者ヨリ直接收受シタルモノ
愛知	一	一	同
静岡	一	一	同
福島	一三	一三	診療報酬ノ一部又ハ全部ヲ被保險者ヨリ直接收受シタルモノ
長野	一	一	診療報酬ノ一部又ハ全部ヲ被保險者ヨリ直接收受シタルモノ
徳島	二	二	診療報酬ノ一部又ハ全部ヲ被保險者ヨリ直接收受シタルモノ
愛媛	九	九	診療報酬ノ一部又ハ全部ヲ被保險者ヨリ直接收受シタルモノ
福岡	四	四	診療報酬ノ一部又ハ全部ヲ被保險者ヨリ直接收受シタルモノ
佐賀	一	一	同
熊本	一	一	同
鹿兒島	五	四	診療報酬ノ一部又ハ全部ヲ被保險者ヨリ直接收受シタルモノ
計	九五	八九	
道府縣別	件數	發見者	昭和四年度
北海道	一	一	診療報酬ノ一部又ハ全部ヲ被保險者ヨリ直接收受シタルモノ
東京	二	二	診療報酬ノ一部又ハ全部ヲ被保險者ヨリ直接收受シタルモノ
京都	一	一	診療報酬ノ一部又ハ全部ヲ被保險者ヨリ直接收受シタルモノ





〔別紙〕

衆議院議員松井文太郎君外三名提出人  
造絹絲輸入關稅並外國製人絹使用目的  
ノ保稅工場特許ニ關スル質問ニ對スル  
答辯書

一 人造絹ノ現行關稅ハ高率ニ失スルモ  
ノト認メラルルヲ以テ政府ハ之方引下  
ヲ行フコトトシ其ノ改正案ヲ議會ニ提  
出シタリ

二 保稅工場制度ノ目的ハ輸出品ニ對シ  
關稅ヲ徵セシテ輸出貿易ノ振興ヲ圖  
ルニ在ルモ一面保稅工場ノ設置カ内地  
ノ産業ニ及ス影響ニ付考慮スルノ要ア  
ルヲ以テ本件保稅工場ノ特許ニ付テハ  
慎重考慮ノ要アルモノト認ム

昭和六年三月十日

大藏大臣 井上準之助  
商工大臣 依 孫一

新聞記者ノ資格制定ニ關スル質問主意  
書

右成規ニ據リ提出候也  
昭和六年二月十四日

提出者 飯村 五郎  
新聞記者ノ資格制定ニ關スル質問主意  
書

新聞記者ハ所謂社會ノ木鐸タリ而シテ社  
會一切ノ批評家ナリ記者ノ一言一句ハ即  
チ輿論ノ聲トナリ世道人心ニ影響スル所  
洵ニ甚大ナリト謂フヘシ思想國難ヲ高唱  
力説セラルル今日殊ニ其ノ然ル所以ヲ痛  
感セラルル得ス國家社會ノ公安秩序進歩  
發達幸福ト極メテ密接絶大ノ關係ヲ有ス  
ル新聞記者ノ業務重且大ナリト謂フヘシ  
實ニ新聞記者ハ無名ノ社會教育家ナリ指  
導者ナリ無名ノ裁判官ナリ故ニ新聞記者  
ノ人格如何學識經驗如何品性見識如何ハ  
直ニ以テ社會國家ノ進歩繁榮ニ影響スル  
ヤ論ヲ俟タス依テ新聞記者ノ資格認定ニ  
關スル設定ヲ設クルハ即チ國家社會ノ進

步發達幸福ヲ増進スル所以ニシテ國家ノ  
須要且緊急ノ一事業ナリト確信スルモノ  
ナリ然ルニ是ニ關シ何等ノ規定ナン天下  
何人ト雖新聞記者タリ得サル者ナキ現狀  
ナリ辯護士ニ辯護士法計理士ニ計理士法  
醫師ニ醫師法アリ其ノ他現今社會ノ公地  
位ハ何レモ夫レ夫レ相當ノ資格ニ待タサ  
ルハナン

國家社會ノ公安秩序進歩發達ト極メテ密  
接且絶大ノ關係ヲ有スル新聞記者ノ資格  
ニ付何等ノ規定存セサルハ吾人其ノ理ヲ  
解シ能ハサル所ナリ

政府ハ速ニ新聞記者ノ資格認定ニ關スル  
適當ナル法令ヲ制定スルノ意ナキヤ政府  
ノ所見如何  
右及質問候也

昭和六年三月十日

内閣總理大臣 濱口 雄幸  
衆議院議長 藤澤 義之輔

衆議院議員飯村五郎君提出新聞記者ノ資  
格制定ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差  
進候

〔別紙〕

衆議院議員飯村五郎君提出新聞記者ノ  
資格制定ニ關スル質問ニ對スル答辯書

新聞紙ハ社會ノ公器ニシテ之ニ携ハル新  
聞記者ノ素質及舉措如何ハ以テ國家ノ公  
安秩序、社會ノ進歩發達ニ至大ノ影響ヲ  
有スルヤ論ヲ俟タズ而シテ近時新聞紙ノ  
數漸次多キヲ加ヘ新聞記者ノ數亦從テ著  
シク増大シ其ノ社會ニ及ボス影響亦益々重  
大ナラムトスルヲ以テ之ニ一定ノ資格  
ヲ設ケムトスルモ亦理由ナキニアラザル  
ヘシ。然レドモ新聞記者ノ業務ハ辯護士  
計理士及醫師等ト異リ政治、經濟、社會  
等其ノ範圍極メテ廣汎ニ互ルヲ以テ其ノ  
資格ノ如キ國家ニ於テ之ヲ公認スルハ極  
メテ容易ナラザルモノナリ、元ヨリ辯護  
士、計理士及醫師等ニ於ケルガ如ク國家  
試験又ハ資格檢定等ノ方法ニ依ルガ如キ

一案タルヲ失ハズト雖尚考慮ノ餘地アル  
問題ナリ。事ハ寧ロ國家直接ノ關與ヲ避  
ケ新聞關係者ノ自發的努力ニ俟ツヲ以テ  
妥當トスベキガ如シ

衆ニ政府ヨリ出版法改正ノ根本方針ニ付  
諮問ヲ受ケタル警保委員會ノ答中ニ於テ  
新聞協會ノ設立ヲ公認シ新聞記者ノ資格  
缺格ニ關スル事項ノ審査決定ヲ以テ其ノ  
事業ノ一トナセルガ如キ亦此ノ趣旨ニ出  
ヅルモノト認メラル

新聞記者ノ資格認定ノ問題ハ事極メテ重  
大ナルヲ以テ政府ニ於テハ如上ノ諸點ヲ  
考慮シ目下慎重調査考究中ニ屬ス  
右及答辯候也

昭和六年三月十日

内務大臣 安達 謙藏

提出者 松實喜代太  
北海道拓殖ニ關スル質問主意書

一 政府ハ第五十八回議會終了直後第五  
十八回議會ニ於テ決定セシ昭和五年度  
北海道拓殖費豫算二千七百三萬圓ヨリ  
百八十萬圓ヲ減シテ二千五百十五萬餘  
圓ト變更セリ然ルニ此ノ豫算額タルヤ  
昭和二年一月若槻内閣ニ於テ決定セル  
北海道拓殖費ニ關スル閣議決定事項ニ  
基キタル財源ナリ即チ前記閣議決定事  
項中ニ

第二項 北海道内ニ於ケル前年度一般  
會計歳入豫算(内務、大藏、司法、文  
部、農林、商工及逓信各省ノ收入ヲ  
謂フ)ト北海道拓殖費ヲ除キタル歳  
出豫算(内務、大藏、司法、文部、農  
林、商工及逓信各省ノ支出ヲ謂フ)  
トヲ比較シ其ノ歳入超過額ヲ標準ト  
シテ毎年度ノ拓殖費ノ財源ト爲スコ  
ト

第三項 前項ノ歳出豫算ニ對シ決算上

豫定外ニ増減ヲ生シタルトキハ後  
年度ニ於テ拓殖費ノ財源ヲ増減ス  
ルコト

第四項 前二項ニ依リ生シタル財源  
ノ範圍内ニ於テ毎年度豫算編成ニ  
當リ拓殖費豫算ヲ決定スルコト

第七項 國家事變ニ際シ國庫ニ於テ  
一時多額ノ支出ヲ要スル場合ニ於  
テ其ノ間ニ限り國庫支出金額ニ關  
スル前各項ノ規定ニ依ラサルコト  
アルヘキコト

ト規定シ國家事變ニ際シ國庫ニ於テ一  
時多額ノ支出ヲ要スル場合ニ非サル限  
リ第二項及第三項ニ依ル財源内ノ支出  
ニ對シテハ一指モ染メサルヘキヲ明舉  
シテ保障ヲ與ヘタル財源ナリ政府ハ如  
何ナル理由ニ依リ此ノ保障ヲ無視シテ  
若槻内閣閣議決定事項ヲ一片ノ空文ニ  
歸セシメ百八十八萬圓ヲ削減シタルカ

二 北海道ハ將來拓殖完成ノ曉ニハ人口  
一千萬以上ヲ包容シ得ヘク又農産、水  
産、畜産、林産、工業、鑛産等ノ生産總額  
ハ二十億圓以上ニ達スヘク帝國ノ國富増  
殖ノ上ニ於テ人口食糧問題ヲ解決スル  
上ニ於テ將又我カ國ノ直面セル經濟國  
難打開ノ上ニ於テ寄與スル所甚大ナル  
ヘキハ論ヲ俟タサルナリ然ルニ此ノ寶  
庫ヲ開發スヘキ現拓殖計畫ハ其ノ規畫  
消極ニ失スルノミナラス其ノ財源常ニ  
不足ヲ生シ豫定ノ事業ヲ遂行スル能ハ  
ス拓殖ノ行程遲延トシテ進マサルハ吾  
等深甚ノ遺憾トスル所ナリ前内閣ハ此  
ニ見ル所アリ北海道拓殖調査會ヲ設ケ  
調査研究ヲ遂ケ以テ適切ナル改訂ヲ爲  
サムカ爲第五十六回議會ニ於テ之カ經  
費ヲ請求シ兩院亦之ヲ可決シ豫算ハ成  
立シタリ然ルニ現内閣ハ何ノ見ル所ア  
リテカ組織忽忽其ノ經費ヲ削減シ調査  
會ノ設置ヲ廢止セルノミナラス昭和四  
年度豫算二千八百二十三萬七千餘圓ニ

對シ實行豫算ト稱シ百三十五萬餘圓ヲ削減セリ而シテ昭和五年度ハ前年度實行豫算ニ僅ニ十八萬圓ヲ增加シテ二千七百三萬九千餘圓ヲ第五十八回議會ニ提出シ協賛ヲ經タリト雖前記ノ如ク百八十八萬圓ヲ削減シテ二千五百十五萬餘圓ト爲セリ斯ノ如クニシテ實際ノ拓殖費ハ拓殖計畫ノ豫定事業費ニ比スレハ昭和四年度ニ於テ百八十八萬九千餘圓、同五年度ニ於テ四百九十七萬五千餘圓ノ減額ナリ加之同六年度豫算即チ今期議會ニ提出ノ豫算ハ二千四百四萬千八百九十二圓ニシテ豫定事業費ニ比スレハ實ニ七百八十一萬五千七百圓ノ減少ナリ政府ハ此ノ如キ措置ヲ以テ北海道拓殖遂行上支障ナキモノト認ムルヤ又今期議會提出ノ拓殖費豫算額二千四百四萬餘圓ノ數字上ノ基礎ハ何ニ根據ヲ有スルヤ而シテ又政府ハ今尙拓殖調査會設置ノ必要ナシト認ムルヤ右及質問候也

昭和六年三月十日

內閣總理大臣 濱口 雄幸

衆議院議長 藤澤幾之輔殿

衆議院議員 松實喜代太君提出北海道拓殖ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

〔別紙〕

衆議院議員 松實喜代太君提出北海道拓殖ニ關スル質問ニ對スル答辯書

一 昭和五年度北海道拓殖費ハ同年度豫算不成立ノ結果當初實行豫算二千六百八十五萬九千九百二十一圓追加豫算十八萬圓合計二千七百三萬九千九百二十一圓ヲ施行スルコトトシタルモ其ノ後一般歳入ノ狀況並物價低落ノ實勢等ニ鑑ミ右金額ノ内ヨリ百八十八萬四千七百七十三圓ヲ削減スルコトトシタリ而シテ右節減額ハ昭和五年度ニ於ケル歳入ノ減少ニ對應スルモノナルモ他日決算ノ結果ニ依リ歳入ニ剩餘ヲ生シタル場合

ニ於テハ後年度ノ財源ニ使用セシムルモノナルヲ以テ昭和二年ノ閣議決定ヲ無視シタルモノニアラス

二、曩ニ大正十五年ニ於テ政府ハ北海道拓殖計畫ヲ樹立スルニ當リ特ニ拓殖計畫調査會ヲ設置シテ其ノ意見ヲ徵スル所アリ該計畫ヲ遂行ニ關シ最近財界不況ノ結果拓殖費財源ニ影響スル所少カラサルモノアルハ甚ク遺憾トスル所ナリモ計畫實施後未ク數年ヲ出テサルノミナラス財政ノ現狀亦已ムヲ得サルモノアルニ鑑ミ昭和四年度豫算ノ實行ニ當リテハ拓殖計畫調査會ノ設置ハ之ヲ見合セタルモ拓殖事業ノ進捗ニ關シテハ政府ハ目下之カ対策講究中ニ在リ尙昭和六年度拓殖費豫算財源ハ左ノ如シ

(一) 昭和五年度歳入歳出實行豫算ニ於ケル歳入超過額 二一、六六二、九二〇圓

(二) 昭和四年度決算剩餘額 一、二二五、五九圓

(三) 昭和四年度北海道外法入收入額 二、二五六、四一三圓

合計 二四、〇四一、八九二圓

右及答辯候也

昭和六年三月十日

大藏大臣 井上準之助

內務大臣 安達 謙藏

天皇ノ大權國體觀念軍人精神並政治上ノ原則ニ關スル質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

昭和六年二月十九日

提出者 松實喜代太

天皇ノ大權國體觀念軍人精神並政治上ノ原則ニ關スル質問主意書

一 我カ國體上將又憲法上我カ國ノ政治ハ天皇中心タルハ炳乎トシテ瞭ナリ然ルニ立憲民政黨ノ綱領第一項ニ「國民ノ總意ヲ帝國議會ニ反映シ 天皇統治ノ下ニ議會中心政治ヲ徹底セシムヘ

シ」トアリ此ノ綱領ノ議會中心政治ヲ徹底セシムルコトハ 天皇中心政治ニ抵觸シ國體ニ背反シ憲法上ノ大權ヲ空カ濱口內閣總理大臣並各國務大臣ノ所見ヲ問フ

二 前掲立憲民政黨ノ綱領ニ依ル議會中心政治ヲ徹底セシムヘト謂フコトハ 皇室中心主義ヲ精神トスル軍人精神ト相反セルニ非サルカ而シテ又陸海軍ノ統率ハ 天皇ノ大權ニ屬スルコトハ憲法ノ條章ニ明ナル所ニシテ立憲民政黨ノ綱領ハ此ノ條章ニ反スルニ非サルカ然ルニ議會中心政治ヲ綱領トスル立憲民政黨總裁ヲ首班トスル内閣ノ閣員ニ列スルハ如何ナル理由ナリヤ宇垣陸軍大臣安保海軍大臣ノ所見ヲ問フ

三 我カ憲法ニ依レハ宣戰講和條約締結ハ 天皇ノ大權ニ屬スルコトハ明々白々ナリ然ルニ立憲民政黨ノ綱領ノ如クハ此ノ憲法ノ條章ニ相反スルニ非サルカ而シテ又斯ノ如キヲ綱領トスル立憲民政黨總裁ヲ首班トセル内閣ノ閣員ニ列スルハ如何ナル理由ナリヤ幣原外務大臣ノ所見ヲ問フ

四 我カ國ノ政治ハ司法行政立法ノ三權分立ノ原則ニ依テ對立シ而シテ裁判所ノ權ハ 天皇ノ大權ニ屬スルコトハ憲法ノ條章ニ明ナル所ナリ然ルニ前掲立憲民政黨ノ綱領ノ如ク議會中心政治ヲ徹底セシムルコトハ此ノ原則ヲ無視シ憲法ノ條章ニ反スルニ非サルカ而シテ又斯ノ如キヲ綱領トスル立憲民政黨ノ總裁ヲ首班トスル内閣ノ閣員ニ列スルハ如何ナル理由ナリヤ渡邊司法大臣ノ所見ヲ問フ

右及質問候也

昭和六年三月十日

內閣總理大臣 濱口 雄幸

衆議院議長 藤澤幾之輔殿

衆議院議員 松實喜代太君提出 天皇ノ大權國體觀念軍人精神並政治上ノ原則ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

〔別紙〕

衆議院議員 松實喜代太君提出 天皇ノ大權國體觀念軍人精神並政治上ノ原則ニ關スル質問ニ對スル答辯書

一 政府ハ立憲民政黨綱領第一項ニ「國民ノ總意ヲ帝國議會ニ反映シ 天皇統治ノ下ニ議會中心政治ヲ徹底セシムヘシ」トアルハ其ノ言葉ノ示ス如ク 天皇統治ノ下ニ於テ政治上ノ主義トシテ議會ヲ通ジテ現ハルル民意ヲ尊重スベキコトヲ述ブルモノニシテ質問者ノ言ニ係ル如キ 天皇中心政治ニ抵觸シ國體ニ背反スル等ノコトナキモノト認ム

二 立憲民政黨綱領第一項ノ趣意ハ前項ニ答フル通ニシテ軍人精神及陸海軍ノ統率ニ關スル憲法ノ條規ト何等相反スル所無キモノト認ム

三 立憲民政黨綱領第一項ノ趣意ハ前掲第一項ニ答フル通ニシテ宣戰講和條約締結ニ關スル憲法ノ條規ト何等相反スル所無キモノト認ム

四 立憲民政黨綱領第一項ノ趣意ハ前掲第一項ニ答フル通ニシテ司法權ノ運用ニ關スル憲法ノ條規ト何等相反スル所無キモノト認ム

右及答辯候也

昭和六年三月

內閣總理大臣 濱口 雄幸

陸軍大臣 宇垣 一成

外務大臣 男爵幣原喜重郎

司法大臣 子爵渡邊 千冬

海軍大臣 男爵安保 清種

國際紛争平和の處理ニ關スル質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

昭和六年二月二十一日

提出者 田川大吉郎

國際紛爭平和的處理ニ關スル質問主意書

國際紛爭平和的ニ解決セムトスル氣運漸ク進ミ其ノ實際ニ於ケル成績稍見ルヘキモノアリ現ニ米國ハ我カ國ニ對シ此ノ趣意ニ依ル仲裁及調停ニ關スル條約締結ノ希望ヲ申出テ來リ既ニ數年ヲ經過シタリト聞ク

一 帝國政府ハ該申出ニ對シ應諾セラシテ方針ニシテ且其ノ交渉ハ近ク完了スヘキ程度ニ在リヤ

二 若然ラストセハ其ノ理由如何

三 米國以外ニ仲裁條約ヲ締結セムトシテ現ニ交渉中ノ國アリヤ

且此ノ種ノ一般條約ノ締結加盟ニ關スル所謂「應諾義務」ノ問題若ハ「選擇條項」ノ問題ニ對シテモ帝國政府ハ國際聯盟ノ主要國家中其ノ回答ヲ怠レルモノノ只一國ニシテ如何ニカ其ノ意向ヲ速ニ決定セサルヘカラサル地位ニ在ルモノノ如シ

一 政府ハ該問題ニ關シ近ク回答ヲ發シテラレヘキヤ

二 果シテ然ラハ其ノ回答セラレヘキ方針如何

三 若尙回答セラレストセハ其ノ遲延セラルル理由如何

四 若研究未了トセハ其ノ研究中ナル未了ノ問題如何

右及質問候也

昭和六年三月十日  
內閣總理大臣 濱口 雄幸  
衆議院議長藤澤幾之輔殿

衆議院議員田川大吉郎君提出國際紛爭平和的處理ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

(別紙)  
衆議院議員田川大吉郎君提出國際紛爭平和的處理ニ關スル質問ニ對スル答辯書

第一 仲裁及調停條約ニ關スル問題

官報號外 昭和六年三月十一日 衆議院議事速記第二十五號 議長ノ報告

一 明治四十一年五月五日華盛頓ニ於テ締結セラレ爾來三回ノ更新ヲ經テ引續キ效力ヲ有シタル日米仲裁判條約ハ昭和三年八月二十三日ヲ以テ期間滿了シタリ、之ヨリ先米國政府ハ昭和二年

末帝國政府ニ對シ右ニ代ルヘキ新條約締結ヲ提案シ來リ次テ翌三年三月右提案ヲ仲裁判條約案及調停條約案ノ二條約案ニ分離シテ商議シタキ旨更メテ提議シ來レリ帝國政府ニ於テハ固ヨリ兩國間ニ此種條約ノ締結ニ異議ナク其ノ後交渉ヲ繼續シ居ルモノナリ尤モ本件妥結ノ時機ニ付テハ今日之ヲ明言スルヲ得ス

二 前項ヲ參照セラレントヲ望ム

三 米國ノ外猶和蘭等ノ諸國ヨリモ帝國政府ニ對シ仲裁判條約及調停條約締結ニ關スル申入アリ和蘭トハ目下交渉中ナリ

第二 所謂「選擇條項」ニ關スル問題  
一 常設國際司法裁判所ニ對スル應諾義務ノ問題ハ同裁判所規程第三十六條第二項ニ選擇條項トシテ規定セラレ居リ之カ受諾ハ各國ノ自由ニシテ又其ノ受諾ハ各國トモ自發的ナリ帝國政府ニ於テハ其ノ受諾ニ付原則上異議ヲ有セスト雖モ右受諾ニハ國家主權ノ行動ヲ將來ニ互リ強ク拘束スル重大性ノ存スルノミナラス各國トモ之カ受諾ニ當リテハ各種ノ留保ヲ附スル例ナルニ付帝國政府ニ於テハ各國ノ受諾狀況ヲ考觀シ更ニ帝國ノ緊切ナル利害殊ニ國內輿論ノ要望ヲ考慮シテ帝國ノ受諾ニ際シ附スヘキ留保條件ヲ目下慎重ニ研究中ナリ

二 三、及四、前項ヲ參照セラレントヲ望ム

右及答辯候也

昭和六年三月十日  
外務大臣 男爵幣原喜重郎

區劃整理ニ際シ東京市ノ小學校舍移轉補償金ニ關スル質問主意書  
右成規ニ據リ提出候也  
昭和六年二月十九日

提出者 遠藤 千元  
區劃整理ニ際シ東京市ノ小學校舍移轉補償金ニ關スル質問主意書  
關東大震災災害復舊工事施行ニ關シ東京市燒失區域內ニ於ケル區劃整理斷行ニ際シテハ土地並各種營造物及動産ニ對シ夫レ夫レ適當ノ移轉補償金ヲ交付セラレタル中ニ於テ小學校舍ノ移轉ニ對シテハ各區長ノ申請ニ依リ區ニ交付セラレタリ何故ニ補償金受領ノ主體ヲ區ニ決定セラレタリヤ本件ハ市制第六條ニ依ル區トノ間ニ重大ナル利害ヲ有スルヲ以テ當局ノ意思及其ノ理由ヲ明確ニ文書ヲ以テ答辯セラレムコトヲ望ム

昭和六年三月十日  
內閣總理大臣 濱口 雄幸  
衆議院議長藤澤幾之輔殿

衆議院議員遠藤千元君提出區劃整理ニ際シ東京市ノ小學校舍移轉補償金ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

(別紙)  
衆議院議員遠藤千元君提出區劃整理ニ際シ東京市ノ小學校舍移轉補償金ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書

東京都市計畫土地區劃整理ノ施行ニ關シテハ建物其ノ他ノ工作物ニ對シテ移轉補償金受領ノ主體ハ特別都市計畫法第六條ノ規定ニ準據シ移轉スヘキ建物其ノ他ノ工作物ノ所有者ナラサルヘカラス而シテ東京市ニ於テ小學校舍ハ區ノ所有ニ屬スルカ故ニ前記移轉補償金ハ之ヲ區ニ交付シタル次第ナリ

右及答辯候也

昭和六年三月十日  
內務大臣 安達 謙藏

(左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲茲ニ掲載ス)  
一去七日常任委員補闕選舉ノ結果左ノ如シ  
第三部選出  
決算委員 松本 忠雄君(奥山龜藏君補闕)

第六部選出  
決算委員 北原阿智之助君(小野耕一郎君補闕)

第七部選出  
豫算委員 八木 幸吉君(鷲野米太郎君補闕)

一去七日議長ニ於テ辭任ヲ許可シタル常任委員左ノ如シ  
第七部選出豫算委員 堀内 良平君  
一去七日理事補闕選舉ノ結果左ノ如シ  
勞働組合法案(政府提出)外一件委員 理事 猪野毛 利榮君(委員守屋榮夫君本日理事辭任ニ付其ノ補闕)

一去七日議長ニ於テ選定シタル委員左ノ如シ  
勞働者災害扶助法案(政府提出)外二件委員

山邊 常重君 伊禮 肇君  
坂東幸太郎君 村上紋四郎君  
村岡 吾一君 三好榮次郎君  
眞鍋 儀十君 佐藤 與一君  
氏家 清君 山崎傳之助君  
安藤 正純君 崎山 武夫君  
牧野 良三君 板谷 順助君  
原 惣兵衛君 森田 政義君  
高見 之通君 西尾 末廣君

入營者職業保障法案(政府提出)外一件委員  
三浦 虎雄君 水上齊之助君  
原 吉郎君 西田 郁平君  
北原阿智之助君 小俣 政一君  
宮脇 長吉君 兼田 秀雄君  
八田 宗吉君

船員保險法案(政府提出)委員

佐竹 庄七君 前田卯之助君  
山本 實彦君 遠藤 千元君  
海野 數馬君 若宮 貞夫君  
板谷 順助君 牧野 賤男君  
小林 鑄君

一昨九日委員及理事五選ノ結果左ノ如シ  
一昨九日委員補選ノ結果左ノ如シ  
第七部選出  
豫算委員 岡崎久次郎君(堀内良平君  
補員)

委員長 山邊 常重君  
理事 伊禮 肇君 坂東幸太郎君  
村上紋四郎君 崎山 武夫君  
森田 政義君

入營者職業保障法案(政府提出)外一件委  
員  
委員長 三浦 虎雄君  
理事 小俣 政一君 兼田 秀雄君

船員保險法案(政府提出)委員  
委員長 佐竹 庄七君  
理事 前田卯之助君 板谷 順助君

一昨九日理事補選ノ結果左ノ如シ  
自動車交通事業法案(政府提出)委員  
理事 川島正次郎君(理事豊田牧君木  
月六日委員辭任ニ付共ノ補  
員)

一昨九日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ  
辯護士法中改正法律案(北浦圭太郎君外  
三名提出)外二件委員  
辭任米田規矩馬君 補員岩本 武助君  
昭和四年第一豫備金支出ノ件(承諾ヲ  
求ムル件)外七件委員

辭任齋藤太兵衛君 補員手代木隆吉君  
辭任生方 大吉君 補員平野 鍋吉君  
辭任牛場清次郎君 補員遠藤 千元君  
辭任北田 正平君 補員伊禮 肇君  
輸出生絲検査法中改正法律案(政府提出)  
委員

辭任長野 綱良君 補員高橋 守平君  
地租法案(政府提出)外六件委員  
辭任岡本 忠正君 補員佐竹 庄七君  
辭任本田彌市郎君 補員服部 教一君  
辭任清水 長郷君 補員水上齊之助君  
辭任濱野徹太郎君 補員伊禮 肇君  
國立公園法案(政府提出)委員  
辭任高橋元四郎君 補員山内 亮君  
勞働組合法案(政府提出)外一件委員  
辭任西尾 末廣君 補員松谷與二郎君  
小作法案(政府提出)委員  
辭任生方 大吉君 補員關矢 孫一君  
自動車交通事業法案(政府提出)委員  
辭任坂東幸太郎君 補員森 峰一君

○議長(藤澤幾之輔君) 是ヨリ會議ヲ開キ  
マス。御諮リヲ致シマス、第三部選出豫  
算委員坂本一角君、第八部選出豫算委員深  
澤豊太郎君、第九部選出豫算委員川口義久  
君、右常任委員辭任ノ申出ガアリマス、許  
可スルニ御異議ガアリマセヌカ  
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(藤澤幾之輔君) 御異議ナケレバ許  
可致シマス、其部ノ諸君ハ速ニ補選選舉ヲ  
行ヒ御届ケアランコトヲ望ミマス、濱口内  
閣總理大臣ヨリ發言ヲ求メラレテ居リマ  
ス。濱口内閣總理大臣(拍手)

○國務大臣(濱口雄幸君) 諸君、私不慮ノ  
遭難ノ爲メ、時局多事ノ折柄數箇月ノ間國  
務ヲ離ル、ノ已ムナキニ至リマシテ、今日  
マデ諸君ト相見エテ共ニ國政ヲ議スルコト  
ヲ得マセナカッタコトハ、私ノ頗ル遺憾トス  
ル所デアリマス  
爾來健康モ次第ニ回復ヲ致シ、昨日ヲ以  
テ幣原首相臨時代理ノ任ヲ解カレ、同時ニ  
私自ラ總理大臣ノ職務ニ當ルコト、ナツタ  
ノデアリマス、茲ニ御報告ヲ、特ニ一言ヲ申  
上ゲル次第デアリマス(拍手)

○議長(藤澤幾之輔君) 此際大養毅君カラ  
發言ヲ求メラレマシタ。大養毅君(拍手)  
〔大養毅君登壇〕  
○大養毅君 私人總理大臣ニ對シテ一言御  
慰勞ヲ申上ゲタイト存ジマス、昨年不慮ノ  
御遭難以來、長キ間御病床ニ在ラレテ、御  
無聊ノ有様ハ實ニ御同情ニ堪ヘマセヌ、密  
ニ痛心致シテ居リマシタガ、幸ニ健康ヲ回  
復セラレテ、今日茲ニ御出席ナサレシテ、自  
ラ國務ニ當ラレルト云フコトニ接シマシ  
テ、私共實ニ欣排ニ堪ヘマセヌ、茲ニ謹シ  
ク御慰勞ヲ申上ゲ、又益々健康ヲ此上回復  
セラレコトヲ祈リマス(拍手)  
○議長(藤澤幾之輔君) 本日ノ日程ニ掲ゲ  
マシタ質問第一乃至第十八、何レモ政府ヨ  
リ答辯書ヲ受領致シマシタ、仍テ日程ヨリ  
之ヲ省キマス、尙ホ答辯ニ對スル意見陳述  
ノ申出ガアリマスガ、適當ニ機會ニ之ヲ許  
シマス、是ヨリ日程ニ入りマス  
○作田高太郎君 議事日程變更ノ動議ヲ提  
出致シマス、即チ此際日程ノ順序ヲ變更シ、  
日程第十二乃至第十五ヲ繰上ゲ、其審議ヲ  
進メラレシコトヲ望ミマス  
○議長(藤澤幾之輔君) 作田君ノ動議ニ御  
異議アリマセヌカ  
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(藤澤幾之輔君) 御異議ナシト認メ  
マス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ、日程  
第十二、輸出生絲検査法中改正法律案ノ第  
一讀會ヲ續ク開キマス、委員長ノ報告ヲ求  
メマス。岡崎久次郎君  
第十二 輸出生絲検査法中改正法律案  
(政府提出)  
報告書  
第一讀會ノ續(委員長報告)

一輸出生絲検査法中改正法律案(政府提  
出)  
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致  
候此段及報告候也  
昭和六年三月九日  
委員長 岡崎久次郎  
衆議院議長藤澤幾之輔殿  
(岡崎久次郎君登壇)

○岡崎久次郎君 私人輸出生絲検査法中改  
正法律案ノ委員會ノ經過結果ヲ御報告申  
上ゲルデアリマス、本委員會ハ去ル二  
月十二日ニ第一回ノ委員會ヲ開催致シマシ  
テ、委員長並ニ理事ノ選舉ヲ行ヒマシタ、  
不肖委員長ニ當選シ、理事トシテハ小山邦  
太郎君、青木精一君ノ兩君ガ御選舉ニナラ  
レマシタ、引續キマシテ數回ニ亙リマシテ、  
委員會ヲ開催致シタデアリマス、本委員  
會ハ蠶絲業法ニ對スル知識蓄積ノ極メテ深  
キ方々デアリマスカラ、蠶絲業ニ對スル根  
本問題、又生絲補償法問題、其他本法ニ規  
定サレマシタ所ノ、有ユル點ニ付テ詳細ナ  
ル質疑應答ガ行ハレタデアリマス、政友  
會諸君ノ中カラ専ラ加藤正君、青木精一  
君、永田良吉君等カラ種々有益ナル質問ガ  
アツタデアリマス、又民政黨ノ諸君ノ中カ  
ラモ氏家君、小山君等カラ質問セラレ、  
適當ニ應答サレタデアリマスガ、其長キ  
詳細ノコトハ委員會速記録ニ於テ御覽ヲ願  
フコトニ御願致シマス、去ル九日ニ於テ  
討議ニ移リマシタ、本案ノ討議ニ際シマシ  
テハ、民政黨ノ小山君カラ本案ニ賛成ノ御

○議長(藤澤幾之輔君) 御異議ナシト認  
メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ、日  
程第十二、輸出生絲検査法中改正法律案ノ第  
一讀會ヲ續ク開キマス、委員長ノ報告ヲ求  
メマス。岡崎久次郎君  
第十二 輸出生絲検査法中改正法律案  
(政府提出)  
報告書  
第一讀會ノ續(委員長報告)

○議長(藤澤幾之輔君) 御異議ナシト認  
メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ、日  
程第十二、輸出生絲検査法中改正法律案ノ第  
一讀會ヲ續ク開キマス、委員長ノ報告ヲ求  
メマス。岡崎久次郎君  
第十二 輸出生絲検査法中改正法律案  
(政府提出)  
報告書  
第一讀會ノ續(委員長報告)

○議長(藤澤幾之輔君) 御異議ナシト認  
メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ、日  
程第十二、輸出生絲検査法中改正法律案ノ第  
一讀會ヲ續ク開キマス、委員長ノ報告ヲ求  
メマス。岡崎久次郎君  
第十二 輸出生絲検査法中改正法律案  
(政府提出)  
報告書  
第一讀會ノ續(委員長報告)

○議長(藤澤幾之輔君) 御異議ナシト認  
メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ、日  
程第十二、輸出生絲検査法中改正法律案ノ第  
一讀會ヲ續ク開キマス、委員長ノ報告ヲ求  
メマス。岡崎久次郎君  
第十二 輸出生絲検査法中改正法律案  
(政府提出)  
報告書  
第一讀會ノ續(委員長報告)

○議長(藤澤幾之輔君) 御異議ナシト認  
メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ、日  
程第十二、輸出生絲検査法中改正法律案ノ第  
一讀會ヲ續ク開キマス、委員長ノ報告ヲ求  
メマス。岡崎久次郎君  
第十二 輸出生絲検査法中改正法律案  
(政府提出)  
報告書  
第一讀會ノ續(委員長報告)

意見方御發表ニナリマシタ、更ニ政友會ヲ代表シテ加藤君カラ本案ニ賛成ノ御意見ガ陳述サレタノデアリマス、即チ本委員會ハ朝野兩黨ノ全員一致ヲ以テ之ヲ可決サレタト云フコトヲ御報告スルノ光榮ヲ有スルノデアリマス、尙ホ加藤君カラ竝ニ小山君カラ各御意見ガ出マシテ、ドウカ生絲ノ現物取引所ノ設置ヲ至急ヤッテ載キタイ、尙ホ此建設ノ經費ニ對シテハ速ニ國庫ノ都合ヲ圖テ、横濱、神戸ノ兩市カラ買取テ、檢査料ヲ輕減シテ賣ヒタイ、ト云フ意見ガアッタコトヲ御了承願ヒタイノデス、朝野兩黨一致シテ本案ヲ支持致シタト云フコトハ、本案ガ如何ニ政府案トシテ重要且ツ緊急ナモノデアルカト云フコトヲ物語ッテ居リマスガ、此場合討論ヲ致シマスルナラバ、委員長ノ報告ハ是ヲ終ルノデアリマスガ、斯ノ如キ重大ナル法案ハ極メテ簡單ニモ天下ニ知悉セシムル必要モアルノデアリマスカラ、簡單ニ本案ノ重要ナル點、竝ニ國家國民ニ對シテ、又我國ノ産業經濟ニ對シテ、實ニ緊急ナル問題デアアルコトヲ、此席カラ簡單ニ申述ル必要ヲ感ズルノデアリマス

(拍手)  
極メテ簡單ニ申述マシタガ、本案ハ御承知ノ通り生絲ノ輸出貿易ニ際シマシテハ、正量取引法ニ依ッテ、目方ノ檢査ハ出來テ居ルノデアリマスガ、品質ノ檢査ハ未ダ出來テ居ラヌノデアリマス、此品質檢査ヲ國家ノ一定シタル方針ニ依ッテ行フ、是ガ本案ノ第一ノ趣旨デアリマス、生絲ノ目方、竝ニ品質ガ國家ノ手ニ依ッテ鑑定サレ、是ガ檢査サレテ輸出サレルト云フコトハ、購買者タル米國ノ需要家ニ多大ナル便宜ヲ與ヘ、竝ニ我國ノ生絲貿易ニ一ツノ偉大ナル革命ヲ與ヘルモノデアリマス、而シテ此檢査法ハ大體ニ於テ百中九十九「パーセント」マデハ、米國ノ需要家ト其檢査法ノ協定ガ行ハレテ、兩方一致シタル意見ノ合致點ヲ見出シタノデアリマス、是故ニ昭和七年一月カ

ラ我國カラ輸出サレル生絲ハ、其目方竝ニ品位ヲ國家ノ檢定所ニ於テ試驗セラレ、外國へ輸出スルト云フコトガ、本案ノ主眼デアリ、茲ニ我國ノ生絲貿易ノ基礎ガ確定スル次第デアルト云フ、重要ナル法律案デアランコトヲ切望シテ報告致シマス(拍手)  
○議長(藤澤幾之輔君) 別ニ討論ハアリマセヌ、本案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ  
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(藤澤幾之輔君) 御異議ナシト認メマス、仍テ本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ  
○作田高太郎君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シ、委員長報告通リ可決確定セラレンコトヲ望ミマス  
○議長(藤澤幾之輔君) 作田君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ  
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(藤澤幾之輔君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ第二讀會ヲ開キマス  
輸出生絲檢査法中改正法律案  
第二讀會(確定議)  
○議長(藤澤幾之輔君) 別ニ御發議ガアリマセヌカラ、本案ハ作田君ノ動議ノ如ク第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通リ可決確定致シマシタ(拍手)日程第十三、耕地整理法中改正法律案ノ第一讀會ヲ續ク開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長本田恒之君

第十三 耕地整理法中改正法律案(政府提出)  
報告書  
第一讀會ノ續(委員長報告)  
一 耕地整理法中改正法律案(政府提出)  
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也  
昭和六年三月九日  
委員長 本田 恒之  
衆議院議長藤澤幾之輔殿

〔本田恒之君登壇〕  
○本田恒之君 耕地整理法中改正法律案ノ委員會ノ經過及ビ結果ヲ御報告申上ゲマス、委員會ハ四回ニ亙リマシテ、精密ナル質問應答ガ行ハレタノデアリマス、其詳細ハ總テ速記録ニ就テ御覽ニ願フコト、シテ省略致シマス、質問ノ最モ集中致シマシタル點ハ、第三條ノ二、及ビ附則第十六條デアリマシテ、此點ニ最モ精細深刻ヲ極メタル質問ガアッタノデアリマス、各方面ニ亙リテ居リマスカラ、此處デ其要領ヲ申上ゲル必要ハナイト考ヘマス、之ニ對シマシテハ是ヨリ政友會ヲ代表サレタル人々ニ依リマシテ、其理由ハ詳細ニ説明ニナルコト、思ヒマスカラ、私カラハ是亦省略致シマス、討論ニ入りマシテ、高橋熊次郎君ハ政友會ヲ代表サレテ、本案ハ今少シク適當ナル作成ヲ求ムル爲ニ、政府ニ返付致シタイト云フ動議ヲ提出ニナリマシタ、併ナガラハ少數ニ依ッテ否決ニナリマシタ、永田善三郎君ハ民政黨ヲ代表サレテ、本案ハ耕地整理法ノ主義目的ヲ達スルノニ相當ナル改正デアアルカラ、全部政府案ヲ賛成スルト云フ御意見デアリマシタ、而シテ多數ヲ以テ政府原案ガ可決ニナッタ次第デアリマス、簡單ナガラ此段御報告ヲ申上ゲマス(拍手)

○議長(藤澤幾之輔君) 本案ニ對シテハ加藤五郎君外七名ヨリ少數意見ガ提出サレテ居リマス、是ハ本案ノ撤回ヲ求ムルノ意見デアリマスカラ、此際其報告ヲ許シマス——加藤五郎君  
少數者意見書  
一 耕地整理法中改正法律案(政府提出)  
右ハ本院ニ於テ政府ニ對シテ撤回ヲ求ムヘキモノト認ムルニ依リ少數者意見書及提出候也  
昭和六年三月九日  
委員少數意見者 加藤五郎  
外九名

○加藤五郎君 此場合同志ト共ニ本案ノ撤回ヲ求ムル動議ヲ説明ヲ致シ、併セテ吾々ノ反對スル趣意ヲ茲ニ聲明致シタイト思フノデゴザイマス(拍手)今議會ニ政府ヨリ提出サレタル法案ハ多クアルノデゴザイマスガ、地租法案ニ關聯シタル法案程缺陷ノ多イモノハナイノデアリマシテ、遺憾ナガラ政府ノ失態、醜態ヲ暴露致シタノデゴザイマス、今回ノ此耕地整理法案ハ、政府委員自ラ申サレタ如ク、頗ル難解至極ノ法案デアアルノデアリマスガ故ニ、世間此難解ナルコト、今一ツハ頗ル簡單ナル改正法律案デアルト云フコトヲ早合點シテ居ル上ヨリ致シマシテ、頗ル之ヲ小ナル改正案トシテ、餘リ注意ヲ拂ハレナカッタノデアリマシタ、併ナガラ委員會ニ於テ吾々ガ之ヲ調査致シマス時ニ、幾多ノ缺陷ガ出テ參リマシタガ故ニ、吾々ハ之ヲドウシテモ撤回シナケレバナラヌト云フコトニ立至リマシタ

政府ハ此耕地整理法改正案ヲ提出スル時ニ當リマシテ、此説明書ニモアリマスル如ク、是ハ單ニ地租法案ノ改正ノ結果、從來ノ地價ガ貸賃價格ニ變ルノデアアルガ故ニ、之ニ從フベク耕地整理法ヲ改正スル、又地租法ガ十年毎ニ改訂ヲスルガ故ニ、之ニ應ズルヤウニ耕地整理法ヲ改正スルノデアアル、國家ガ現行ノ耕地整理法ニ依ッテ與ヘテアル所ノ措置ノ總テノ恩惠ハ以前通りニ此耕地整理法ニ與ヘテアルト説明ヲ致シタノデアリマシタ、是デアアルナラバ、吾々モ是ハ當然ナ改正案デアリマシテ、此案ニ贊成スベキデゴザイマスガ、委員會ニ於テ屢、質疑ヲ致シテ居リマス中ニ於テ、又此案ヲ精讀スル上ニ於テ、現内閣ハ此單純ナル改正ト云フ言葉ノ中ニ、火事場泥棒ノ三三ノ條項ヲ追加致シマシテ、大ナル惡法トナサントシタルコトヲ吾々ハ見出シタノデアリマス、即チ吾々ハ斯ノ如キ火事場泥棒的

第一讀會ノ議 六六七

ノ條文ヲ入レテ、政府自ラ地租ノ減租ノ据置ヲスル恩惠ヲ與ヘル同様デアルト云フ所ノ根柢カラ裏切りマシタガ故ニ、是ハドウシテモ撤回セナケレバナラヌト云フ所ニ立至ラントデアリマス、然ラバドウ云フ點ガ斯様ナ根柢ヨリ覆シガ如キコトヲ爲シタ條文デアアルカド云フ、二三ノモノヲ私ハ指摘シテ茲ニ諸君ノ御賛成ヲ得タイト思フデアリマス、即チ第一ハ耕地整理法ノ三條ノ二ト云フ所デアリマシテ、讀ンデ見マス「市ノ區域内ノ土地及主務大臣ノ指定スル地域内ノ土地ハ之ヲ整理施行地區ニ編入スルコトヲ得ス但シ市ノ區域内ノ土地ニシテ主務大臣ノ指定スル地域内ノモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス」トアルノデアアル、之ヲ碎ケテ申セバ、ドウ云フコトデアアルカト申スト、耕地整理法ハ市ノ區域内ニシテハナラナイ、併シ市ノ區域内デアアテモ廣イ田ナドノアル所ハ、農林大臣方宜シト云ヘバソレハ差支ナイ、又市ノ區域外デアアテモ、農林大臣方イケナイト云フテ指定シタ場所ニ於テハ、耕地整理法ヲヤルコトハナラナイ、是ダケデアリマシテ、之ヲ唯讀ンデシマヒマスレバ、如何ニモ何デモナイヤウデアリマスケレドモ、所謂市以外ニ於テ農林大臣ノ指定シタル區域ト云フコトハ、ドウ云フコトデアアルカト申セバ、都市ニ限ラナイノデアリマス、即チ人口デ申セバ、千カ五百、是ハハナキリ致シマセスガ、地方ノ市デナイ所ノ町、所謂小邑ト申スカ、小市街ト申スカ、ソレナドモ一切耕地整理ノ地區内ニ入レテハナラヌト云フコトデアリマシテ、是ハ耕地整理ノ仕事自體ヲ全クサセナイト云フコトデゴザイマス、ソレカラモウ一ツハ附則ノ十六條ト云フノガアリマシテ、頗ル難解ノ字句ガ使テアリマスガ、是ハ一口ニ申セバ、從來耕地整理ガ與ヘテ居テ所ノ恩惠、即チ政府ハ耕地整理法ニ對シテ國家ガ恩惠ヲ與ヘテ居ルノハ、依然トシテ與ヘテ置クト言ヒツ、此附則ノ十六條ト云フモノハ之ヲ

一切剝奪スルト云フコトデアリマシテ、所謂國家ガ其經營者ノ組合ニ與ヘテ契約ヲシタル所ノ既得權トモ稱スベキモノヲ取テシマツト云フコトデアリマス、是ナドハ實ニ耕地整理法ノ恩惠ヲ少シモ取ラナイ、其儘ニシテ置クト言ヒツ、直チニ此十六條ニ來テ、今マデノ恩惠、工事中ノモノ、今マデノ恩惠ヲ一切取テシマフト云フコトデアリマス、私ハ是等ノ案ヲ見ル時ニ於キマシテ、大藏大臣ガ曩ニ此影ノ如キ減稅案ヲ出シテ、國民負擔ノ輕減ニ之ヲ充テルノデアアル、政府ハ若シイケレドモ、此減稅案ヲ提案シタルデアルト彼此レ申サレタノデアリマスガ、此十六條ノ如キハ此耕地整理法ヲ通ジマシテ、現内閣ハ増稅ノ計畫ヲ致シテ居ルノデアアル、即チ耕地整理法ヲ通ジテ地租ノ増稅ヲ明カニ致シテ居ルト云フノデゴザイマス、奇怪千萬ト謂ハナケレバナラヌノデゴザイマス、私ハ更ニ此場合此三條ノ二ヲモウ少シ立入テ説明ヲ致シタイト思フノデアリマス、即チ委員會ニ於テ高橋君等ヨリ屢々質疑ガアリマシタガ、農林大臣ノ所謂指定スルト云フ所ノ場所ハ、ドンナ場所デアアルカ、少シモ是ハ要領ヲ得ヌノデアリマス、人口ノ千デ以テ定メルカ、二千デ以テ定メルカ、或ハドウ云フ場所ヲ指定スルカト云フト、常識デ定メル、其場合ニ依テ定メルト云フコトデアリマス、何等基礎ナキ所ノ漠然タル答辯デアリマス、ルガ、要スルニ是ハ農林省ト致シマシテハ、將來宅地ニナルヤウナ場所ハ、耕地整理ノ地區内ハ耕地整理ハシテハナラヌト云フコトデアアルノデアリマス、世間多クノ人ハ、吾々同僚ノ中ニ於キマシテモ、都市ニ於テ市制施行ノ場所ニ於テ、耕地整理ヲスルト云フコトヲ止メルコトハ當リ前ノ如ク感ズルノデアリマス、是ハ都市ノミヂヤナイノデス、全國幾百ノ小市街、町ト申シマスルカ、村ト申シマスルカ、苟モ相當人ノ集テ居ル市街、小市街ハ一切地區内ニ入レ

ナイト云フコトデゴザイマス、ルガ故ニ、即チ耕地整理ト云フモノハ、モウ如何ナル町ノ外レニ於テモ出來ナイト云フコトニ相成ルノデゴザイマス、我國ノ耕地整理ハ御承知ノ如ク、頗ル發達シ來テ居ルノデアリマス、本當ノ農作物ノ耕地整理ガ盛ニモナツテ居リマス、ルガ、ソレ以上所謂小市街若クハ都會ノ周圍ニ於ケル郊外地ガ宅地整理トシテ、耕地整理ガ發達シテ來タノデアリマシテ、耕地整理ノ發達ハ所謂宅地整理ノ發達ガ今日ノ此發達ヲ來シタト云フコトハ申スマデモナイノデアリマス、只今各都市ニ於キマシテ、立派ナル郊外ノ道路ガ出來ル、色々ノ設備ガ出來ル、又地方ノ市ト稱スルコトノマダ出來ナイ町ニ於キマシテモ、立派ノ道路ガ出來テ、色々ノ住宅設備ガ完備ニ近キヤウニナツテ居ルト云フノハ、全ク此耕地整理ノ御蔭デアアルノデゴザイマス、然ルニ今後之ヲ一切スルコトナラヌト云フコトニ相成リマス、農林省ノ立場カラハ或ハ宜イカモ知レマセヌケレドモ、内務省ノ立場、國家ト云フ立場ヨリ見マスレバ、是ハ住宅、宅地問題ノ上ニ重大ナル影響ヲ及ボスコトデアリマシテ、由シキ大事デアルト謂ハナケレバナラヌノデアアル(拍手)斯様ニ申シマスルト所謂耕地整理ヲ町ノ附近ニシナクテモ、ソレハ區劃整理ヲスレバ宜イデヤナイカト云フ反問ヲスル人モアルノデアリマス、御承知ノ如ク區劃整理ト申スコトハ、都市計畫ヲ指定シテアル所ノ都市デナイト、是ハ行フコトガ出來ナイノデアリマス、只今我國ニ於テ市ハ百十幾ツモアリマス、其間ニ於テ、都市計畫ノ指定地トナツテ居ルノハ百少シ足ラヌノデアリマシテ、當然市デアリチガラマダ都市計畫ノ指定ヲサレナイ所ガ十幾ツモ實ハアルト云フ有様デアリマシテ、ソレ以下ノ所謂町、人口二万カ三万ノ町、全國ニ幾百アルデアリマセウカ、ソレ等ノモ

ノハ都市計畫ノ指定ニナツテ居リマセヌ市デアリマス、隨テ區劃整理モ出來ナイト云フコトデアリマシテ、ソレ等幾百ノ都市、或ハ總テノ中心地デアアル所ノ、小市街ト云フモノハ、今後其附近ニ於テ、住宅整理ト云フコトハ、絕對ニ出來ナイト云フコトニ相成テ居ルノデゴザイマス、即チ此法律ガ通過致シ、實施サレマシタナラバ、日本ノ國ノ多クノ町ト云フモノハ、モウ今後立派ノ道モ出來ズ、又色々住宅設備モ出來ズ、宅地ノ整理モ出來ズシテ、雜然トシテ昔ノ如ク到ル處ニ家ガ出來テ、サウシテ道ハ曲リ勝手次第ト云フコトニ相成ルノデアリマシテ、今日マデ發達シ來タル所ノ耕地整理ニ依テ與ヘラレタル總テノ宅地ト云フモノハ、是カラ根柢ヨリ破壊サレルト云フコトデアリマシテ、内務當局トシテハ此耕地整理ノ指定ト云フモノハ、是ハ住宅問題ノ上ニ於テ大問題デアアルノデゴザイマス、私ハ斯ウ云フ點ニ於テ都市計畫ノ區劃整理及ビ耕地整理ノ斯ウ云フ問題ニ對シテ、住宅整理ノ問題ニ對シテ内務大臣ニ御尋致シマシタ所、内務大臣ハ都市計畫ノ何タルコトヲ知ラナカッタノデアリマス、區劃整理ノ何タルコトヲ知ラナカッタノデアリマス、況ヤ斯様ナ法律ガ出テ住宅整理ト云フコトガ絕對ニ出來ヌガ、ドウナルカト云フコトニ對シテ、私ハ少シモ左様ナコトハ知りマセスト明カニ答辯サレタノデアアル(拍手)然ラバ政府委員ガ答辯スルカト思ヘバ、政府委員モ斯様ナコトハ私共ハ知ラナイト云フテ、眞ニ都市ノ經營者ノ首班タル所ノ内務大臣及ビ政府委員ノ數人、一人モ此問題ニ對シテ知ラナイト云フ有様デアリマシテ、其夜、急ニ慌テ、都市計畫課長ヲ政府委員ニ任命シテ、ソレカラ安達内務大臣ガ聞カレテ、ア、サウ云フコトデアアッタカト御諒解ニ相成ツカドウカハ分リマセヌケレドモ、其邊頗ル吾々共ハ怪シク思ウテ居ルノデアリマス、是ハ實ニ國家ノ宅地整理住宅整理ト云

フ問題ハ重大ナル問題デアリマシテ、之ヲ内務大臣ガ少シモ知ラズニ、農林大臣ガ斯ウ云フモノヲ出サレタノヲ、少シモ知ラズニマルキリ放任シテ置クト云フコトハ、是ハ實ニ醜態ノ最モ大ナルモノト謂ハナケレバナラヌデアアル(拍手)

私ハ此場合耕地整理ト宅地整理ノ問題ニ付テ少シク申シテ見タイト思フデアリマス、由來我國ニ於キマシテハ農ヲ重シマシテ、耕地整理ヲスルト云フコトハ頗ル宜イコトデアルト思フ、即チ米ガ穫レル、農業上ノ利益ヲ増進スル、米ガ穫レル、食糧問題ノ解決ニナル、非常ニ之ヲ宜イコトトシタ、勿論宜イコトデアリマス、併ナガラ一面宅地整理、所謂區劃整理ト云フコトニナルト、之ヲ頗ル蔑視シ、冷遇シタノデアアル、是ハ地所ヲ持テ居ル者ガ道ヲ直シテ、自分ノ宅地ノ値ヲ上ゲル爲ニヤルノデアアル、斯ウ云フモノニサウ恩惠ヲ與フル必要ハナイト云フ態度ヲ持シタノデアリマスガ、是ハ誤レルモ甚シキモノデアアルノデアリマス、今ノ都市計畫ト云フコトハドウ云フコトデアアルカ、都市計畫ハ區劃整理ニ依テ始メテ完成スルノデアリマシテ、區劃整理ト云フモノハ、所謂都市計畫ニ指定サレマシタ都市ニ於テ、各個人ガ丁度耕地整理ト同シヤウニ組合ワテ設計書ヲ出シテ、其都市計畫ノ設計ニ依ルコトニ承諾シテ、内閣ノ認可ヲ受ケテ、サウシテ道路ヲ造ル、公園ヲ造ル、色々ノ立派ナル所ノ設備ヲシテ道路ヲ立派ニシ、或ハ側溝ヲ造リ、總テ設備ヲシテ、之ヲ公共團體ガ受取ルノデアリマシテ、公共團體ハ少シノ金モ掛ケズシテ都市計畫ヲ完成スルト云フコトニ相成ルノデアリマス、固ヨリ慾ト二人連レダト云フコトノ慾ガアルノデアリマシテ、其國家ノ大局ノ上ヨリ致シマスレバ、其慾望ヲ満足セシメ、國家公共團體ハ少シモ經費ヲ使フコトナクシテ大ナル市街、此町ヲ完

成スルト云フコトハ、是ハ欣ブベキ事デアアルデアアル、東京市ノ復興ハ如何デアリマスカ、八億何千万圓要タ、九億近ク要タノデアリマスガ、國家ガ是ハ八割マデ背負タノデアリマス、之ヲ各都市ニ於テ國家公共團體ノ力ヲ藉リズシテ、宅地ヲ斯様ニ改善スル者ガアリマシタナラバ、是ハ大ニ獎勵ヲシナケレバナラヌ筋合デアアルニ拘ラズ、之ヲ蔑視シタト云フノハ、要スルニ都市政策ニ關スル所ノ知識、理解ト云フモノガナカク、所以デアアルノデゴザイマス、御承知ノ如ク人口ハ日ニ、都會ニ集中致スノデアリマスガ、是ハ大都市ノミデハナイ、其地方々々ノ經濟上ノ中心タル所ノ、人口三千、或ハ五千ト云フ處ニモ集テ居ルノデゴザイマシテ、之ヲ今ノ儘ニ此法ガ實行サレマシタナラバ、雜然トシテ何モスルコトハイカヌ、耕地整理ヲスルコトモイカヌ、區劃整理ヲスルコトモイカヌ、雜多勝手ニシテ置クト云フコトニ相成ルノデゴザイマシガ故ニ、吾々ハ是ハ由々シキ大事デアルト思フ、即チ此案ヲ通スコトハ、見レバ洵ニ簡單ナヤウデアリマスガ、此案ヲ通過サスト云フコトハ、國家大局ノ上ヨリ致シマシテ、洵ニ由々シキ大事デアルト云フコトヲ信ジテ疑ハナイノデアリマス、ソコデ吾

事場泥棒ノ出來タモノデアリマスガ、故ニ、是ナドハドウシテモ通過サスコトハ出來ナイ、是レ吾々ガ撤回ヲ求ムル主ナル一ツデアリマス、而シテ更ニ附則第十六條デアリマスガ、是ハ從來ノ耕地整理ノ組合ニ與ヘテアル所ノ特權——ムヅカシイ文句デ書イテアリマスガ、一口ニ言ヘバ此特權ヲ悉ク剝奪シテシマフ、斯ウ云フ耕地整理ヲスレバ減租ヲシテヤル、ヤレ何年間ハ少シモ地租ノ増徴モシナイ、只デヤレヤル、色々ナ條件ガアルノヲ、是デ以テ一切去ラバト云フノデ打切テシマフノデアアル、是等ニ對シテ吾々ガ農林大臣ニ質問ヲ致シマス

ト、耕地整理ト云フ名ノ下ニ宅地整理ヲヤタノデアアルガ故ニ、欺イタノダカラ仕方ガナイト云フ、内務大臣ニ之ヲ聽クト、内務大臣ハ耕地整理ヲ——(二字)シテ宅地整理ヲシタノデアアルカラ仕方ガナイ、是ハ驚入

御答辯デアリマスガ、要スルニ此耕地整理ノ名ノ下ニ宅地整理ヲシタ、今日ノ各市街地ガ立派ニナタノハ、此恩惠、此御陰デアアルノデアアル、若シ之ヲ耕地整理ノ名ノ下ニ宅地整理ヲヤテイカヌト云フナラバ、誰ガ之ヲ許シタノデアアルカ、地方長官ガ之ヲ認可シタノデアアル、當然之ヲ監督スル所ノ農林大臣ノ責任デアリマス、即チ地方ニ於キマシテ耕地整理、宅地整理ヲヤル爲ニ府縣知事ハ耕地整理ヲヤレト云フ、テ獎メルノデアアル、耕地整理ヲヤルナラバ色々補助モアル、色々特典モアル、手續モ簡便デアアルカラ、耕地整理ヲヤレト云フ、テ獎メサシテ置イテ、是ガ工事ニ著手シテ、或ハ完成セントシ、若クハ未完成ノ場合ニ於テ其恩惠ヲ切テシマフト云フコトハ、誰ガ獎メタノデアアル、此責任ハ當然農林大臣ガ負ハナケレバナラヌ、然ルニ嘘ヲ言テ居ル、誰ガ嘘ヲ言テ教ヘタカ、府縣知事ガ之ヲ教ヘタノデアリマス、即チ農林大臣ガ之ヲ認可シタコトデアアル、自分ノ粗漏ハ棚ニ上ゲテ置イテ、而シテ國家ノ上ニ貢獻シタ所ノ此事業ヲチヨリ切ルトハ何事デアアル、殊ニ内務大臣ハ是ハ——(二字)シタ——御取消ニナタノデアリマスガ、耕地整理ノ名ノ下ニ所謂區劃整理、宅地整理ヲシタノデアリマシガ故ニ、大ニ此點ハ感謝シナケレバナラヌデアアル、然ルニ何等之ニ對シテ理解ガナイト云フベソレダケデアリマスガ、此事ヲ忘レテ、左様ナ者ニ恩惠ヲ與ヘルコトハ必要ガナイナド、言ハレルニ至リマシテハ、驚入タコト、謂ハナケレバナラヌデアアリマス、斯ウ云フ理解ノナイ内務大臣ノ下ニ、特別市制ダノ、ヤレ都制ダノト云フコトハ、笑フニ絶エタルコトデアアルト思フ

ノデアアル(拍手)政府自ラ恩惠ヲ與ヘルコトヲ約束シ、サウシテ此既得權ニ類シタルモノヲ一切取上ゲルト云フコトハ、政府自ラ背信不徳ノ行動ヲ爲スト云フコトデアアルデアリマス

私共ノ此意見ハ、黨派ノ問題デハナイノデアリマシテ、與黨ノ諸君モ多數之ニ御贊成デアッタノデアアル、與黨ノ委員諸君ハ多數吾々ニ贊成ノ意思ヲ表サレテ、ドウカ骨ヲ折テ呉レ給ヘ、君達ノ言ハレル通りダ、洵ニ此耕地整理法ハ惡法デアアルガ故ニ、是ハ何トカ直スヤウニ御骨折ヲ願ヒタイ、御骨折デハナイ、諸君ハ與黨ノ幹部ニ極力運動サレタ、併シ政府ハ此政府ノ面目ニ關スル、惡イ事ハ分テ居ル、成程政友會ノ言ハレタヤウニ是ハ洵ニ惡カッタ、ケレドモ政府ノ面目ニ關スルカラ、君達モ仕方ガナイカラ從ヘ、與黨ノ諸君ノ中デ何人カ私ニ憤慨サレテ話サレタカ分ラナイ、委員ノ多數ハ皆此惡法タルコトヲ認メラレテ居ルノデアアル、惡法タルコトヲ認メテ之ニ贊成ラシナケレバナラヌ、黨弊ニ至テ極マレリト謂ハナケレバナラヌ(拍手)何レ詳細ノ點、其他ノ點ハ高橋君ヨリシテ述べラレルトデアラウト存スルノデアリマスガ、要スルニ耕地整理法ノ改正ト云フモノハ、唯單ナル地價ヲ賃賃價格ニシタト云フ名ノ下ニ、火事場泥棒ヲ致シタコトデアアル、又一面ニ於テ大藏大臣ガ増稅計畫ヲ致シタルコトデアリ、政府トシテハ背信不徳ノ行動デアリ、而シテ國家大局ノ上ヨリ見レバ住宅ノ整理ヲ根柢ヨリ破壊スルコトデアリマスガ故ニ、私共ハ以上ノ理由ニ依テ本案ハ撤回シ、殊ニ其他ノ點ニ於テ缺陷多クアルノデアリマシガ故ニ、二簡條ヲ修正削除スルヨリモ、寧ロ根本ヨリ此難解、不可解至極ナル所ノ耕地整理法ヲ根本ヨリ改正シテ、吾々ノ承認ヲ求ムルコトガ當然ノ事ナリト信ジテ、茲ニ撤回ノ動議ヲ提出シ、之ヲ説明シ、反對ノ意思ヲ表示シタ所以デアアルノデゴザイ

マス(拍手) ○議長(藤澤幾之輔君) 此少數意見ハ成規ノ贊成ガアリマスカラ、動議トシテ成立致シマシタ、撤回ノ動議ハ先決問題デアリマスガ、便宜上之ヲ本案ノ討議ト併セテ討論ニ付シマス、尤モ採決ハ之ヲ先ニ致シマス、左様御諒承ヲ請ヒマス、是ヨリ討論ニ入りマス、發言ヲ許シマス、高橋熊次郎君

〔高橋熊次郎君登壇〕

○高橋熊次郎君 私ハ只今議題ニナツテ居リマス耕地整理法ノ改正案ニ對シテ、委員會ニ於テ、亦本會ニ於テ加藤鏡五郎君外數名ヨリ提出ヲ致シタ、本案ヲ政府ニ於テ撤回ヲ致シテ、更ニ組替ヲ致シテ本議場ニ提出スベシト云フ、撤回ノ動議ニ贊成ヲ致ス者デアリマス、只今加藤君ヨリ詳細ニ互テ申述ベラレマシタルガ如クニ、此改正案ハ誠ニ其當ヲ得ザル改惡案トモ申スベキモノデアリマス、何等耕地整理當業者ニ對シテ利益ヲ齎シマセヌ、其他ノ此法ニ依ツテ色々ナル便宜ヲ得タモノヲ一切封ジ込シタルト云フノガ、此改正案ノ骨子デアリマス、加藤君ノ申述ラレマシタルガ如クニ、地租法ガ改正ニナツテ、地價ガ賃賃價格ニ課稅標準ガ變テカラシメテ、地租法ニ關聯スル事項ヲ改正シナケレバナラヌト云フ建前カラ起タル、耕地整理法ノ改正ノ此時機ニ當ツテ、此機會ヲ利用シテ幾多ノ改正ヲ企テタト云フノガ、此改正案ノ内容デアアルノデアリマス、此幾多ノ附帶シタル改正ト云フモノニ無理ガアルト云フノガ、吾々ノ議論ノ根據ヲ爲スモノデアリマス

又改正案ノ前段ニ述ベマシタル地租法ノ改正ニ伴フ當然ノ改正ニアリマシテモ、吾々ハ此法律案ヲ一覽致シマシタルニ、頗ル難解ノ字句ガアルノデアリマス、又晦澁ノ文句ガ少クナイノデアリマス、之ヲ農林大臣ニ尋ネマスルニ、一向農林大臣ニハ農分リガナイデアリマス、他ノ政府委員ヲ願ミテ「スリ」メ「モ」ヲ前ニ持出サナイト云

フト御答辯ガ出來ナイト云フヤウナル有様デ、當ノ主務大臣デアアル農林大臣ガ既ニ御現解ニナラナイヤウナル改正法律案デアリマスカラ、吾々モ二三日目ヲ曝シタ、ケデハ、中々此改正案ノ内容ヲ了得スルコトガ困難ニナツタノデアリマス、併ナガラ委員會ニ於ケル日數ハ僅カデアリマシテ、議會ノ會期モ切迫致シタコトデアアルト云フノデ、委員長ガ頗ル氣ヲ揉ンデ居ラレルニ對シテ、御氣ノ毒ニ感ジテ、吾々ハ質問打切ノ動議ニハ、遺憾ナガラ從テ次第デアアルノデアリマスガ、殊ニ最後ニモウ少シ明カナル御答辯ヲ主務大臣タル農林大臣ヨリ承ルコトガ出來ルと思フタノデアリマスガ、ヤハリ初メト同ジデ、一向要領ヲ得ナカッタノデアリマス、他ノ政府委員ニヒマシテモ其通リデアリマス、已ムヲ得ズ耕地整理課長ノ有働博士ヲ煩ハシテ、特ニ急ニ之ヲ政府委員ニ御任命ニナツテ、吾々ノ質疑ニ答辯ヲサレルト云フコトニナツテ、有働博士トノ質疑應答ニ依ツテ種々法案ノ内容ナルモノガ明カニナリ掛ケタ所デ幕ガ閉ジラレタ、斯様ナ譯ニナツタノデアリマス、ソレデアリマスカラ吾々議員ノ職責ヲ致シテ、誠ニ不徹底デアアル、洵ニ遺憾ノ意ヲ表サザルヲ得ザルコトニ相成ツタノデアリマス

御承知置ノ通りニ、此耕地整理法ハ農業ノ耕地ヲ改善ヲ致シテ、農業上ノ利益ヲ増進スル目的ヲ以テ、今ヨリ二十八年前、明治三十三年ノ一月十五日ヲ以テ施行サレタノデアリマス、初メハ唯區劃ノ變更デアアルトカ、或ハ畦畔ノ整理トカ、或ハ土地ノ分合デアアルトカ云フヤウナル、簡單ナルコトニ止メタノデアリマスケレドモ、明治四十二年ニ至リマシテ是ガ根本的改正ヲ企テ、今日ノ耕地整理法ノ基礎ヲ形作ツタノデアリマス、即チ從來初メニハナカッタ所ノ開墾ノ助成ノ精神ヲ以テ、ソレノ方法ヲ講ゼラレタ、或ハ又今マデハ唯共同施設ニ止ラレタ、ソレヲ耕地整理組合ヲ作りマシテ之ヲ

法人格ニ致シ、唯申合セ組合ノ程度ニ止マラズシテ、之ヲ法人ニ致シ、且ツ今マデハ必ズ共同者ハ意思ノ合致ヲ要シタノデアリマスガ、地區内ノ者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ經レバ、強制加入ヲ致サシメルコトガ出來ル、所謂強制編入ノ規定ヲ加ヘタノデアリマス、斯様ナコトニ相成ツテ居リマスカラ、色々耕地整理ヲ爲ス者ニ對シテハ便益ヲ與ヘ、恩典ヲ與ヘタノデアリマス

然ルニ此改正ニ依ツテ其恩典ノ大半ヲ剝奪サレルト云フヤウナコトニ相成ツテ居ルノデアリマス、唯些々タル點ハ從來ノ趣旨ヲ重ズルト云フコトニ相成ツテ居リマスケレドモ、大ナル恩典ト認ムベキモノト云フモノハ、悉ク奪取セラレタノデアリマス、其中ニ付テ先程加藤鏡五郎君ヨリ詳細ニ述ベラレタル所ノ、市街宅地ト云フヤウナ方面ニ於ケル耕地整理ト云フモノハ、儼トシテ此耕地整理法カラ除外サレタノデアリマス、又今日マデヤツタ所ノ宅地ニ對シテモ、此法ノ施行以後ト云フモノハ、ソレニ對スル恩典ノ大半ヲ奪去ラレルト云フコトニ相成ツテ居ルノデアリマス、又普通ノ耕地整理ノ地區ニ致シマシテモ、此改正法ガ成立ヲ致シマスル以前ニ手續ヲ完了シテ、ソレゾレノ地價ト云フモノヲ新シイ土地ニ配賦ヲ致シマシタル其モノハ別問題ト致シマシテ、此手續ノ完了ニ至ラナイモノハ、全部恩典ノ大半ヲ剝奪スルト云フコトニナル間違ヒタヤリ方ヲ、此改正法デヤラウト致シテ居ルノデアリマス、斯様ナル色々ノ點ヲ吾々ハ擧ゲマスルト云フコトハ、是ハ改善デナクテ改惡デアアルト云フ結論ニ到達ヲ致スノデアリマス

一部ノ論者竝ニ政府當局ニ於テハ、吾々ハ宅地ニ重キヲ置クノデハナイ、宅地ト云フモノハ萬已ムヲ得ザル場合ノミ之ヲ適用スルノデアアル、然ルニ市街地ノ附近ニ於テハ將來宅地ニ致スト云フ目的ヲ以テ耕地整理ヲ始メルノデアアルカラ、是ハ法ノ惡用デア

アルナゾト云フコトヲ言ハレ、吾々ノソレニ對スル攻撃ニ堪ヘズシテ、内務大臣ノ如キハ遂ニ「(二字)ト云フ文字ヲ用ヒタノハ惡カッタト謝罪サレ、取消サレタト云フ事實モ加藤君カラ申述ラレタ通りデアアルノデアリマス、苟モ主務大臣タル農林大臣ガ、地方長官ノ申請ニ依ツテ之ヲ許可シタル其事項ヲ、惡用致スナゾト、立派ナル輔弼ノ責任ニアル國務大臣ガ議會ノ真中デ放言スルナゾト云フコトハ、不謹慎デアアルカ、盲目的デアアルカト云フコトニ付テハ、委員一同嗚然トシテ、流石ノ與黨ノ諸君モ色ヲ失ハザルヲ得ナカッタト云フ次第デアッタノデアリマス、斯様ナ事ノ生ジマシタハ何故デアルカ、若シモ宅地ノ整理ト云フモノガ必要デナイトスレバ、所謂區劃整理ト云フモノノ施行精神ハ何ニ依ツテ行ハレルノデアアルカ、區劃整理ト云フモノハ大ナル都市ニ於テ行ハレルト云フコトノ必要ヲ感ジテ居ルノデアアル、現今之ニ漏レタルモノ、又區劃整理ト云フ勅令ノ出ナイ前ニ當ツテ、即チ其母法タル都市計畫法ト云フ法律ガマダ出デザル以前ニ當ツテ、耕地整理ヲ通ジテ是等ノ仕事モ派生的ニヤツテ居、是デ大ニ便益ヲ得タノデアアル、之ヲ今日急ニ廢スルト云フコトニナレバ、是等ノ計畫ヲ致シタル者、又計畫ヲ致サントスル地區ニ於キマシテハ、非常ナル不便ヲ感ズルノデアアル、又準備ヲシタノガ水泡ニ歸スルト云フコトニナルナラバ、非常ニ不利益ヲ受クルコトニナル一片ノ法律ノ改正ヲ以テ是等ノ既得ノ權利ヲ剝奪スルト云フコトハ、是ハ違法デアアルト吾

吾ハ考ヘルト云フヤウナル意見ノ陳述モ致シタノデアリマスルガ、是ハ違法デアハナイ、アレハ權利トハ認メラレナイ、思惑ガ外レタ程度ダナド、云フヤウナ、無責任ナ言葉ヲ以テ吾々ノ質問ヲ抹殺セント試ミラレタ政府委員モアツタノデアリマス、法律上ニ於ケル權利デアハナイカモ知レマセヌ、併ナガラ地方長官ガ申請ヲシテ、主務大臣ガ之

アルナゾト云フコトヲ言ハレ、吾々ノソレニ對スル攻撃ニ堪ヘズシテ、内務大臣ノ如キハ遂ニ「(二字)ト云フ文字ヲ用ヒタノハ惡カッタト謝罪サレ、取消サレタト云フ事實モ加藤君カラ申述ラレタ通りデアアルノデアリマス、苟モ主務大臣タル農林大臣ガ、地方長官ノ申請ニ依ツテ之ヲ許可シタル其事項ヲ、惡用致スナゾト、立派ナル輔弼ノ責任ニアル國務大臣ガ議會ノ真中デ放言スルナゾト云フコトハ、不謹慎デアアルカ、盲目的デアアルカト云フコトニ付テハ、委員一同嗚然トシテ、流石ノ與黨ノ諸君モ色ヲ失ハザルヲ得ナカッタト云フ次第デアッタノデアリマス、斯様ナ事ノ生ジマシタハ何故デアルカ、若シモ宅地ノ整理ト云フモノガ必要デナイトスレバ、所謂區劃整理ト云フモノノ施行精神ハ何ニ依ツテ行ハレルノデアアルカ、區劃整理ト云フモノハ大ナル都市ニ於テ行ハレルト云フコトノ必要ヲ感ジテ居ルノデアアル、現今之ニ漏レタルモノ、又區劃整理ト云フ勅令ノ出ナイ前ニ當ツテ、即チ其母法タル都市計畫法ト云フ法律ガマダ出デザル以前ニ當ツテ、耕地整理ヲ通ジテ是等ノ仕事モ派生的ニヤツテ居、是デ大ニ便益ヲ得タノデアアル、之ヲ今日急ニ廢スルト云フコトニナレバ、是等ノ計畫ヲ致シタル者、又計畫ヲ致サントスル地區ニ於キマシテハ、非常ナル不便ヲ感ズルノデアアル、又準備ヲシタノガ水泡ニ歸スルト云フコトニナルナラバ、非常ニ不利益ヲ受クルコトニナル一片ノ法律ノ改正ヲ以テ是等ノ既得ノ權利ヲ剝奪スルト云フコトハ、是ハ違法デアアルト吾

ヲ認可致シタルモノハ、是ハ政治道徳ノ上  
 カラ見マシテモ、政治上ノ權益デアルト云  
 フコトハ明カデアアル、政治上ニ取得致シタ  
 ル權利デアルト云フコトハ明カデアルト吾  
 吾ハ論斷ヲ致シテ、色々質問致シマシタケレ  
 ドモ、遂ニ曖昧模糊デラッタ、然ラバ市街地  
 ト云フモノハドウ云フ意味デアアルカト云フ、  
 市街地ノ概念ニ對シテ種々質問ヲ重ネタノ  
 デアリマスルガ、何等確定ノモノハナイ  
 ノデアリマス、市街地ト云フモノハ常識デ  
 判斷ヲスルト云フ、然ラバ常識ノ根據ハド  
 ウダト聽クト、是ハ其時ノ事情ニ依ルノデア  
 ルト云フ、其時ノ事情トハ何ゾヤ、實例ハ  
 ドウダト云フコトニナルト、市ノ行政區域  
 以外ノ指定地域ハ或ハ道路ヲ以テ之ヲ境ヲ  
 スル、サウスルト道路ノ向フ側ト此方側  
 ニ依テ、取扱ニ非常ナル甲乙ガ出來ルガド  
 ウダ、殊ニ東京ノ眞中トハ違テ、市ノ外レ、  
 或ハ町村ニナリマスルト、耕地ガ其間ニ點  
 點挾マル、是等ノモノヲ一律一體ニ法ノ適  
 用ヲ受ケナイヤウニナルト云フコトハ、將  
 來地方農村市街地ノ爲ニ脅威トナルノデア  
 ルト云フヤウナコトヲ申上ゲ、之ニ對シテ  
 將來指定地區ハドウ云フ内容ヲ有スルモノ  
 デアルカ、如何ナル内容ヲ以テ地區ヲ指定  
 スル積リデアアルカト云フヤウナコトヲ質問  
 致シタニ對シマシテモ、色々御答辯ガアリ  
 マシタガ、遂ニ要領ヲ得ナカッタノデアアル、  
 毎日々々三日間ニ互ル質問ニ對シテ、毎日  
 是等ノ問題ニ對シテ答辯ガ違フノデアアル、  
 ソレデ吾々ハ更ニ質問ヲ繼續セント致シタ  
 ノデアリマスルガ、奈何セシ、時間ノ關係  
 上質問ノ打切ト相成ッタ次第デアリマス

マス、之ニ對スル豫算ヲ見マシテモ、五億  
 一千八百萬圓ト云フ數字ヲ今日吾々ハ見ル  
 ノデアアル、今日マダ負債トシテ殘テ居ル元  
 金ヲ取立テ、見テモ、一億三千万圓ニ上ツテ  
 居ル、昭和六年度ニ於テ償還スベキ元金、  
 竝ニ利子ヲ合計致シマスルト、約二千萬圓、  
 是等ノモノヲ如何ニシテ償還スルカト云フ  
 コトハ、今日ノ大問題ニ相成テ居ル、之ニ  
 對シテ如何ナル解決策ヲ持ッテ居ルカト云  
 フコトヲ伺ヒマシタガ、之ニ對シテハ農林  
 當局バカリデナク、大藏大臣ノ出席ヲ求メ  
 マシテ、色々之ニ付テ對策ヲ伺ッタノデアリ  
 マスルガ、低利資金、即チ預金部資金ノ貸  
 出ノコトデアアルカラシテ、預金部運用委員  
 會ノ決定ヲ俟タナケレバ成案ハ發表スルコ  
 トガ出來ヌ、腹案ハ農林大臣トノ間ニハ出  
 來テ居ルケレドモ、未ダ省議ノ決定ヲ經ナ  
 イカラ、之ヲ發表スルコトハ出來ヌト云フ  
 ヤウナ答辯ガアリマシタカラ、私共ハ此點  
 ハドウスル、アノ點ハドウスルト云テ伺  
 タノデアリマスケレドモ、遂ニ的確ナル答  
 辯ヲ得ルコトガ出來ナカッタノデアリマス、  
 即チ今日非常ナル米價安ニ苦ンデ居ルノデ  
 アリマスガ、此耕地整理法ニ依リマシテ計  
 畫ヲ立テマシタモノ、米價ノ基礎ハ幾ラ  
 デアルカト云フト、即チ償還能力ノ基礎ニ  
 計算ニ取ツタ所ノ米價ハ、昭和三年マデハ約  
 三十二圓見當デアッタノデアリマス、昭和四  
 年ニナツテ是ガ三十圓ニナリ、昭和五年ニ  
 ナツテ是ガ二十九圓ニ下ツタノデアリマス、  
 二十九圓ト云ヒ、三十圓ト云ヒ、今日ノ米  
 價ニ比較致シマスルト、約倍額デアアルノデ  
 アリマス、今日ハ十六圓五六十錢、十七圓  
 ガ中央ノ公定相場ノ中値デアリマセウ、地  
 方農村ニ於ケル庭渡ノ値段ト云フモノハ、  
 ソレヨリ一圓乃至二圓ノ下ヲ灣テ居ルノ  
 デアリマス、十四圓ト云フ此米價ヲ以テ、  
 縱ンバ昭和五年ニ定メタル二十九圓ノ米價  
 ヲ基準ト致シタル豫算ト雖モ、到底年賦金  
 ノ償還ト云フモノヲ實行スルコトガ出來ナ

イデハナイカ、ソレデ今日負擔金、年賦金  
 ノ償還不能ニ陥テ居ルト云フコトハ、洵ニ  
 當然過ギル程當然ナ事象デハナイカ、ソレデ  
 アルカラ吾々ハ之ニ對シテ、約五箇年ノ間  
 ノ中間償還期間ヲ設定シテ貫ヒタイト云フ  
 コトハ、當業者ヨリ熱心ニ當局ニ向ッテ陳情  
 致シテ居ルノデアアルガ、之ニ對シテハドウ  
 デアルカト云フコトヲ質問致シタノデアリ  
 マスケレドモ、ソレニ對シテ的確ナル御答  
 辯ガナイ、段々答辯ヲ承ルト云フト、何カ  
 償還年限ヲ幾分か延長ヲ致シテ、今年ナリ  
 來年ナリノ償還ノ額ヲ幾分か縮メルト云フ  
 ヤウナコトノ匂ガスル程度ノ御答辯ガア  
 タノデアリマス、而シテ吾々ハ償還期限ヲ  
 延長シ、其年々々ノ償還金額ハ幾分か少ク  
 ナリマシテモ、償還能力ノ増加ト云フモノ  
 ハ求メ得ナイノデアアル、ソレガ爲ニ吾々ハ  
 償還能力ガ充實シテ、サウシテ今年賦金ヲ  
 返還スルコトノ出來ルヤウナ力ガ出來ルモ  
 ノデハナイ、殊ニ米價即チ農産物價下落ニ  
 依ッテ生ジタル力ノ不足デアリマスカラ、之  
 ヲ補フノニハ、ドウシテモ借入金額ヲ減ジ  
 ナケレバナラヌ、借入金額ヲ正面カラ積極  
 的ニ之ヲ減額スルコトハ許サヌトスルナラ  
 バ、其仕拂フ利子ヲ減ズレバ、即チ是ガ元  
 金ヲ減額シタト同ジヤウナル效果ガ及ブノ  
 デアル、然ルニ五分四厘ノ平均利子ガ四分  
 八厘ニナツタト云フノハ、郵便貯金ノ預金利  
 子ノ引下ニ依ル當然ノ引下デアアル、ソレデ  
 ハ吾々ニハ何等ノ痛痒ヲ感ジナイノデアアル  
 カラ、更ニ之ヲ外ニシタル利子ノ引下ヲ要  
 求スルノデアアル、之ニ對シテ大藏大臣ハ如  
 何ナル決心ト抱負ト有セラル、ヤト吾々  
 ハ熱心ニ之ヲ質問致シタノデアリマスガ、  
 ヤハリ前言ヲ繰返スノミデアリマシテ、何  
 等の確ナル答辯ヲ得ナカッタノデアリマス

斯ノ如ク致シテ農村ヲ救済シ、農業經營  
 ノ合理化ヲ致ス第一線ニ進ンデ居ル耕地整  
 理事業ト云フモノハ、今や破綻ニ瀕シ、大  
 半ハ破壊サレント致シテ居ルノデアリマス、  
 吾々ハ其實例ヲ申述ベマシテ、即チ山形縣  
 ニ於ケル松澤耕地整理組合、岐阜縣ニ於ケ  
 ル所ノ一組合、斯ウ云フヤウナル色々極  
 度ノ困難ニ陥ッテ居ル組合ガアリマスガ、即  
 チ岐阜縣ニ於ケル所ノ揖斐郡谷汲村ニアリ  
 マスル名禮耕地組合、斯ウ云フモノハ非常  
 ナル疲弊困憊ノ極ニ達シテ、當時是ガ世話  
 役ヲ承ッタ人ハ、村ノ人ニ對シテ何トモ面目  
 次第モナイト云フノデ、門ヲ閉シテ外ニ出  
 デナイト云フヤウナル、徒ニ天ヲ仰イデ死  
 ヲ待ツト云フヤウナル氣ノ毒ナ状態ニナ  
 テ居ル、或ハ山林デアッタ時代ニハ多少ノ收  
 入ガアッタガ、今日ニ於テハ水源或ハ水路ノ  
 不完全カラシテ、到底何等ノ作物モ穫リ得  
 ナイト云フヤウナル實情ニアルト云フヤウ  
 ナコトヲ吾々ハ申述ベ、一面ニ於テハ山形  
 縣ノ南村山郡松澤耕地整理組合ニ對シマシ  
 テハ、反對者ヲ抑切ッテヤッタ事業デアアルガ  
 爲ニ、今日反對者ハ頑強ニ反對ヲ致シテ、  
 負擔金ヲ納メナイ、是等ノ事ト相俟チマシ  
 テ、工費ガ存外餘計掛ッタ、豫算ノ三倍四倍  
 ト云フヤウナル多額ノ工費ヲ要シタガ爲  
 ニ、是ガ整理ニ容易デナイト云フヤウナコ  
 トモ申述マシタ、是等ニ對シテハ當局ニ於  
 テモ十分御承知ノコトデアアル、是等ニ對シ  
 テハソレレノ救済方法モ立テ、居ルガ、  
 尙ホ一層ノ盡力ヲ致サウト云フダケデ、其  
 内容ニ付テ伺ヒマシタケレドモ、何等吾々  
 ヲ満足サセル的確ナル内容ノ御持合ガナカ  
 タト云フコトハ、洵ニ吾々ノ遺憾トスル所  
 デアリマス、耕地整理ノ事業ト云フモノハ  
 將來如何ニスル積リデアアルカ、米價安トソ  
 レカラ過剩米穀生産ト云フ、此事情ヲドウ  
 見ルカト云フコトヲ質問シマシタガ、之ニ  
 對シテハ一時的ノ豐作デアアルカラ、年々繰  
 返スベキモノデナカラウカラ、既定方針ハ  
 變ヘナイ積リデアアルト言ハレル、既定方針  
 ヲ變ヘナイト云フナラ、吾々ハ組合ノ助成  
 方法或ハ開墾事業ノ助成方法ト云フモノ  
 ハ、益、力ヲ入レナケレバナラヌノニ拘ラ

ス、緊縮實行豫算ノ編成ト伴テ、今日マデ大正十四年以來格段ノ減額ヲ來シテ居ルノデアル、斯様ナコトノ埋合セテ、此法律改正ニ當テ他ノ特典ヲ割奪シテ、ソレニ廻スベキ金ヲ、即チ今マデ豫算ニ於テ減額サレタル開墾助成、耕地整理組合助成金ノ此缺陷ヲ補充スルコトヲ云フヤウナル意味ニモ取ラレルデハナイカト云フコトヲ、私共ハ當局者ニ向テ伺フタリマラスガ、之ニ對シテハ確タル御答辯ハナカッタト吾々ハ記憶スルノデアリマス、之ヲ要スルニ此耕地整理問題竝ニ將來耕地ノ擴張計畫竝ニ米穀増收對策ト云フモノトニ付テハ、農林當局ハ的確ナル所ノ對策ヲ持セガナイト云フコトガ明カニナラ、デアリマス、是ニ於テ耕地整理事業ニ關係有スル者ハ益、其憂ヲ深ク致シタト云フ結論ニ到著致シ、其他耕地整理組合法ヲ通ジマシテ、都市計畫ノ立直シヲ致サウト努メル者ニ對シテハ、絕對ニ今後ハ許サレナイデハナイカト云フ危懼ノ念ヲ持タシメルヤウナル立法ヲ敢テスルコトニ相成ラ、デアリマス、ソレハ都市計畫法ニ讓リ、農林當局ハ言ヒマスケレドモ、都市計畫法ノ中ノ區劃整理、殊ニ都市計畫ト云フモノハ、全國ニ四十何市アリマセウ、其都市ノ中デ之ノ實行サレテ居ルモノハ僅少ニ過ギナイト吾々ハ承知致シテ居ルモノデアリマス、爾餘ノ市以下ノ町村ノ密集市街地ニ於テモ、何等適用サルベキ所ノ法律ヲ持合セハナイ、何等助成ノ方法ガナイト云フコトニ今日ハ相成テ居ルノデアリマス、左様デアリマスルカラ此法律ニ依テ、即チ第三條ノ二ト云ノ此一條項ヲ加ヘテ、將來市街地ニナルヤウナ事態ヲ豫想サレル土地ハ、耕地整理法カラ斷然之ヲ除外スルト云フヤウナル事項、竝ニ附則第十六條ト云フモノヲ新ニ制定サレテ、從來耕地整理法ニ據ラ所ノ宅地ト云フモノニハ、將來恩典ヲ何等與ヘナイト云フヤウナル除外法律ヲ茲ニ作ラレタト云フコトハ、吾々ノ非常ニ

不滿トスル所デアアルバカリデナク、與黨諸君ニ於テモ大ナル不滿ガアルト云フコトヲ吾々ハ承テ居ルノデアリマス、現ニ今日此大切ナル耕地整理改正法案ニ對シテ何等討論ヲナサラナイ、吾々ノ是ダケノ内容ヲ持テ居ル所ノ此議論ニ對シテ何等反對ノ御演說ガナイ、原案贊成ノ御演說サハ御遠慮ニナルト云フ裏面ヲ拜察スルナラバ、此案ノ内容ノ如何ナルモノデアアルカト云フコトガ、天下悉ク知り得ルダラウト思ハレル(拍手)私ハ更ニ呷々ヲ用フル必要ナシト思フ、不十分ナガラ此程度デ以テ加藤錄五郎君カラ申述ベテ趣旨ニ於ケル撤回論ニ對シテ贊成ノ意ヲ表シ、原案ニ對シテハ大ナル反對ノ意思ヲ表明シテ降壇セントスルモノデアリマス(拍手)

○議長(藤澤幾之輔君) 討論ハ終局致シマシタ、是ヨリ採決ニ入りマス、先ヅ加藤君外七名提出ノ撤回動議ヲ採決致シマス、撤回ノ動議ニ贊成ノ諸君ハ起立ヲ望ミマス  
〔贊成者 起立〕  
○議長(藤澤幾之輔君) 少數デアリマス、仍テ撤回動議ハ否決セラレマシタ、次ニ本案ノ第二讀會ヲ開クヤ否ヤ御諮リ致シマス、本案ノ第二讀會ヲ開クニ贊成ノ諸君ハ起立  
〔贊成者 起立〕  
○議長(藤澤幾之輔君) 起立多數デアリマス、仍テ本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○作田高太郎君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開カレンコトヲ望ミマス  
○議長(藤澤幾之輔君) 作田君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ  
〔異議ナシト呼フ者アリ〕  
○議長(藤澤幾之輔君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ第二讀會ヲ開キマス

耕地整理法中改正法律案 第二讀會  
○議長(藤澤幾之輔君) 別ニ御發議ハアリマセヌカラ、委員長報告通リ決シマシタ、

之ニテ本案ノ第二讀會ハ終リマシタ  
○作田高太郎君 直チニ本案ノ第三讀會ヲ開カレンコトヲ望ミマス  
〔異議ナシト呼フ者アリ〕  
○議長(藤澤幾之輔君) 作田君ノ動議ニ御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ第三讀會ヲ開キマス

耕地整理法中改正法律案 第三讀會  
○議長(藤澤幾之輔君) 別ニ御發議ガアリマセヌカラ第二讀會議決ノ通り可決確定致シマシタ(拍手)日程第十四及第十五ハ同一委員ニ付託シタル議案ナルニ依リ、一括議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ  
〔異議ナシト呼フ者アリ〕  
○議長(藤澤幾之輔君) 御異議ナシト認メマス、日程第十四、國立公園法案、日程第十五、土地收用法中改正法律案ヲ一括シテ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス 委員長八木逸郎君

第十四 國立公園法案(政府提出)  
第一讀會ノ續(委員長報告)  
報告書  
一 國立公園法案(政府提出)  
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也  
昭和六年三月九日  
委員長 八木 逸郎  
衆議院議長藤澤幾之輔殿

第十五 土地收用法中改正法律案(政府提出)  
報告書  
一 土地收用法中改正法律案(政府提出)  
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也  
昭和六年三月九日  
委員長 八木 逸郎  
衆議院議長藤澤幾之輔殿

○八木逸郎君 本案委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告致シマス、本案ハ國民多年ノ要望デ、數年前ヨリ時ノ内閣ガ其要望ヲ滿タサシガ爲ニ研究モサレ、審査モサレ、國立公園委員會ノ設置ヲシテ、之ニ諮詢セラレタ結果、今回愈々著手ニ及ベシト云フコトニナリマシタノガ、本案ノ現レタ所以デアアルデアリマス、而シテ國立公園設置ノ要旨ハ、日本ノ富メル大自然ヲ區劃シテ、國家ガ之ヲ公園トシテ經營ヲ爲シ、世界各國ニ其美ヲ宣揚スル、又國民ノ心身ノ健康ヲ進メ、更ニ此雄大ナル自然ニ憧レテ來ルベキ外人ヲ誘致スルコトヲ云フコトハ、國家ノ爲ニ種々ナル點ニ於テ大ナル效果ガ現レルト云フコトカラ、此法案ガ提案サレタ次第デアリマス  
而シテ此趣意ニ於テハ委員諸君ガ全然同意ヲサレマシテ、異論ハナカッタデアリマス、唯劃時代の法案デアリ、一度誤レバ國家百年ノ長計ヲ誤ルト云フコトデ、委員諸君ハ非常ニ御熱誠ヲ以テ此委員會ニ於テ、攻究ヲサレタデアリマス、即チ法律ノ根本精神ニ大體觀ハ、固ヨリ微ニ入り細ニ互リ國務大臣ヲ首メ内務ノ政府委員ハ勿論、或ハ史蹟名勝天然紀念物ノ關係ニ付テハ文部大臣ニ聽キ、國有林、保安林ニ關シテハ農林大臣ノ説明ニ聽キ、又水力電氣ニ關シテハ逓信省ノ政府委員ニ聽キ、交通若クハ觀光ノコトニ對シテハ鐵道省ニ聽キ五回開キマシテ、其中ノ委員會ノ一ツハ九時間打通シニ勵精サレタデアリマス、又五時間位ノ委員會ハ數回アリマシテ、滿場一致デ可決ニナラ、デアリマス、右様ノ次第デ質問應答ノコトヲ御紹介スルコトハ甚ダ煩瑣ニナリマスルガ故ニ、委員會ノ應答ハ速記録ニ讓リマシテ、御報告ヲ致シマセヌ、唯一ツ申上ガテ置キタイノハ、委員諸君ノ御希望トシテ、此候補地ハ國立公園ノ委員會デ、候補地トシテ選定サレタ十六箇所ノ區域ニ限ラズシテ、將來尙ホ研究シテ、更ニ大ナル規模ニ擴ゲテ、サウシテ國家百年

ノ大公園ニ致シタイト云フ御希望ガ、政民  
兩黨ノ委員諸君ノ御意見デアッタト思フ  
デアリマス、而シテ終リニ臨ンデ満場一致  
デ御可決ニナッタデアリマス、序ナガラ併託  
ニナリマシタ法案ニ付テ御報告致シマス、  
御併託ニナリマシタノハ土地收用法ノ改正  
デアリマス、此改正ノ法案ハ、全委員ガ十  
分御諒解アラセラレタト見エマシテ、政府  
委員ノ説明ヲ一切省キ、僅カ一分以内ニ於  
テ、満場一致ヲ以テ可決致シタデアリマ  
ス、委員會ニ於テ明治二十三年以來「レコ  
ード」ラ此委員會ニ於テ現シマシタコトヲ  
委員長ハ光榮トシテ此壇ヲ降りマス(拍手)  
○議長(藤澤幾之輔君) 質疑ハアリマセ  
ス、討論ニ入りマス——土倉宗明君

○土倉宗明君登壇

贊成ヲスル者デアリマス、蓋シ本案ハ多年  
ノ間本議場ニ於キマシテモ、第二十八議會  
以來或ハ建議ノ形トナリ、或ハ請願ノ形ト  
ナリ、屢、現レマシテ、此案ノ必要ナルコ  
ト、重要ナル點ハ既ニ何人ニ於テモ之ヲ  
認メテ居ルノデゴザイマス、併ナガラ本案  
タルヤ我日本ニ於テ初メテノ試ミデアリマ  
シテ、歐米先進國ノ國立公園ニ對シマスル  
態度カラ見マシテモ、極メテ大切ナル問題  
デアリマシテ、慎重ニ事ヲ進バナケレバナ  
ラナイト信ジテ疑ハナイデアリマス、隨  
ヒマシテ本案ニ對シテ吾々ハ委員會ニ於キ  
マシテモ、大臣及ビ政府委員ト屢、質問應  
答ヲ重ネテ、本案趣旨ノ貫徹ニ當リ、政府  
ハ果シテ幾許ノ誠意ト、サウシテ本案ノ重  
大性ヲ存ジテ居ルカト云フ點ニ觸レテ見マ  
スト、政府ノ誠意、又政府當局ノ答辯ハ、  
全ク此國立公園ナルモノ、趣旨ニ合致シナ  
イ意味ノ御答辯ヲ屢、承ルノデゴザイマス  
抑、國立公園ト市井ニアリマス普通ノ造  
園ノ公園トハ、動モスレバ混同スル嫌ヒガ  
アルヤウニ窺ハレタデアリマス、造園ノ  
公園ト云フモノト、國立公園ノ趣旨ハ根柢

カラ異テ居リマス、造園ノ公園ハ人力ヲ用  
ヒ、人工ヲ加ヘテ之ヲ造形スルニアルノデ  
ゴザイマスガ、國立公園ナルモノノ意義精  
神ハ言ハズト明カナル如ク、大自然其儘ニ  
出來ルナラバ一點も人工ヲ加ヘズ、天然自  
然其儘ヲ用フルト云フノガ國立公園ノ趣旨  
デアルト私共ハ信ジテ疑ハヌノニ、政府ガ  
此點ニ對シテ、此趣旨ヲ基礎トシテ、今ヤ  
選定サレテ居リマス、十六候補地トシテ採  
用スル所ノ場所ハ、成ベク地方分布的ノ見  
地カラ選定致シタデアルト云フコトヲ、  
内務大臣ハ屢、吾々ニ言明サレタノデゴザ  
イマス、是ハ多年ノ國民要望デアリ、天下  
ノ希望スル所デアアルコトハ政府モ認メ、又  
何人モ之ヲ認メテ居ルノデアッタ、此問題ガ  
天下ニ公表致サレマスヤ、各地方カラ國立  
公園指定ヲ希望スル所ノ者ガ續々トシテ運  
動ヲ起シ、而モ速ニ國立公園指定ノ恩惠ニ  
浴センモノトシテ、非常ニ熱烈ナル運動ノ  
起リツ、アルコトハ、何人モ之ヲ御存ジデ  
アリマセウ、此熱烈ニ希望スル所ノ者ニ對  
シテ、國立公園ルナモノ、眞ノ意義ヲ政府  
ハ明カニ示サズシテ、出來ルダケ、而モ萬  
遍ナク各地方々々ノ希望ヲ滿シ、日本全國  
カラ普ク之ヲ分布的ニ採ラントスルガ如キ  
傾向ヲ言明サレルノデアリマス、是ハ甚ダ  
吾々トシテハ怪シカラスト思フノデアリマ  
シテ、天然自然ヲ基礎トシ、大自然其儘ヲ、  
近代ノ混濁セル此社會風教ノ一面カラ之ヲ  
教化ニ資シ、或ハ國民保健、健康ニ之ヲ資  
セントスル上カラ行キマシテ、我ガ日  
本國中ニ於テ、例ヘバ北海道若クハ九州、  
或ハ其他如何ナル地點ニ假ニ斯ノ如キ優秀  
ナル所ノ國立公園ニスベキ所ノモノガ偏在  
シテ居リマシテ、モ、此偏在シタル所ノモ  
ノカラ、漸次選擇ヲ行クト云フ方針ヲ  
執ラナケレバナリマセヌノニ、政府當局ハ  
動トモスレバ此全國ニ多ク希望ヲ持テ居  
ル所ノモノヲ失望セシメザランガ爲ニ、若  
クハ是等ノ人ノ運動ヲ起サシメテ、動トモ

スレバ之ヲ政治的ニ利用ナサントスル傾向  
ガ十分ニ窺フコトガ出來ルノデアリマス、  
斯ノ如キコトアリト致シマスナラバ、所謂  
此意義アル所ノ國立公園法案ヲ以テ、黨勢  
擴張ノ具ニ供スル所ノモノデアッタ、神聖ナ  
ル所ノ本案ヲ冒瀆スルモ甚シイト謂ハナケ  
レバナラヌ(拍手)吾々ハ斯ノ如キ意思ヲ以  
テ質問ヲ致シタデアリマスルガ、内務大  
臣ハ左ニアラズ、決シテ左ノ如キ偏頗ナル  
處置ヲ以テ此候補地ノ選定ヲナスモノニ非  
ズト斯様ニ屢、辯明ヲサレ、又辯解ヲサレタ  
ノデアリマスケレドモ、依然トシテ地方  
分布的ニ之ヲ採用セントスルノデアルト云  
フ御意思ヲ聲明セラレル理由ハ、吾々ハ解  
釋スルニ苦シムモノデアリマス、北海道ニ  
偏シヤウガ、九州ニ偏シヤウガ、將タ何レ  
ニ偏シヤウガ、眞ニ國立公園其モノノ趣旨  
ニ合致スル所ノ候補地デナクテハ、之ヲ採  
ルモノニ非ズト云フ意思ヲ何故ハキリト  
聲明ヲナサラヌノデアリマスカ(速記録ヲ  
見ロト呼フ者アリ)速記録ノ如何ナル點  
ニ左様ナル言アルカハ、吾々ハ委員トシテ  
之ヲ發見スルコトガ出來ナイバカリデナシ  
ニ、之ヲ曾テ聞イタコトモゴザイマセヌ、故  
ニ最終ノ質問當日ニ於キマシテモ、本案  
ハ此點ニ對シテ吾々ハ斯ノ如キ方針ノ下ニ  
於テ初メテ善良ナル仕事、神聖ナル所ノ國  
立公園ト云フモノガ選定サルベキモノデア  
ルト云フコトヲ、不肖ナガラ内務大臣ニ御  
教ヲ申上ガタノデゴザイマス

デゴザイマス、ソレガ濫觴トナツテ今日ノ亞  
米利加ニ於テハ約二十數箇所ノ多キニ達シ  
テ居ルノデアリマス、漸次其規模モ擴張サ  
レ、サウシテ完全スルニ至ラタデアリマ  
ス、所ガ此計畫ガ最初爲サレテカラ今日ノ  
計畫ノ概要ヲ見マストキ、最初ハ成ルベク  
人工ヲ加ヘ、天然ヲ主ニセズシテ、動トモ  
スレバ人工多キヲ加ヘルト云フ傾向ガア  
タノデゴザイマスガ、ソレガ漸次々々、一  
歩々々ト數方増加致シマスルニ從テ、成タ  
ケ人工ヲ省ク、天然ヲ基礎トシテ此天然ヲ  
保存シ、若クハ之ヲ變改スルガ如キコトハ  
極度ニ避ケルト云フヤウナ傾向ニナツテ居  
ルコトハ、皆様モ御案内デアラウト思フノ  
デゴザイマス、固ヨリ歐羅巴ノ各地ニ於テ  
モ亞米利加ノ如キ大規模、巨額ナル經費ヲ  
使テ採タル所ハ稀デアリマスルナレド  
モ、各國共ニ國立公園ナルモノヲ設定シテ  
居リマスル趣旨ハ、悉ク此大自然ヲ以テ現  
代ノ物質文明、科學文明カラ受ケル幾許ノ  
弊害ト、サウシテ打擊シテ大自然ニ依テ、  
天然ノ懷ニ依テ之ヲ育ム、而モ之ヲ教化セ  
ントスル所ノモノニ依テ初メテ國立公園  
ナルモノ、重大性ガ發見セラレルノデゴザ  
イマス、顧ミテ我ガ日本ノ是等十六箇所ヲ  
舉ゲラレマシタル國立公園ノ候補地ト言ハ  
レマスルモノハ、悉ク世界ニ於テモ稀ニ見  
ル所ノ景勝ノ地デアアル、又各々其特徴ヲ備  
ヘテ居ル所ノモノデアリマス、譬ヘテ中  
述ベテ見マサルナラバ、北海道ノ登別溫泉  
ヲ中心トスル公園、或ハ青森ノ十和田湖ヲ  
中心トスル所ノ候補地、或ハ大山ヲ中心ト  
スル所ノ候補地、或ハ富士ヲ中心ニスル所  
ノ候補地、日光ヲ中心ニスル所ノ候補地、  
更ニ四國ニ行キマシテハ小豆島及ビ屋島ヲ  
中心トスル所ノ瀬戸内海ヲ包含スル所ノ國  
立公園、更ニ九州ニ渡リマシテハ長崎ノ  
雲仙ヲ初メ、霧島及ビ阿蘇、更ニ又黒部溪  
谷ヲ中谷トスル所ノ立山連峰ノ候補地、此  
立山ヲ中心ニスル所ノ日本「アルプス」候補

地ノ如キハ、實ニ是ハ歐羅巴、亞米利加ニ於テモ稀ニ見ル所ノ絶勝ノ地デアアルコトハ、是ハ天下悉ク認メル點デアラウト思フゾゴザイマス(ソレダケ言ヘバ宜イ)ト呼フ者アリ)敢テ私ハ諸君ノ申サル、ガ如ク、ソレダケ言ヘバ宜イト云フゾゴザイ、何カノ特徴ガナクテハナリマセヌ、其特徴ノ點カラ行ケバ、私ハ自分ガ富山縣選出デアルカラ立山連峰、即チ日本「アルプス」中心ノ候補地ヲ茲ニ激賞スル者デハナイ、吾等ノ政敵デアリ、又現内閣ノ内務大臣デアラセラレマスル所ノ安達君ノ御郷里ノ九州熊本ノ、阿蘇ヲ中心トスル所ノ國立公園ナドモ、私ハ激賞シテ已マザル所ノ者ゾゴザイマス、阿蘇ハ諸君モ御案内ノ如ク世界ニ於ケル所ノ火山トシテ、其火口ニ於テ世界一ヲ誇ル所ノモノデアリ、現ニ又此大自然ノ活動ガ何人ニ依ツテモ、足ヲ運ビマスレバ此狀態ヲ見得ルト云フコトハ、是レ天下ノ奇觀デアリ、壯觀デアアルゾゴザイマス、此點ニ向ツテ、此風景ト此大自然ノ活動其モノヲ資料トスル點カラ申シマシテモ、私ハ國立公園ノ候補地ノ中ニ這入ルト云フコトハ敢テ不當デハ決シテナイト思フゾゴザイマス、又之ヲ選定致シマシテモ、決シテ不當デハナイト思フゾゴザイマス、此點ハ私ハ安達内務大臣ト交換的、若クハ安達内務大臣ニ媚ヲ呈シテ阿蘇ヲ激賞スル者デハ斷ジテナイノデアアル、所謂國立公園ノ趣旨ニ副フ所定シ、サウシテ之ニ向ツテ完全ナル設備ヲ施スト云フコトガ、初メテ此國立公園ナルモノ、意義ヲ了解シテ居ルモノデアルト私ハ言ウテ差支ナイト思フ(拍手)然ルニ現内閣ハ是等ノ優秀ナル候補地ヲ十六箇所舉ゲ、而モ長年ニ亙ツテ此調査ヲ爲シ、既ニ成案モ出來、報名書モ立派ニ出來上ツテ居ルノニ拘ラズ、今回突如トシテ本案ガ茲ニ提出ヲ致サレマシテ、而モ其法文ヲ見マスト、實ニ驚クベキ缺陷ガ多クアルゾゴザイマス

(何故反對シナイ)ト呼フ者アリ)去リナガテ缺陷アリト言ウテモ、本案ソレ自體ハ我黨内閣ニ於テモ、又何人ノ時代ニ於テモ、此重要性ヲ知ツテ居リマスガ故ニ、此大切ナ案ナルコトヲ存ジテ居リマスガ故ニ、此法案其モノニハ反對ヲ爲スモノデハナイ、ケレドモ要ハ之ヲ實施スルニ當リ、之ヲ實行致シマスルニ當テ、本案ニ對シテドレダケノ理解ヲ持チ、ドレダケノ誠意ヲ持ツテ居ルカト云フコトニ依ツテ、初メテ是ガ是デアルカ非デアアルカト云フコトノ岐路ニ立ツモノデアルト私ハ思フ(拍手)然ラバ先ツ第一段ニ之ヲ事實完全ナルモノニ仕上ゲント致シマスルナラバ、當然伴フベキ所ノモノハ豫算デハナイカ、金デハナイカ、然ルニ此本案提出サレタル曉ニ、豫算ノ上カラ考ヘルト、先ツ委員會ニ支拂ハルベキ所ノ一萬數千圓、此小額ノ費用ダケガ所謂豫算トシテ吾々ガ見得ル所ノモノデアリマス、經費トシテ見得ル所ノモノデアリマス、其他ニ必要スベキ幾多ノ財源、費用ニ對スル財源ト云フモノニ付テ、委員會ニ於テモ質問應答ガアッタノデアリマシラガ、大略此公園設置ニ當テ政府ガ必要ト目論ム所ノモノハ僅ニ一町步當リ四十圓ト云フコトガ言明サレタノデアリマス、即チ此範圍内ハ分リマシタガ、果シテ是ダケガ政府ガ言明スルモノナリトセバ、切メテ來年度カラ實施スルト云フノデアアルカラ、其財源ノ説明ヲシテ呉レナクテハナラスト思フゾゴザイマス、財源ナクシテ仕事ヲ爲サウト云フガ如キコトハ、所謂人氣取策デアリマシテ、眞實本案ヲシテ施行スルダケノ勇氣ガナイモノデアルト斷定シテモ、敢テ過言デハナイト思フゾゴザイマス(拍手)而モ調査々々ト云フコトヲ頻ニ内務大臣ハ力辯ヲ御入レニナルデアリマスガ、將ニ今秋行ハルベキ所ノ縣會議員ノ總選舉ニ當リマシテ、恐ラク内務大臣ハ是カラ國立公園ヲ餌ニシテ、或ハ何等カノ作用ヲ爲スモノ

デナイカト云フコトノ疑ヲ吾々ハ抱クノデアリマス、ノミナラズ政府ハ口ヲ開ケバ絶エズ緊縮ヲ唱ヘ、財政難ヲ口ニスルテ居ラレル、緊縮ヲ唱ヘ、財政難ヲ口ニスル政府デアリマシナラバ、此十六候補地一時ニ舉ゲテ何等決定ヲ與フル事ナシニ、而モ是等ノモノヲ一時ニ決定デモ仕兼ネマジキ態度ト口吻ヲ示シテ居ルノデアリマスガ、斯様ナ所ノモノモ全部舉ゲテ其施設ニ移リマシタナラバ、假令小額ナル金ト雖モ莫大ナル經費ニ達スルノデアリマシテ、果シテ現内閣ノ緊縮政策、又財政難ヲ絶エズ口ニスルテ居ラレ方ガ、ドウシタナラバ是ダケノ莫大ナル經費ヲ何レカラ捻出サレルゾゴザイマスルカ、此捻出スル所ノ財源ヲ持タズシテ、サウシテ調査々々ニ口ヲ藉リ、慎重調査ヲ口實ト致シテ、此十六箇所、否其他澤山ノ此國立公園ヲ希望スル所ノ地點——地方ノ人々ヲシテ所謂運動ヲ爲サシメ、請託ヲ爲サシメ、有ユル激烈ナル所ノ裏面ノ運動ヲ爲サシメルト云フコトハ、一ハ人心ヲシテ不安ナラシムルト云フ責任ヲ内閣ハ執ラナケレバナラスト私ハ思フゾゴザイマス、(ソレガ贊成演説カ)ト呼フ者アリ)本案ヲ贊成致シマスレバコソ私ハ此苦言ヲ呈スルゾゴザイマス(ヒヤ〜)「拍手」斯ノ如キ誤タル考ヲ持チ、サウシテ間違タル處置ヲ以テ、本案ノ所謂名前ダケヲ御採リニナラバ、吾々ハ本案ニ對シテハ反對スル所ノ者デアリマス、ケレドモ反對ヲ爲スベキ場合ニ於テハ反對ノ理由ガナクテハナラヌ、贊成ヲ爲ス時ニハ贊成ヲ爲スベキ理由ヲ申述ナケレバナラヌ、私ノ申上ゲテルノハ反對理由デハナイ、贊成ノ理由ヲ申述テ居ルゾゴザイマス

依リマスド、他ノ條項ニ於テハ國家ガ之ヲ爲スモノデアルト云フ規定ガアリマシテ、今讀上ゲマシタ第四條ノ規定ニ於テ、是ガ公共團體或ハ其他ノ者ニ、之ヲ行ハシムルコトガ出來ルト云フ規定ガアルゾゴザイマシテ、且ツ其經費負擔ノ點ニ於テモ、國家ガ之ヲ負擔スルノガ原則デアアルケレドモ、個人デモ其負擔ヲ爲スコトヲ得ルト云フ規定ガ殊更設ケラレテ居ルゾゴザイマス、此點ニ付テ委員會ニ於テモ屢、議論ガ交ヘラレ、質問應答ヲ重ネラレタノデアリマスガ、是等ハ運用ニ方ツテモ餘程大切ナ點ゾゴザイマシテ、近時各地方ノ國立公園ヲ希望スル所ノ人々ハ、假令金ヲ出シテモ、施設ハ其地方若クハ公共團體或ハ府縣ニ於テ之ヲ爲シテモ、差支ノナイト云フコト程熱心ナル所ノ地方モ多クアルゾゴザイマス、尙ホ國家ガ財政ニ窮シテ居ル、今日現在困テ居ルト云フ窮狀ヲ見テ、地方カラ其負擔ヲ申出デラレタナラバ、政府ハ固ヨリ許可ヲセラレル方針デアアルカモ知レマセヌケレドモ、其爲ニ此規定ヲ置カレタモノデアルト私ハ思フゾゴザイマスガ、是デハ折角ノ國立公園法ト云フモノガ全ク死物ニ相成ル、原則ハ國家ガ之ヲ爲ス、而モ之ヲ大規模ニ爲スノニハ、飽マデモ個人ノ力ヤ一地方ノ力ニ於テハ之ヲ爲スコトガ出來ナイト云フ上カラ、即チ國立公園ナルモノハ國家ノ手ニ依テ之ヲ爲スト云フコトガ、之ノ精神デアアルコトヲ御忘レニナツテハナラヌト考ヘマス、更ニ又本法第九條ニ於キマシテ「主務大臣ハ國立公園ノ保護又ハ利用ノ爲必要アリト認ムルトキハ其ノ區域内ニ於テ一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限シ又ハ必要ナル措置ヲ命ズルコトヲ得」ト云フ規定ガゴザイマス、此一箇條ハ本案施行ニ方ツテ、公共團體ノ事業及ビ個人ノ事業、即チ産業上ニ涉ツテ權益ガ衝突ヲ來ス場面ノ出テ來ルコトガ多クアルゾゴザイマス、之ヲ政府モ豫想セラレマシテ、個人ノ私權ニ對シテハ賠償ノ責ヲ負

フテ居ラレル規定モアルノゴザイマス  
ガ、公人ニ對シテ、或ハ公共團體ニ對シマ  
シテノ賠償ノ規定ト云フモノガ、全然置カ  
レテ居ラナイノゴザイマス、サウシテ内  
務大臣ハ國有林野デアルトカ、或ハ其他ノ  
モノガ大部分ヲ占メテ居ルカラ、決シテ面  
倒ナ事件ハ起ラナイデアラウト云フ御答辯  
ヲナサレテ居リマシタケレドモ、例ヘバ斯  
ノ如キ公園地帯ト云フモノハ山間僻地デア  
ルコトヲ吾々ハ想像スルニ苦マナイ、山間  
僻地ニ於ケル所ノ村落ノ生活狀態、例ヘバ  
收入ノナキ所ノ僻村山地ノ村落ニ於キマシ  
テハ、義務教育費ノ抽出ニ苦ンデ村有財產  
ノ山林其他ノ收入ニ依テ此教育費ヲ補填  
シテ居ル所ノ者ガ多クアルコトゴザイマ  
ス、斯ル村落ガ山間地帯ニ於テハ多クヲ占  
メテ居ルト云フ關係ニ於テ、本法ガ施行セ  
テレタ場合ニ於テ國立公園ノ地域ニ編入セラ  
レタ場合ニハ、是等ノ資源ヲ失フノデア  
ル、隨テ一村ノ存立ニ重大ナル所ノ結果ヲ及ボ  
スモノデアリマス、本案ニ依テ賠償サ  
ルベキ所ノ途ガ開ケテ居ラナイモノトスル  
ナラバ、非常ナル所ノ問題ヲ惹起スルコト  
ハ爭ハレザル事實デアルト思フノデアリマ  
ス、是ハ直チニ現ハレテ來ル問題デアリマ  
スガ、之ニハ何等ノ規定ガゴザイマセヌ  
（規定ガアルヨト呼フ者アリ）アリマセ  
ヌ、アリマセヌケレバコソ質問等ニ於テモ  
屢之ヲ繰返シタノゴザイマス、トモアレ  
スル重要ナル所ノ國立公園法ヲ現内閣ノ運  
用ニ依テ——吾々ハ法案ニハ今日ハ贊意  
ヲ表スル者デアアルガ、將來之ヲ實施スルニ  
當テ、政府ノ運用如何ニ依リマシテハ是ガ  
無意義トナリ、其施設宜シキヲ得、運用宜  
シキヲ得レバ有意義ナル所ノ效果ヲ發揮ス  
ベキコトハ言フ俣クナイノデアリマス、吾  
吾ハ甚ダ現内閣ノ諸公ノ取ラレル所ノ態  
度、又言明サレル所ノ態度其モノガ曖昧デ  
アリ、甚ダ不誠意デアルト云フ點カラ、本案  
發生レタ時ニ於テ果シテ如何様ナル結果ヲ

招來スルカト云フコトヲ危懼致シマスガ爲  
ニ、此理由ヲ申上ゲマシテ、本案贊成ノ理  
由トスル次第ゴザイマス  
○議長（藤澤幾之輔君） 討論ハ終局致シマ  
シタ、兩案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリ  
マセヌカ  
〔異議ナシト呼フ者アリ〕  
○議長（藤澤幾之輔君） 御異議ナシト認メ  
マス  
依テ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ  
○作田高太郎君 直チニ兩案ノ第二讀會ヲ  
開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通  
リ可決セラレントヲ望ミマス  
〔異議ナシト呼フ者アリ〕  
○議長（藤澤幾之輔君） 御異議ナシト認メ  
マス、直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ議案全  
部ヲ議題ト致シマス

國立公園法案 第二讀會（確定議）  
土地收用法中改正法律案 第二讀會（確定議）  
〔異議ナシト呼フ者アリ〕  
○議長（藤澤幾之輔君） 別ニ御發議モナイ  
ヤウデアリマスカラ、第三讀會ヲ省略シテ、  
兩案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマ  
シタ（拍手）  
日程第一、競馬法中改正法律案ノ第一讀  
會ヲ開キマス——町田農林大臣

第一 競馬法中改正法律案（政府提出） 第一讀會  
競馬法中改正法律案 第一讀會  
競馬法中左ノ通改正ス  
第二條第二項中「六日內」ヲ「八日內」ニ改  
ム  
第四條第二項ヲ左ノ如ク改ム  
勝馬投票券ノ發賣ハ競馬一競走ニ付一  
人一枚ヲ限リ單勝式勝馬投票券及複勝  
式勝馬投票券ヲ發賣スル場合ニ於テハ  
競馬一競走ニ付一人各一枚ヲ限ル  
第六條ニ左ノ二項ヲ加フ

勝馬投票の中者無キ場合ニ於ケル賣得  
金又ハ前項但書ノ規定ニ依リ生シタル  
超過金ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ勝  
馬投票券ヲ購買シタル者ニ拂戻スベ  
シ  
前二項ノ拂戻金ノ債權ハ一年間之ヲ行  
ハザルトキハ時効ニ依リテ消滅ス  
第八條第一項中「百分ノ四以內」ヲ「百分  
ノ六以內」ニ改メ同條ニ左ノ三項ヲ加  
フ  
第一項ノ規定ニ依ル納付金ノ額ニ相當  
スル金額ハ馬ノ改良増殖及馬事思想ノ  
普及ノ爲必要ナル經費並ニ社會事業ノ  
爲必要ナル經費ニ充ツルコトヲ要ス馬  
ノ改良増殖及馬事思想ノ普及ノ爲必要  
ナル經費ニ充ツル金額ハ納付金ノ額ニ  
相當スル金額ノ三分ノ二ヲ下ルコトヲ  
得ズ  
前項規定ノ適用ニ付テハ金額ノ算出ハ  
各年度ニ於テ其ノ年度ノ豫算金額ニ依  
ル

競馬場ノ開設又ハ維持、競走馬ノ出馬  
登錄又ハ出場、競馬ノ觀覽、勝馬投票  
券ノ發賣又ハ購買、拂戻金又ハ競馬賞  
金ノ交付又ハ受領其ノ他競馬ノ施行又  
ハ開催ニ關シテハ地方稅ヲ課スルコト  
ヲ得ズ  
第十四條中「又ハ五千圓以下」ノ罰金ニ處  
ス「若ハ五千圓以下」ノ罰金ニ處シ又ハ  
其ノ刑ヲ併科ス」ニ改メ同條第二號ノ次  
ニ左ノ一號ヲ加フ  
三 第一條ノ法人ノ開催スル競馬ノ競  
走ニ關シ業トシテ多數ノ者ニ對シ財  
物ヲ以テ賭事ヲ爲シタル者  
第十五條第五號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ  
六 前條各號ノ一ニ規定スル行為ノ相  
手方ト爲リタル者  
第十六條第一號ヲ削リ第二號ヲ第一號ト  
シ以下順次繰上ゲ  
附則  
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔國務大臣（町田忠治君） 只今上程サレマ  
シタ競馬法中改正法律案ヲ提出致シマスル  
所以ノ大要ヲ申上ゲマス  
競馬法ガ實施セラレマシテ茲ニ八年、昭  
和四年ニ於テ其一部ノ改正ヲ見マシタガ、  
競馬ノ實況ニ鑑ミマスノニ、法律制定當時  
ノ精神ヲ達成スルニハ、更ニ改正ヲ要スル  
モノガ少クナイノデアリマス、ノミナラズ  
現下產馬界ノ狀況ヲ見マシテ、馬ノ改良増  
殖ヲ圖ルガ爲ニ、牧野法ヲ制定シテ種牡馬  
ノ充實ヲ圖ル等、急務ヲ要スル施設多ク、  
且ツ一方ニ於キマシテハ、救護法ノ實施ヲ  
必要トスルモノガアリマス、仍テ政府ニ於キ  
マシテハ、慎重研究ノ結果ニ基キマシテ、  
茲ニ競馬法ノ改正ヲ提案致シタノデアリマ  
ス、其詳細ハ委員會ニ於テ之ヲ述ベルコト  
ト致シマス、此處ニハ大要ニ止メテ置キマ  
ス（拍手）  
○議長（藤澤幾之輔君） 質疑ヲ許シマ  
ス——川島正次郎君  
〔川島正次郎君發壇〕  
○川島正次郎君 只今上程ニ相成リマシタ  
競馬法ハ、其改正ノ内容ハ極メテ簡單デア  
リマスケレドモ、此競馬法ノ改正ニ依テ生  
出ス所ノ金ヲ、救護法實施ノ費用ニ充テル  
ト云フ意味ニ於キマシテ、極メテ重大ナル  
所以ガアルノデアリマス、私ハ其意味ニ於  
キマシテ、農林大臣、陸軍大臣、文部大臣、  
司法大臣ニ對シマシテ、數點ノ質疑ヲ致シ  
タイノデアリマス  
第一ニ御同致シタイノハ、此競馬法ハ第  
四十六議會ニ初メテ提案ニナッタノデアリ  
マシテ、其當時主管省デアアル所ノ陸軍大臣  
ノ御説明ニ依リマシテモ、亦司法省政府委  
員ノ御説明ニ依リマシテモ、此競馬法ガ賭博  
若クハ富籤類似デアルト云フコトハ、極メ  
テ明白ニナラテ居ルノデアリマス、往年馬券  
ノ賣買ヲ許シタ際ニハ、内閣ノ閣令ヲ以テ  
之ヲ許シテ居、其後馬券ガ種々ナル物議

ヲ起シマシタガ爲ニ、一時是ハ停止サレテ居、タノデアリマス、其當時ニ於キマシテハ、競馬ノ法律上ノ問題ニ付テハ種々ナル議論ガアツテ一致シナカッタ、其後新刑法ノ制定ニ當リマシテ、競馬ガ賭博若クハ富籤類似デアルト云フコトガ、一點疑ヲ挾ム餘地ガナク相成ッタノデアリマス、是ニ於テ第四十六議會ニハ、刑法ノ特別法ヲ設ケルコト云フ意味ニ於キマシテ、從來閣令ヲ以テ規定シテ居タル所、此競馬ノ許可ガ初メテ法律トナツテ現ハレタノデアリマシテ、此事實ヲ見テモ、亦去ル五十六議會ニ本案一部ノ改正案ヲ提出セラレマシタ際、司法省泉二刑事局長ノ御辯明ニ考ヘマシテモ、競馬ガ賭博若クハ富籤類似デアルト云フコトハ、議論ノ餘地ガナイ所デアリマス、然ラバ何故ニ競馬ヲ許スカト言ヘバ、現在日本ノ馬匹ハ極メテ發達ガ幼稚デアリマシテ、國防上竝經濟上馬匹ノ増殖改良ヲスル必要ガアル、馬匹ノ増殖改良ニハ種々ナル方法ガアリマスケレドモ、競馬ノ方法ニ依テ之ヲ行フコトハ、極メテ有效デアルト云フ見地カラ致シマシテ、縱令競馬ガ富籤若クハ賭博類似デアルニシマシテモ、風教上、思想上、害ガアルニシマシテモ、國家全體ノ利益カラ見マシテ、之ヲ或ル程度ノ制限ヲ附シテ許シテ、以テ馬匹ノ増殖改良ヲ行フコトガ必要ナリト云フ意味ニ於キマシテ、此法案ガ成立シタノデアアル、隨テ此競馬ヲ許ス範圍ニハ一定ノ限界ガアル筈ナノデアアル、四十六議會ニ陸軍大臣提案ノ説明ノ一部ニ於テ「其風教上ニ及ボス影響ヲ局限スル爲ニ、多大ノ注意ヲ拂ヒマシテ、以テ多年物議ヲ醸シタヤウナ事態ヲ、再ビ發生セシメヌコトヲ期シタ次第デアリマス」斯様ニ説明シテ居ルノデアリマシテ、競馬法ニ依ル所ノ馬券發賣ノ内容ガ、一定ノ限界ガアルノハ當然デアアル、言換ヘマスレバ、人ト馬トヲ秤ニ掛ケテ、ドツチガ重イカ、人間界ノ風教思想ヲ害シナイ程度ニ於キマシテ、馬匹ノ

改良發達ヲ企ツルコトガ必要デアルト云フ、此一定ノ限度ヲ定メマシテ、現行法ヲ規定シテ居ル、然ルニ今回此競馬法ニ一大革命ト云フベキ改良ヲ加ヘ、言換ヘマスレバ、從來ハ馬券ヲ一枚シカ買フコトガ出來ナカッタ、ソレヲ今回改良致シマシテ、複勝式、單勝式トノ二様ノ馬券ヲ賣ルコトヲ許スヤウニナツタ、一人ニ於テ各一枚ツ、合計二枚マデハ買フコトガ出來ルヤウニ相成ルノデアリマス、從來一人一枚ト限リタコトハ、要スルニ思想上、風教上、又刑法ノ規定ト抵觸シナイ範圍内ニ於テ、之ヲ決メタノデアリマスガ、此一枚ノ制限ヲ撤廢シテ、二枚ニスルト云フコトハ、全ク競馬法制定當時ノ精神ヲ蹂躪シタモノデアアル、斯ノ如キハ競馬ニ依テ射倖心ヲ煽リ立テ、風教上、思想上、弊害極メテ大ナルモノガアルト吾吾ハ確信致スノデアリマス(拍手)馬事改良以上ニ思想上、風教上ノ弊害ガアル、此法律ヲ提案シマシタニ付テ、司法大臣ハ刑法處罰ノ範圍ヲ狹メル改正案デアツテモ、刑法又內務大臣ハ警察取締ノ見地カラ御覽ニナリマシテ、今回改正案ハ適當ナリト御考ニナツテ居リマスカ、之ヲ伺ヒタイ

諸君、不景氣極メテ深刻ナルガ爲ニ、都市農村ヲ通ジテ極メテ閑散デアアル、多數ノ國民ハ、暇ガアツテ而モ收入ガ無イ、ソコデ不正ノ收入ヲ夢見ルコトハ當然デアリマス、殊ニ農村ニ於キマシテハ、藪、米、蔬菜類、有ユル農産物ノ價額ガ、勞働賃銀ニモ足リナイト云フ結果、多數ノ農民ト云フモノハ、勞作ヲスル氣力ガ無クナツテ居ル、是ニ於テ此際ニ乘ジテ、今日ハ全國到處ノ農村、漁村、山村ニ跨リテ、賭博ガ非常ナル流行ヲシテ居ルト云フコトハ、爭ヘナイ所ノ一大事實デアリマス、不景氣ノ結果、賭博ガ非常ニ流行シテ來タ、不景氣ハ現内閣サヘ送レバ立下コロニ直ルカモ知レマセヌケレドモ、此賭博ノ爲ニ國民ノ心ニ喰入ッタ

所ノ投機心、竝ニ是カラ生ズル所ノ怠ケ辯ト云フモノハ、不景氣ノ產物トシテ永久ニ續クモノデアリマス、此時ニ當テ投機心ヲ挑發スルガ如キ、賭博思想ヲ獎勵スルガ如キ、此改正案ヲ御出シシナルト云フコトハ、如何ニ政府ガ教育振興ヲ叫ビテモ、思想ノ善導ヲ叫ビテモ、全ク實績ノ擧ルナイ矛盾シタル所ノヤリ方デアアル、文部大臣ハ一體斯ノ如ク馬券發賣ノ範圍ヲ擴張シテ、賭博思想ヲ鼓吹スルコトハ、風教上又教育上差支ナシト御考ニナツテ居リマスガ、先ツ第一點トシテ之ヲ御伺スル次第デアリマス(拍手)

第二點トシテ御伺シタイノハ、競馬法ハ只今中上ガタ如ク、國防上、經濟上必要ナル點ト、風教上、思想上ノ防止スベキ點ト、五ニ斟酌考慮ヲシテ、適當ナル範圍ニ於テ許サレテ居ル、隨テ本案ヲ改正スル場合ニハ、二ツノ制限ガアル、一ツハ改正ノ要旨ガ、思想上或ハ風教上惡影響ヲ及ボサナイト云フコトデアリマス、一ツハ馬事改良ノ爲ニ必要デアルト云フ點デアツテ、此第一ノ思想上、風教上ノ問題ニ付キマシテハ、只今中上ガタ通りデアリマスガ、然ラバ果シテ今回改正案ガ、馬ノ改良増殖ノ爲ニ必要デアルカドウカ、元來政府ハ品質ノ改良ト、五十萬頭ノ維持ヲ目的トシテ、馬政計畫ト云フモノヲ立テ、來タ、競馬法施行以來約六箇年經テ昭和四年ノ實績ニ徴シマス、馬ノ頭數ト云フモノハ、競馬法施行サレテ居ルニ拘ラズ、累年遞減ヲシテ來テ居ル、一方ニ於テ馬質ハドウカト申スト、主トシテ競馬ハ「サラブレッド」ヲ本位ニシテ行フガ爲ニ、軍事上又實用上必要ナル馬匹改良ノ目的ヲ達スルコトガ出來ナイト云フ見地カラ致シマシテ、四十六議會ニ於テハ競馬法ノ一部ヲ改正シテ、將來競馬ニハ必ズ「アラブ」若クハ「アングロアラブ」ヲ馬ヲ使用サレル所ノ障礙競走、或ハ速歩競走ト云フモノヲヤルコトニ相成ッタ、爾來今日

マデ三期間競馬ヲ行ッタノデアリマスガ、競馬法ヲ改正致シテ、今日マデ僅ニ二箇年間、再ビ農林大臣ハ馬政ノ振興上必要ナリト云フ理由ヲ以テ、馬券購買數ヲ擴張シ、競馬ノ日數ヲ延長シ、之ニ依テ馬產ヲ獎勵スルト云フ理由ガ一體何處ニアルノデアリマスカ、吾々ハ之ヲ解スルニ苦シムノデアリマス、此點ニ關シテ農林大臣ノ御辯明ヲ得タ、元來馬政ハ陸軍省ノ所管デアツタ、是ガ其後軍縮ノ聲ニ依テ、陸軍ノ經費ヲ節減スルガ爲ニ、其政策ニ利用サレテ、是ガ農林省ニ移ッタノデアアル、今日日本ニ於ケル馬政計畫ノ重點ガ、同ジク國防上ノ必要ニアリト云フコトハ申スマデモナイ、良民良兵ト同ジ原則ニ依ツテ、良民馬ハ常ニ良兵馬デアルト云フコトハ、陸軍ガ常ニ考ヘテ居ル所デアリマス、陸軍當局ハ今日如何ナル馬政計畫ヲ御持チニナツテ居ルカ、又現在ノ日本ノ馬ノ狀態デハ、軍事上不都合ナリト御考ニナツテ居リマスガ、更ニ現行法ノ競馬法ノ範圍内デハ、馬ノ増殖改良上差支アリト陸軍大臣ハ御考ニナツテ居リマスガ、又陸軍大臣ハ今回競馬法ノ改正ニ依ツテ、如何ナル程度ニ馬ノ増殖改良ト云フコトヲ期待シテ御出デニナルカト云フコトヲ、陸軍大臣ニ御伺シタイノデアリマス

第三ニ御伺シタイ、政府ハ此議會開會後、突如トシテ競馬法ノ改正ヲ計畫サレタノデアアル、ソコデ二月二十二日ニ急遽馬政委員會ヲ農林大臣官邸ニ御召集ニナツテ、改正案ヲ諮問シタ、元來斯様ナ重大ナル改正案デアリマスカラ、數回慎重協議ヲ重ネルガ當リ前デアアルニ拘ラズ、農林大臣ハ馬政委員會ニ向テ即決可決ヲ要求シタノデアアル、是ニ於テ馬政委員會ハ三項ノ條件ヲ附シテ農林大臣ノ諮問案ヲ認メタ、其一ハ一競爭一人一枚主義ニ對シ、本改正案ハ幾分之ヲ緩和スルモノナルガ故ニ、本案ノ如ク改正セラレ、コトハ可ナリト雖モ、此際尙ホ一層進ンデ、枚數制限ヲ撤廢セラル、ヤウ考慮セ

ラレタシ、二、政府納付金ノ費途ニ付テハ、之ヲ馬事振興ニ必要ナル經費ニ充ツル爲メ、少クトモ三分ノ二以上確保セラル、ヤウ、競馬法中ニ規定ヲ置カレタシ三、政府納付金ノ使途ノ區分、其他競馬法中ノ重要ナル事項ハ、勅令ヲ以テ設置セラルベキ馬政委員會ヲシテ審議セシムルコトノ規定ヲ競馬法中ニ置カレタシト云フ、三點ヲ條件トシテ本案ニ贊成シタ、競馬法ノ改正ハ元來第一條ニ規定シタル如ク、馬ノ増殖改良若クハ馬事思想普及ノ目的以外ニハ絕對スルコトノ出來ナイノハ勿論デアアル、然ルニ政府ガ今回突然此改正案ヲ企テタ所以ト云フモノハ、全ク馬ノ改良ノ目的カラ發シタノデハナイ、若モ馬ノ改良増殖若クハ馬事思想普及ノ眞ノ目的ガアルナラバ、何モ慌テフタメイテ議會開會後ニナツテ、之ヲ立案シテ馬政ノ委員會ニ掛ケル必要ハナイ

ノ競馬法改正案ニ反對ヲシタ、其反對ノ唯一ノ理由ハ何デアアルカト云フト、地租委讓ヲ計畫シテ居ルテ、地租委讓ノ爲ニ財源ガ不足シテ居ルガ、其不足財源ヲ補フガ爲ニ競馬法ヲ改正スルノダト云フトガ、諸君ノ反對ノ唯一ノ理由デアッタ、併ナガラ百歩ヲ讓テ、假ニ諸君ノ言フガ如ク、當時ノ改正案ガ地租委讓ノ財源ノ不足ノ缺陷ヲ補フトシラモ、而モ是カラ生ミ出シタル金ハ悉ク馬事振興ノ爲ニ使テ居ルデハナイカ、然ルニ今回ハドウカ、今回ノ改正案ト云フモノハ、是カラ生ミ出シタル金ヲ以テ馬事ノ振興ニアラズシテ、全ク目的ノ違、タ所ノ社會事業ニ使フト云フノデアリマスカラ、經費不足ノ爲ニ競馬法ノ改正ヲヤルノハイカヌト言フ諸君ハ、經費不足ノ爲メノ今回ノ改正案ニ贊成スルコトハ出來ナイ筈デハナイカ

(發言スル者多シ)

○議長(藤澤幾之輔君) 靜肅ニ願ヒマス

○川島正次郎君(續) 今回ノ計畫ハ、全ク馬事改正ノ爲ニシカ使フコトガ出來テナイト云フ此鐵則ヲ破テ、ソレ以外ニ使フ所ノ、從來トハ違、タ政策ヲ執ルノデアツテ、若モ此競馬カラ生ミ出ス所ノ金ト云フモノガ、馬事振興以外ニ使フコトニ相成ルノデアリマシテ、民政黨中ノ馬事ニ關係スル諸君ト雖モ、此改正案ニハ贊成ハ出來ナイト私ハ考ヘル

ニ關スル經費、家畜保險實施ニ關スル經費、馬ノ傳染性流産並ニ不妊症調査ニ關スル經費、馬事振興ニ關スル經費、馬ノ傳染性貧血豫防ニ關スル經費、牧野改良ニ關スル經費等數項目ニ互テ、實ニ此五十六議會ニ於テ田中内閣ハ、馬事振興ノ爲ニ新ニ百四十九万七千圓ト云フ新要ヲ致シテ居ル(拍手)其當時民政黨ノ諸君ハ、此田中内閣

ニ高調サレマスケレドモ、之ニ對シテ如何ナルコトヲ爲シタカ、本豫算ニ於テ社會政策ノ爲ニ計上シタル金ト云フモノハ、職業紹介機關ノ充實ニ關スル經費ヲ僅ニ五万九千圓何ガシ、ソレ以外ニハ本豫算ノ何處ヲ見テモ、一錢一厘社會政策ニ關スル所ノ新規事業ハナイノデアツテ、聲ノミ大ニシテ其實ノ件ハザルコト實ニ甚シイモノデアアル(拍手)此救護費ノ如キハ、防貧救貧政策中

ノ最小限度ノモノデアツテ、絕對的ニ必要ナノデアアル、而モ田中内閣當時之ヲ提案スルヤ、民政黨ノ諸君ハ態、施行期日ヲ昭和五年ヨリ之ヲ實施スルト直シタ、此沿革カラ考ヘテ見テモ、現内閣ハ當然本豫算ノ中ニ救護費ヲ組入レルノガ當リ前デアアル、如何ニ現内閣ガ社會政策ニ對シ、又救護法ノ實施ニ關シテ冷淡デアアルカト云フトガ、此一事實ヲ以テモ分ルノデアアル、然ルニ輿論ガ囂々トシテ來テ、全國ノ方面委員ハ是ガ爲ニ總辭職ヲスルト云フマデニナツテ來、又貴衆兩院ノ本會議、委員會等ニ於テ、屢ニ救護法實施ノ議論ガ行ハレテ來テ、遂ニ輿論ノ鞭撻ニ堪ヘ難クナツテ、始メテ内務大臣及其他各大臣ハ救護法實施ノ吐ヲ決メタ、ソコデ色々財源ヲ漁リテ見タケレドモ、見當ラナイ、其結果漸ク著眼シタノガ此競馬法ノ改正ナノデアアル、之ニ依テ相當ノ財源ヲ抽出シテ、之ヲ救護費ニ充テヤウトシタノデアリマスカラ、今回ノ競馬法ノ改正ト云フモノガ、馬事ノ振興ノ目的ニアラズシテ、全ク財政上ノ目的ニアツタト云フトハ明カラ事實デ、全ク本末ヲ顛倒シタ財源關係カラ出發シタ改正案デアアル、即チ競馬ヲ許可スル目的ト云フモノガ、馬ノ増殖デハナクシテ、政府ノ財政上ノ收益主義ニ偏シタト云フトハ、馬政史上ノ一大罪惡ト言ハナケレバナラヌト私ハ考ヘルノデアリマス(拍手)政府ハ新ナル改正案ニ付テ、平年度ニ於テ二百萬圓ノ增收ヲ計畫シテ居ル、ソコデ從來政府ノ納付金百分ノ四以内トアルノヲ、今日百分ノ六以内ト改正シヤウト云フノデアリマスケレドモ、昭和四年ニ百分ノ一カラ百分ノ四以内ニ改正シテ、僅カニ兩年シカ經タナイ今日、再ビ斯ノ如キ改正案ヲ出サレタ、是デハ各地方ノ競馬俱樂部ガ立行カヌト云フト、反對ノ聲ガ盛ニ起ルノヲ豫想シ、政府ハ思想上又ハ風教上ノ一大惡改革デアルノヲ覺悟シナガラモ、馬券一人ニ付二枚發賣ト云

フコトヲ許スコトニ相成ツタノデアアル、之ニ付テハ各方面トモ馬事關係者皆反對ナノデアアル、納付金ヲ餘計取ラレルコトハ反對デアアルケレドモ、一方ニ於テ今マデハ一枚シカ買ヘナカッタノガ、今回ハ二枚マデ買フコトガ出來ルト云フ、此餌ニ釣ラレテ、厭ヤ厭ナガラ馬事關係者ハ贊成シテ來タノデアアル、言換ヘレバ多額ノ納付金ヲ捧上ゲルガ爲ニ、交換的馬券ノ擴張ヲシタト云フトニ相成ルノデアリマス、是等ノ諸點ヲ綜合シテ見マス、政府ハ救護法實施ノ爲ニ、競馬法ニ要求シナイ所ノ改正ヲ加ヘテ、國民ノ射伴心ヲ排發スル、世上デハ今回ノ改正ハ、現内閣ハ博奕ノ「テラ」錢社會事業ヲヤツテ居ルト云フテ居ルガ、ソレドコロデハナイ共「テラ」錢ノ上前ヲ刎ネテ社會事業ヲヤルノデハナイカ、緊縮政策ノ結果、失業者ガ出來ル、サウスルト新ニ公債ヲ起シテ、之ヲ救濟シヨウト云フト同ジヤリ方デアツテ、憐トト仰筒ヲ以テ歩クト云フ、全ク危險極マル所ノヤリ方デアルト言ハナケレバナラヌノデアリマス(拍手)ソコデ私ハ伺ヒタイ、競馬法カラ生ミ出シタル金ヲ、馬事振興以外ニ御使ヒニナルト云フトハ、競馬法制定ノ精神ニ反スルモノデアアルカドウカト云フトハ、農林大臣ニ御伺シタイ、又是カラ出ル所ノ金ヲ以テ、社會事業ニ充當スルト云フトハ、國民精神ノ作興上弊害アリト御考ニナラナイカト云フト御伺シタイノデアリマス

第四點ニ御伺シタイノハ、今回政府ハ追加豫算ヲ御出シニナツタ、其追加豫算ノ中ニハ、農林省ノ所管トシテ、競馬監督ニ關スル經費ノ增加一萬五千七百四十九圓、種牡馬充實ニ關スル經費十三万七千六百九十三圓、又臨時部ニ於テ種牡馬ノ充實ニ關スル經費二十五万七千六百八十六圓、馬ニ關スル牧野改良獎勵費九万五千九百四十六圓ト云フ經費ヲ御計上ニナツテ居ル、ソコデ先達ノ豫算總會ニ於テ、我黨ノ砂田代議士ヨリ、

元來追加豫算ノ性質ト云フモノハ、會計法第七條ノ規定ニ依リテ會計法第七條ニハ何ト書イテアルカト云フト「歳入歳出ノ總豫算ハ前年ノ帝國議會集會ノ始ニ於テ之ヲ提出スヘシ」必要避クヘカラサル經費及法律又ハ契約ニ基ク經費ニ不足ヲ生シタル場合ヲ除クノ外追加豫算ヲ提出スルコトヲ得ス下書イテアリマシテ、必要避クベカラザル經費ノ外ハ、追加豫算ニ提出スルコトガ出來ナイ譯デアアル、然ルニ現内閣ハ、本豫算提出ノ際ニハ、現内閣一流ノ緊縮政策ニ依リテ、馬ノ經費八十一萬圓ト云フモノヲ前年度ヨリ減額シテ今回御提案ニナシ居ル、然ルニ更ニ追加豫算ニ於テ、是ダケノ經費ヲ御出シニナルト云フコトハ、如何ナル理由ニ依ルカ、一體何處ニ此競馬監督ニ關スル經費、或ハ牧野改良ニ關スル經費、種牡馬ノ充實ニ關スル經費ト云フモノガ、必要避クベカラザルモノト御認メニナルカドウカト云フコトヲ質問シタ所ガ、大藏大臣ノ御答辯ニ曰ク、ソレハ今回提案ノ競馬法中改正法律案ノ中ニ於テ斯様ナ文句ガアル、第一項ノ規定ニ依リ納付金ノ額ニ相當スル金額ハ馬ノ改良増殖及馬事思想ノ普及ノ爲ニ必要ナル經費並ニ社會事業ノ爲ニ必要ナル經費ニ充ツルコトヲ要ス馬ノ改良増殖及馬事思想普及ノ爲ニ必要ナル經費ニ充ツル金額ハ納付金ノ額ニ相當スル金額ノ三分ノ二ヲ下ルコトヲ得ズト云フ、斯様ナ改正案ガ出テ居ルカラシテ、此改正案ニ依リテ追加豫算ヲ提出シタノダ、斯様ナ御説明デアリマスケレドモ、併ナガラ會計法ノ規定ハ明カニ必要避クベカラザルモノニ限リテ居ル、若モ今回追加豫算トシテノ御提案ガ、必要避クベカラザルモノデアラナラバ、斯ノ如ク牧野改良費若クハ種牡馬ノ充實ニ關スル經費ノ如キハ、常ニ二分テ居ルコトデアッテ、何故本豫算ノ中ニ之ヲ織込マナカッタカ、本豫算デハ現内閣ハ八十一萬圓減額ヲシナガラ、此不急ナル所ノ經費ヲ追加豫算ニ求メルト

云フコトハ、實ハ此馬ニ關スル經費ハ左程緊急ノモノデアナイ、併ナガラ一方ニ於テ救護法ヲ提出シナケレバナラヌ、所デ馬事ニ關スル此新改正案カラ生ミ出ス所ノ經費ヲ、悉ク救護法ニ流用スルコトニ付テハ多大ノ反對ガアル、根本ニ於テ、馬事改良以外ニ流用スルコトニ反對シテ居ルノデアリマスカラ、此反對ヲ緩和スルガ爲ニ、序ニ出シタ所ノ經費デアアル、言換ヘレバ馬ノ經費ト云フモノハ、救護法ニ便乗シテ出サレタモノデアアル、丁度泥棒ガ番犬ニ牛肉ヲ與ヘルヤウナモノデアアル、ソレト同ジ思想デハナイカ、必要モノイコトヲ此救護法ヲ實施シタイバカリニ慌テ、出シテ、各方面ノ空氣ヲ緩和シヨウト云フノデアリマシテ、全ク會計法ノ精神ヲ蹂躪シタモノト謂ハナケレバナラナイ、是ニ於テ私ハ農林大臣ニ對シテ、今回ノ此追加豫算ト云フモノハ、如何ナル理由ニ依リテ必要避クベカラザルモノト御認メニナリマシタカ、ドウカト云フコトヲ御聽キシタイノデアリマス

第五ニ御質問申上ゲタイコトハ、一昨年現内閣成立以來、有ユルモノガ不景氣デ、萎靡沈滞シテ居ルニ拘ラズ、犯罪件數ト云フモノハ盛ニ殖エテ來テ居ル、隨テ賭博類似ノ競馬ノ如キモノガ益盛ニナリテ來タ、此不景氣ノ時ニ、競馬ケガ盛ニナルト云フ、昭和四年ハ公認競馬ノ馬券ノ賣上高ガ幾ラカト言ヘバ、四千六百一十一萬圓、ソレガ昨年ハ四千二百八十三萬圓ニナッテ、百二十萬圓モ餘計賣レテ來テ居ル、是ダケノ金ト云フモノハ、競馬場ヲ活躍スルノデアラカラ、失敗者モ澤山出テ來ル、隨テ倒産スル者、破産スル者、家庭上ノ悲劇ト云フモノガ、到ル處ニ產出サレテ來テ居ルノデアリマシテ、元來此競馬ト云フモノハ、決シテ競馬「ファン」ニ利益ナモノデアナイ、合理的ニ搾取サレタ所ノ金ガ多イノニ加ヘテ、不正ガ行ハレ易イノデアリマスカラ、競馬「ファン」ト云フモノハ非常ナル損

害ヲ致シテ居ル、昨年ノ春ノ競馬ノ賣上十萬圓全部ヲ合計シテ見ルト二千四百九十九萬圓、此金額ノ中デ政府ノ納付金ト、競馬俱樂部ノ取ル手数料一割五分ヲ差引クト、ソレハ三百二十二萬四千八百圓ニナル、其外ニ穴ガ出タ爲ニ、剩餘金ガ來タ、此剩餘金ガ幾ラカト云フト百六十三萬圓ニナッテ、此納付金ト競馬俱樂部ノ手数料、穴カラ出ル剩餘金ヲ合計スルト、實ニ四百八十六萬圓ニナル、僅カ二千四百十九萬圓ノ中四百八十六萬圓ト云フモノハ競馬俱樂部ニ天引サレテシマフ、隨テ一枚ノ馬券ト云フモノガ二十圓ニ通用セズ、四圓二十一錢ヲ差引イタ十五圓七十九錢ニシカ通用シナイノデアリマスカラ、是デハ競馬「ファン」ト云フモノハ、到底合理的ニ考ヘテ利益ガアル筈ハナイノデアアル、競馬ノ「ファン」ト云フモノモ、競馬ト云フモノハ決シテ儲カラスコトハ能ク知テ居ル、能ク知テ居ルケレドモ、他人ハ損ヲシテモ俺ダケハ儲カレルンダト云フ飛ンデ行ク所ニ、此競馬ノ不健全性ト云フモノガ潜シテ居ル譯デアアル(拍手)然ルニ今回ノ改正案ハドウカ、今回ノ改正案ニ依リテ、政府ハ從來一箇年納付金ガ百六十五萬九千四百四十七圓デアッタノヲ、更ニ二百一十四萬四千八百圓ヲ増加シヨウト云フノデアアル、此競馬カラ上ル金ト云フモノハ、平年度ニ於テ三百六十七萬三千五百九十五圓ニシヨウト云フノガ、現内閣ノ計畫ナノデアアル、ソレレ一體是ダケ納付金ヲ上ゲルニハ、幾ラ馬券ヲ賣ルト云フ計算カト申上ゲマスルト、現在デハ一箇年四千二百萬圓シカ賣レナイ馬券ガ、政府ノ計畫デハ、所謂馬券ト云フモノハ、複勝式、單勝式一人二枚マデ買フコトガ出來ルト云フ結果トシテ、七千四百萬圓ト云フ多額ノ金ガ競馬ニ依リテ使ハレルト云フコトヲ、現政府ハ御計畫ナサッテ居ル、今回ノ改正案ト云フモノハ、如何ニ賭博若クハ當籤類ノ獎勵案デアアルカト云フコト

ガ、斯ノ如キ多額ノ馬券ノ賣上ヲ期待シテ居ルト云フコトニ依リテモ明カナル事實デアアル(拍手)然ルニ斯ノ如キ馬券ヲ賣ル所ノ範圍ヲ擴メ、又競馬ノ日數ヲ六日カラ八日ニ延長シナガラ、一方ニ於テハ競馬ヲ取縮ル、合理的ニ考ヘテモ、又不正行爲ノ點カラ考ヘテモ、競馬「ファン」ニ不利デアアル所ノ此競馬ヲ取縮ト云フコトニハ、極メテ不熱心ナ所ノ改正案ナノデアアル、改正案ノ中ニ第十四條ニ、第一條ノ法人ノ開催スル競馬ノ競走ニ關シ、業トシテ多數ノ者ニ對シテ財物ヲ以テ賭事ヲ爲シタル者ハ罰スルト云フ規定ヲ新ニ御設ケニナッタ、是ハ所謂香屋ヲ取縮ル規定ナノデアアル、成程競馬場ニハ香屋ナルモノガ横行濶歩シテ、盛ニ不正ヲ行フテ居ル、併ナガラ香屋ノ取縮ト云フコトハ、此改正案デ以テ、徹底的ニイカスト云フコトハ、先程讀ンダ所ノ馬政調査會ノ希望條件ニ依リテモ明カナノデアアル、馬政調査會ノ希望條件ハ勝馬投票券類似行爲ノ罰則ヲ置カントスル所以ハ此種行爲ヲ撲滅セントスル趣旨ナルベシト雖モ寧ろ此種行爲ヲ發生セザルヨウ制度ヲ樹立スルコトヲ適當ナリトシ、一人一枚主義ノ撤廢ハ此種行爲ヲ發生ノ原因ヲ除去スベキガ故ニ是ガ撤廢ヲ附シテ居ルノデアリマシテ、此馬政委員會ノ希望條件ニ對シテハ、無論吾々反對デアリマスケレドモ、併シ一面カラ考ヘマシテ香屋ノ取縮ト云フコトハ、決シテ新タナル所ノ改正案デアラナイト云フコトハ、馬政委員會ガ明カニ認メテ居ル事實ナノデアアル、而モ競馬ノ弊害ト云フモノハ香屋デハナイ、香屋ニ非ズシテ八百長ニアル、八百長ヲ盛ニ競馬關係者ガ行フト云フ所ニ、競馬ノ弊害ガアルノデアッテ、現行競馬法ノ第五條ヲ見ルト云フト、當該競馬俱樂部ノ役員、開催執務員、調教師、騎手及ビ馬丁等ノ馬券ヲ買フコトヲ禁止シテ居ルケレドモ、實ハ是ハ有名無實ナ規定デアッテ、盛ニ

競馬關係者方馬券ヲ買フ、競馬關係者方馬券ヲ買フカラ、ソコデ八百長ノ必要ト云フモノガ起ルノデアリ、此競馬關係者ヲ取締ルト云フ法規何處カニ設ケナケレバ、不正行爲ト云フモノハ斷然除去スルコトハ出來ナイ、然レニ今同ノ改正案ト云フモノハ、唯馬券購買數ノ擴張若クハ競馬日數ノ擴張ニ急ニシテ、僅カク香屋取締ノ條文ヲ一箇條入レマシタケレドモ、是ハ馬政委員會ノ認メルガ如ク、實行不可能ナル規定ナリデアリ、ソレ以外ニ八百長取締ノ規定ヲ自ラ設ケヌト云フコトハ、所謂弊風ノ廓清ヲ期セズシテ、斯ノ如ク馬券賣上ノ擴張ヲナシ、開催日ヲ延長シタコトガ、果シテ適當デアリカドウカト云フコトヲ、農林大臣ニ御聽キシタイノデアリマス

第七ニ御聽キシタイノハ地方競馬ノ問題デアリ、公認競馬ガ盛ニナルト共ニ、全國ニ存在シテ居ル所ノ地方競馬ト云フモノガ益、盛ニテ來テ、殊ニ關東地方ニ於ケル柏、羽田、川越、熊谷、又關西地方ニ於ケル長岡、園田、明石、大阪、岸和田等ノ各競馬ノ如キハ、殆ド公認競馬ヲ凌グ程ノ大盛況ヲ呈シテ居ル、三日間ノ賣上五十萬圓以上ニ上ルコトモアル位デアリマス、然レニ公認競馬ノ外ニ、何故今日地方競馬ヲ認メテ居ルカト申上デレバ、公認競馬ト地方競馬トハ、其目的ヲ異ニ致シテ居ル、地方競馬ハ地方的ノ產馬ノ獎勵ヲスルノガ目的デアリ、ソコデ公認地方競馬規則ノ中ニ、競馬場所所在ノ府縣内ニ出走ノ日迄引續キ三月以上飼養セラレザル馬ハ左ノ場合ヲ除クノ外之ヲ出走セシムルコトヲ得ズト云フ規定ガアル、然レニ現在ノ實際ハドウカト云フト、一ツノ馬ガ到ル處ノ各府縣ノ地方ノ競馬ニ出テ居ル、各府縣ノ市町村デ以テ、馬籍ニ登錄シテ居ルノデアリマスカラ、何處ヘデモ出ルコトガ出來ルト云フコトニ相成テ居ル、又ソレノミデナイ、現ニ公認競馬ニ出ル所ノ馬ガ、名前ヲ變ヘテ盛ニ地方

競馬ニ出テ居ルノデアリマシテ、現ニ最近ニ開カレタル所ノ羽田ノ地方競馬ノ如キハ、五十頭近クノ公認競馬ノ馬ガ出場シテ居ル始末デアリ、是ハ全ク地方競馬ガ期待スル所ノ地方的ノ馬ノ獎勵デハナクテ、賭博以外ニ何等ノ目的ガナイカラシテ、一ツノ馬ガ各地方ノ競馬ニ出ル、公認馬ガ變名ヲ以テ出ルト云フコトニ相成テ居ルノデアリ、斯ノ如ク地方競馬ト云フモノハ、公認競馬以上ニ繁華ガ激シイ、一面ニ於テハ不正ガ行ハレ易イノデアリ、今日公認競馬ハ一人一枚シカ馬券ヲ賣ラヌト云フ制度ガ、比較的嚴重ニ守ラレテ居リマスケレドモ、地方ノ公認競馬ト云フモノハ、一人デ以テ十枚モ二十枚モ、甚シキハ百枚モ二百枚モ馬券ヲ買ヘルト云フ始末デアリ、此繁華ノ多イ、地方產馬ノ獎勵上何等ノ目的ヲ達スルコトノ出來ナイ地方競馬ニ對シテ、現内閣ハ規則ノ改正ヲ計畫サレテ居ルト云フ話デアリ、馬券ヲ二圓若クハ三圓ニスルコトヲ御計畫ナシテ居ルト云フ噂ガアリマスガ、果シテソレハ事實デアリカ、事實デナイカ、若シ事實デアルトスルナラバ、私ハ是ハ公認競馬以上ノ賭博ノ獎勵ニナル、風紀上、思想上、弊害ノ甚シキモノト私ハ考ヘルノデアリ、地方競馬ニ對スル將來ノ御方針ヲ承リタイノデアリマス

最後ニモウ一點御聽キシタイコトハ、今回ノ改正案ノ中ノ第八條ニ「競馬場ノ開設又ハ維持、競走馬ノ出馬登錄又ハ出場、競馬ノ觀覽、馬券投票券ノ發賣又ハ購買、拂戻金又ハ競馬賞金ノ交付又ハ受領其ノ他競馬ノ施行又ハ開催ニ關シテハ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズト云フコトヲ御規定ニナラウトシテ居ル、現在十一箇所アル競馬場ノ中、五府縣デハ地方稅ヲ取テ、其金額ガ三十九萬五千圓ニ達シテ居ル、然レニ今日政府デハ、此地方稅ヲ取ルコトヲ出來ナクシヨウト云フ、其理由ハ何處ニアルカト云フト、競馬俱樂部ニ對スル所ノ納付金ト云フ

モノヲ百分ノ四カラ六ニ上ゲル、ソコデ競馬俱樂部ノ方ニ對シテ餘裕ヲ取ル爲ニ地方稅ヲ課スルコトガ出來ナイト云フ條文ヲ茲ニ御規定ニナクテ、デアアラウト私ハ想像スルノデアリマス、斯ノ如キハ中央財政ノ爲ニ地方財政ヲ壓迫スルモノデハナイカト思フ(拍手)殊ニ新聞ノ傳フル所ニ依ルト、現内閣デハ救護法ノ使用ニ、來年度ハ此競馬法カラ產出ス金ダケデオヤリニナリマスケレドモ、昭和七年度以後ニハ、競馬法カラ產出ス金デハ足りナクテ、警察費連帶支辨金ヲ減額シテ之ニ充テル計畫ガアルヤウニ聞イテ居ル、現在警視廳ノ警察費連帶支辨金ハ十分ノ六、之ヲ十分ノ五ニシテ、約百四五十萬圓ノ金ヲ產出スト云フコトヲ聞イテ居ルノデアリマスガ、果シテ是ガ事實デアリカドウカ、若モ是ガ實現シタ曉ニハ、警察力ヲ減ラスカ、地方稅ヲ増スカノ二點シカナナイ、併ナガラ今日ノ東京附近ノ狀況ヲ見テ何處ニ巡查ヲ一人減ラス餘地ガアルカ、全ク警察力ハ不足デアラ、吾々都民ハ枕ヲ高クシテ寢ルコトガ出來ナイ狀況ノ現下ニ於テ、警察力ト云フモノハ毫モ減ラス餘地ガナイ、一面ニ於テ地方稅ト云フモノハ、悉ク附加稅ハ制限外ニ課稅シテ、而モ震災ニ因ル所ノ負債ト云フモノヲ三萬圓背負テ居ル、是サヘ一錢一厘返スコトガ出來ナイト云フ狀況デアリ、何處ニ増稅ノ餘地ガアルカ、斯ノ如キハ全ク地方民ニ對シテ難キヲ強ヒルモノデアリ、現内閣ハ有ニル點ニ於テ自己ノ財政ノ爲ニ、地方財政ト云フモノヲ壓迫シテ居ルノデアリマスガ、其現ハレガ此處ニモ出ヨウトシテ居ル、私ハ今回ノ此地方稅ヲ課スルコトヲ得スト云フ改正案ガ、地方財政ヲ壓迫スルモノト考ヘル者デアリマスガ、之ニ對シテ内務大臣ハ如何ニ御考ニナクテ居リマスガ、以上ノ點ニ關シマシテ、關係大臣カラ明快ナル御答辯ヲ得タイノデアリマス

○議長(藤澤幾之輔君) 町田農林大臣

○國務大臣(町田忠治君發聲) 川島君ノ御尋ハ、多岐廣汎ニ涉テ居リマス、七八間ト私ノ方ニハアリマスガ、便宜上私ハ一括シテ大體申上ゲルト、私ニ對スル質問ガ大抵御了解ガ出來ルコト、思ヒマス

第一世間デモ誤解ヲシテ居ルヤウデアリマス、此誤解ヲ川島君ノ質問ニ依ッテ、世間ノ誤解ヲ解キタイト思フコトハ、何カ此度ノ競馬法ノ改正ニ依ッテ、國家ガ納付金トシテ新クナ收入ヲ得ル、其收入ヲ救護法ニ全部使フガ如キ誤解ガ世間ニアリマス、川島君ハ左様デアリマスマイガ、大體ニ於テ此度ノ救護法ニ要スル一年ノ經費ガ、私ノ記憶ニ依ルト約三萬圓デアリマス、大藏當局トシテ、一年ノ計算ニ於テ約三萬圓ノ經常財源ヲ要スル考デアリマシタ、而シテ農林省ガ競馬法ノ改正ニ依ッテ救護法ニ分ツ金額ハ、大體四十萬圓ト御記憶下サレバ宜シイ、此度ノ改正ニ依ッテ、二百萬圓新クナ増收ガ出來マス、併シ其二百萬圓ノ増收ノ中ノ約六十萬圓ハ、從來地方稅若クハ地方納付金トシテ競馬場所在地ニ納付セシメテ居ル、金額ハ約六十萬圓デアリマス、先刻川島君ノ御話ノ通り、此度ハ一切地方稅若クハ地方納付金ヲ課スルコトヲ得ズトシテ、斯様ニ定メテアルト云フコトハ、アナタノ御話ノ通りデアリマス、之ニ依ッテ地方財政ガ如何ニナルト云フコトハ、内務大臣カラ答辯セラレルトデアリマセウガ、私ノ方ノ立場トシテハ、此地方ニ納付セシメテ居ル六十萬圓ガ、此度ハ農林省ノ方ニ歸テ來ルノデアリマス、競馬法實施ノ責任者タル吾々ノ見ル所ハ、左様ニ出テ居リマス、故ニ今マデノ百分ノ四ヲ百分ノ六ニスルト云フコトハ、納付金ノ率ヲ高メテアルト云フヨリモ、地方デ取テ居リマシタ地方納付金ヲ中央ニ回收シタガ爲ニ、百分ノ六以内ト致シタノデ、是ガ爲ニ競馬協會、競馬會社ノ負擔ヲ重クシタト云フ意味デハアリマセウ、



シタノハ、是ハ我國ノ競馬法ノ一大改良、  
一大進歩ト思ヒマス、此度救護法ヲ實施ス  
ルニ當リマシテ、其財源ノ一部ヲ競馬ノ收  
入ニ求ムルコトニ致シマシタ、而シテ公認  
競馬ノ收入ハ之ヲ國ノ救護法實施ノ費用ニ  
充テ、地方競馬ノ收入ハ之ヲ府縣ノ救護法  
施行ノ費用ニ充ツルノ方針ヲ執リマシタ、  
此方針ニ基キマシテ、公認競馬ニ付キマシ  
テハ、政府納付金ノ率ヲ引上ゲ、又競馬法  
施行規則第十九條ノ剩餘金額ヲ拂戻スコト  
ニシテ、競馬法ヲ改正セントスル故ニ、此  
上更ニ公認競馬ニ對シテ地方稅ヲ課スル時ハ  
負擔過重トナリマシテ、競馬ノ執行ニ支障  
ヲ來スモノト認メマスカラ、之ヲ認メザル  
コトニ致シマシタ、此結果從來馬券買得稅  
ノ許可ヲ受ケタル橫濱市及ビ福岡縣ハ、將來  
課稅ヲスルコトヲ得ザルコト、ナリマス、  
隨テ是ハ財源ヲ別ニ求メネバナリマセズ、  
外ニ數府縣アルヤウニ御話ニナリマシタ  
ガ、是ハ縣稅ヲ課シテハ居リマセズ、是ハ  
寄附金ニナツテ居リマス、ソレデ横濱市ニ於  
キマシテハ、御話ノ通り馬券買得稅ノ收入  
トシテ十二萬五千圓ヲ豫算ニ計上シテ居リ  
マシテ、昭和六年度ニ於キマシテハ、其半  
額ノ六萬二千五百圓ノ歲入缺陷ヲ生ズルコ  
トニナリマスガ、此缺陷ヲ補填シマスノニ  
ハ、歲出ノ整理節約或ハ政府高利債ノ借替  
等ニ依リマシテ、之ヲ補填スルコトニ致シ  
タノデアリマス、サウシテ昭和七年度以降  
ハ此十二萬五千圓ノ財源ヲ失フコトニナリ  
マスノデ、是亦同様ノ方法ニ依テ補填スル  
コトニ致シマス、又内務省ト致シマシテハ、  
昭和六年度ノ行政、財政、稅制整理ニ依リ  
マシテ、幾分國費ニ餘裕ガ生ズルコトニナ  
リマシタ場合ハ、神奈川縣及ビ橫濱市ノ財  
政救濟ノ爲ニ、相當ノ國費ヲ補給スルノ希  
望ヲ有シテ居リマス、ソレカラ福岡縣ニ付  
キマシテハ、福岡縣ノ馬券買得稅收入豫算  
ハ約五萬圓デアリマス、同縣ニ對シマシテ  
ハ、地方競馬觀覽稅ヲ許ス見込デアリマス、

此福岡縣ノ地方競馬入場券賣上高ハ百三十  
五萬圓デアリマスガ、其百分ノ五即チ六萬  
七千圓ノ收入ニナリマス、之ヲ以テ歲入不  
足ヲ補填致シマスレバ一萬七千圓ノ餘剩ヲ  
生ズルコト、ナルノデアリマス、ソレカラ  
地方競馬ノコトニ付キマシテハ、是ハ地方  
競馬規則ヲ改正致シタイト思ヒマシテ、農  
林省ト協議ノ上デ既ニ若干話ガ進行シテ居  
リマス、サウシテ取締等ハ嚴重ニ致シ積リ  
デゴザイマス

〔政府委員野村嘉六君登壇〕

○政府委員(野村嘉六君) 川島君ノ御尋  
ハ、文部省トシテ競馬ハ風教並ニ思想上如  
何ニ考ヘルカト云フ御質問デアリマス、文  
部當局ト致シマシテハ、競馬ハ風教上並ニ  
思想上宜シイトハ思ヒマセズ、併ナガラ馬  
匹ノ改良増殖及ビ馬事思想ノ普及ヲ圖ルコ  
トヲ目的トスルノデアリマスカラ、產業獎  
勵上差支ナイコト、存ジマス、又取締ヲ嚴  
重ニスル以上ハ風教上ノ弊害ヲ防ギ得ルコ  
ト、思ヒマス、殊ニ只今農林大臣ハ此改正  
案ハ從來ノ法律ヨリハ風教上ノ弊害ヲ一層  
除クコトニ努メタト云フコトデアリマスカ  
ラ、文部當局ト致シマシテハ、此點ヲ以テ  
御答ト致シマス(拍手)

〔政府委員泉二新熊君登壇〕

○政府委員(泉二新熊君) 司法大臣ハ貴族  
院ニ於ケル豫算總會ニ出席ノ爲ニ差支ガア  
リマスノデ、政府委員カラ御答申上ゲマス、  
司法省ニ對スル御質問ノ御趣旨ハ、勝馬投  
票券ノ賣買ニ關スル行爲ハ、賭博又ハ富籤  
類似ノモノデアルト思ヒマスガ、之ヲ今回  
擴張シテモ刑法ノ擁護上差支ナイト考ヘル  
カト云フ御趣旨デアラト思ヒマス、此勝馬  
投票權賣買ニ關スル行爲ハ、其本質上カラ  
申シマス、富籤デアルト云フコトニ付キ  
マシテハ、既ニ歐米諸國ニ於ケル學說モ殆  
ド一致シテ居ルト申上ゲテ宜シイノデアリ  
マス、隨ヒマシテ之ヲ出來得ル限り取締ル  
ト云フコトノ必要デアルノハ申スマデモナ

イコトデアリマス、併ナガラ一面ニ於キマ  
シテ公益ノ要求スル所已ムヲ得ナイト云フ  
場合ガアリマスル時ハ、此競馬デアリマス  
ルトカ、或ハ取引所ニ於ケル相場取引デア  
リマスルトカ、其實質上カラ申シマスルナ  
ラバ、富籤又ハ賭博ニ當リヤウナ行爲デア  
リマシテモ、國法ガ之ヲ許シテ居ルコトハ  
今日ノ現行法ガ之ヲ證明シテ居ルノデアリ  
マス、又外國ノ例ト致シマシテモ、澤山ニ  
之ヲ數ウルコトガ出來ルノデアリマス、今  
回ノ改正ニ付キマシテハ、一面ニ於テ競馬  
開催ノ日數ヲ二日程増加スルト云フ點ニ於  
テ疑問ニナツテ居ル譯デアリマスルガ、他ノ  
一面ニ於キマシテハ、從來ノ單勝式ニ加ウ  
ルニ複勝式ヲ以テスルト云フコトヤ、ソレ  
カラ從來割戻シヲ受ケルコトノ出來ナカッ  
タモノヲ、馬券購買者全部ニ割戻ス場合ガ  
アルト云フヤウナ規定モ設ケラレタノデア  
リマシテ、危險負擔ノ率ガ幾分減少シテ居  
ルノデアルト云フコト、及ビ主務省ノ御説  
明ヲ能ク聞キマシテ研究シテ結果ニ依リマ  
スルト云フト、本法ノ運用上從來ヨリモ一  
層有效ナル取締ノ方法ヲ講ゼラレルト云フ  
コトヲ承リマシタ、サウシテ此程度ニ於テ  
改正ガ行ハレマシテモ、尙ホ歐米諸國ニ於  
ケル競馬法ト較ベテ見マスルト云フト、非  
常ニ嚴重ナル制限ガ附セラレテ居ルコトニ  
ナツテ居ルノデアリマス、唯吾々ガ憂ヘマス  
ルコトハ、許可ノ條件ニ隨テ馬券ヲ賣買致  
シマスルト云フ行爲ヨリ、之ニ關聯シテ行  
ハレマスル所ノ吞屋ト稱スル者ガアリマ  
ス、之ニハ色々ナ弊害ガアルノデアリマス、  
外國ノ立法例ニ於テハ「ブック・セーラー」ト  
シテ之ヲ許シテ居ル所モアルシ、禁ジテ居  
ル所モアルノデアリマス、日本ノ法律デハ  
無論之ヲ禁ズル趣旨デアリマシテ居  
ガ、今マデハ唯刑法デ罰シテ居、タノデアリ  
マスガ、刑法ノ規定デハ輕イ、此度ハ更ニ  
吞屋ト稱スル者ニ對シテ嚴重ナ刑罰規定ヲ  
設ケルト云フコトナドニ依リマシテ、二日

〔藤井達也君登壇〕

○藤井達也君 同志ノ川島君ヨリ詳細ニ  
瓦テ政府當局ニ御質問ガアツタノデアリマ  
スルガ、只今ノ御答辯ヲ承テ見マスルト、  
農林大臣ノ御説明ノ如キニ至リマシテハ、  
全ク要領ヲ得ナイモノデアルト言ハネバ  
ラスノデアリマス、陸軍大臣ニ於カレテモ、  
又農林大臣ニアラセラレテモ、大體本案制  
定當初ノ目的ハ如何ナル點ニアツタノデア  
リマスルカト云フコトヲ、御志レニナツテ居  
ルデハナイカト私ハ思フノデアリマス、(拍  
手)本案ノ制定ノ當初ノ目的ハ言フマデモ  
ナク、馬ノ増殖、改良、若クハ馬事振興思  
想ノ普及ト云フコトガ主眼トナツテ出來テ  
居ルノデアリマスルカラ、若シ夫レ改正ノ  
必要ガアリトシマスルカラ、或ハ社會的  
事業ニ、本改正ニ依テ得マシタル經費、財  
源ト云フモノヲ使用シヤウト云フ御考デア  
リマスルナラバ、當初ノ目的ガ十分に達致  
シマシテ、政府當局トシテ馬事振興ニ於テ  
遺憾ナキト云フ結果ヲ見タル後……

〔議長退席、副議長著席〕

社會政策ニ其金ヲ使用スベキモノデアルト  
考ヘルノデアリマス(拍手)然ルニ只今農林  
大臣ノ御説明ハ不得要領デ、全ク吾々諒解  
スルコトガ出來マセヌガ、現ニ陸軍大臣ノ  
御説明ヲ御聽キ致シマシテモ、此本案制定  
ノ最初ノ目的ト云フモノニハ、未ダ到達致  
サズシテ、餘程ノ距離ノアルコトヲ吾々ハ  
確實ニ考ヘルノデアリマス、故ニ私ハ重ネ  
テ御尋シタイトハ、農林當局トシテモ亦國防  
ノ衝ニ當リ、特ニ軍馬ト云フモノハ軍事ニ  
際シテ重要ナ武器デアル、普佛戰爭當時ニ

ノ目數ヲ増加スルト云フコトヨリ生ズル危  
險ヲ防グニ大丈夫デアラウ、之ヲ要シマス  
ルニ今回ノ改正ガ刑法ノ精神ヲ破壞スルヤ  
ウナ結果ニナルト云フコトヲ考ヘマセヌノ  
デ、本法ノ改正ニ司法省トシテハ贊成ヲシ  
テ居ル次第デアリマス(拍手)

〔藤井達也君登壇〕

○藤井達也君 同志ノ川島君ヨリ詳細ニ  
瓦テ政府當局ニ御質問ガアツタノデアリマ  
スルガ、只今ノ御答辯ヲ承テ見マスルト、  
農林大臣ノ御説明ノ如キニ至リマシテハ、  
全ク要領ヲ得ナイモノデアルト言ハネバ  
ラスノデアリマス、陸軍大臣ニ於カレテモ、  
又農林大臣ニアラセラレテモ、大體本案制  
定當初ノ目的ハ如何ナル點ニアツタノデア  
リマスルカト云フコトヲ、御志レニナツテ居  
ルデハナイカト私ハ思フノデアリマス、(拍  
手)本案ノ制定ノ當初ノ目的ハ言フマデモ  
ナク、馬ノ増殖、改良、若クハ馬事振興思  
想ノ普及ト云フコトガ主眼トナツテ出來テ  
居ルノデアリマスルカラ、若シ夫レ改正ノ  
必要ガアリトシマスルカラ、或ハ社會的  
事業ニ、本改正ニ依テ得マシタル經費、財  
源ト云フモノヲ使用シヤウト云フ御考デア  
リマスルナラバ、當初ノ目的ガ十分に達致  
シマシテ、政府當局トシテ馬事振興ニ於テ  
遺憾ナキト云フ結果ヲ見タル後……

八百人ノ兵隊ニ七頭位ノ軍馬デ足りタモノガ、却テ歐洲戰爭ニナリマスルト、百人ノ兵隊ニ三十三頭ヲ要スルト云フヤウニ、武器ガ次第ニ發達シ、飛行機或ハ又飛行船或ハ自動車等ガ盛ニ發達シタ、此戰爭ヲ考ヘテ見マシテモ如何ニ軍馬ト云フモノガ國防ニ於テ、陸軍ニ必要デアるかト云フコトハ、十分吾々ノ説明ヲ要セズシテ御諒解ノコト、思フノデアリマス、然ラバ此本案制定ノ最初ノ目的ヲ御考ヘニナリ、其目的ト云フモノニ向テ十分ナル施設ヲ致シ、其餘裕アツタキニ初メテ其金ヲ他ニ使用スルトコトガ、私ハ最モ適當ナル所ノモノデアルト思フノデアリマス、之ヲ言フト農林大臣ハ或ハ又内務大臣ニシテモ、ソレハ外國ノ例ハドウデアアル、佛蘭西ハドウデアアルト云フヤウナコトヲ仰セニナリマスルガ、私ハ佛蘭西ト、或ハ其他ノ國ト我國ト相比較致シマシテ、決シテ日本ノ馬ト云フモノガ他國ニ輸出スル程立派ナ馬ニモナツテ居ラヌト思フノデアリマス、同時ニ又外國ト比較致シマシテ馬事ノ振興ノ盛デアアルトハ申スコトガ出來ナイト思フノデアリマス、特ニ外國人ハ、大體皆賭博心ノアル國民デアリマス、射倖心ノ強イ國民デアリマス、投機心ノ盛ナ國民デアアルカラ、事ニ當リマシテハ馬ト云ハズ「ベイスボール」ト云ハズ、或ハ「テニス」ニシロ、或ハ「ボクシング」ニシロ、或ハ「レスリング」ニシマシテモ、皆何事デモ賭博ヲシナケレバ夜モ日モ明ケヌト云フ國民ノヤツテ居リマスル制度其儘ヲ日本ニ持ッテ來テ、外國ガヤルカラ日本デモ眞似ヲセナケレバナラヌト云フヤウナコトノ考ハ、寧ロ御止メ願ヒタイト私ハ關係諸君ニ御願シテ置クノデアリマス

諸君、現ニ此本案ノ制定ノ當時ニ於キマシテノ大正十二年、四十六議會ニ於キマスル其當時ノ山梨陸軍大臣ノ提出ノ趣意ヲ考ヘテモ、其説明ノ中ニ、即チ競馬振興ノ策ヲ講ジマシテ、之ニ由リマシテ國民ノ馬ニ

關スル思想ヲ振起致シ、サウシテ馬ノ改良増殖ニ強力ナル所ノ根柢ヲ與ヘルコトハ、此間ニ處シテ極メテ有效ノ一手段ト信スルノデアリマス、謂ハバ此目的ト云フモノハ全ク馬ノ振興ノ爲ニ此本案ハ制定スルモノデアアル、他ニ何等ノ考ガナイト云フコトヲ明瞭ニ申サレ、又田中内閣、昭和四年、五十六議會ニ於キマシテ、時ノ農林大臣山本悌二郎氏ノ御説明ヲ拜聴シマシテモ、ヤハリ同ジヤウナ趣意ト云フモノガ殆々論述サレテ居ルノデアリマス、要スルニ本案ノ目的ト云フモノハ、全ク國家ノ産業ニ於キマシテ、或ハ又軍事ノ上ニ於キマシテ、ドウシテモ百五十万頭ト云フモノヲ維持シ、爾モ是等ノ馬ト云フモノハ皆立派ナ馬ヲ造リタイト云フコトガ趣意ニナツテ本案ヲ出シタモノデアアル、射倖心ヤ或ハ賭博ヲヤツタリ、富籤ヲヤルヤウナ思想ヲ以テ出來タモノデアリマス、當局自ラ御承知デアリマスルナラバ、馬事振興ト云フモノノ目的ヲ十分ニ完成致シマシテ、サウシテ其餘裕アツタ場合ニ初メテ之ヲ社會事業ニ使用スルト云フコトニナリマスルコトガ、正シイ所ノ考デアアルト思フノデアリマス、然ルニ此競馬料ヲ集メテ社會事業ノ爲ニ使用スルノデアアル、外國デヤツテ居ル、外國デヤツテ居ルカラ其眞似ヲスレバ宜シト云フヤウナ輕率不謹慎ナ態度ヲ以チマシテ、

本案ヲ改正ヲ致シ、而モ其金ヲ無理ニ馬事振興ノマダ其完成セザルニ先チ、其賭博ニ依ッテ出來マシタ金ト云フモノヲ社會事業ニ使用スルト云フコトハ、是ハ外國人ナラバイザ知ラズ、我國ニ於キマシテハ先ヅソノ思想ト云フモノヲ去ッテコソ初メテ國民思想ノ善導ガ出來ルモノト考ヘテ居ルノデアリマス、然ルニ本案ニ對スル答辯ヲ見ルト、全ク閣僚共ニ少シモ要領ヲ得ナイノデアリマスカラ、私ハ農林大臣ニ是レ以上御尋ヲシマセヌ、御尋シマシテモ唯要領ヲ得ナイ御答辯ガアルト思ヒマスルガ、ドウ

陸軍大臣ガケハハキリト現在ノ施設狀況ニ於テ、現在ノ實情ニ於テ、現在ノ馬事振興程度ニ於テ、最早十分デアアル、餘リガアルカラ社會事業デアリマスル所ノ救護法ハ財源ニ之ヲ使用スルモノデアルト云フコトヲ、明瞭ニハキリ御答ヲ願ヒタイト思フノデアリマス

先程モ川島君カラノ御質問ガアリマシタ通り、田中内閣當時ニ於キマシテハ農林省所管ニ關シテハ、國家ノ産業政策ノ見地ヨリ考ヘマシテ、國家ニ出來ルダケ産業ト云フモノヲ與ヘ、國家ノ富ヲ殖シ、尙且ツ國民ノ生活ヲ樂ニシタイト考ヘマシタカラ、農林省所管ニ付テハ十分ノ案ヲ計畫シ、豫算モ計上シタノデアリマス、然ルニ現内閣ニナリマスルトヤレ財政ノ緊縮デアアル、經濟ノ消費デアアルト云フヤウナ名目ノ下ニ、實行豫算ニ名ヲ藉リマシテ、殆ド其金額ハ一千萬圓以上モ農林省管轄ニ於テ金額ガ減テ居ルノデアリマス、取分ケ川島君ノ質問ノ通り、此馬事振興ニ關シマスル經費ヲ見マスルト、殆ド驚クベキ所ノ金額ガ少ナクナツテ居ルノデアリマス、例ヘバ動物購買費ガ二十一萬四千七百圓減テ居リマス、馬事振興獎勵費ガ十二萬九千五百二十圓減テ居リマス、種馬所及ビ種馬牧場費ト云フモノガ二十七萬九千九百十四圓減テ居ルノデアリマス、今日追加トシテ十三萬七千六百九十三圓出マシタガ、ソレデモ殆ド十五萬六千圓ト云フモノハ減テ居ルノデアリマス、例ヘバ畜產試驗場ノ新營ト云フモノガ九萬一千餘圓ニナツテ居リマシタモノガ、是ハドレダケ減タカト云フト、八萬二千餘圓モ減テ居リマス、九萬一千餘圓ノ中九千四百五十圓ヲ殘シテ置イテ、八萬二千餘圓ト云フモノハ減テ居リマス、又馬事振興ニ付テ最モ大切ト御考ヘナリマスル種馬所及ビ種馬牧場新營ト云フモノガ三十三萬六千九百餘圓トナツテ居リマシタモノガ、六萬四千圓ト云フモノヲ殘シマシテ、二十四萬二千九

百圓ト云フモノヲ減ジテ居リマス、政友會内閣時代ニ於キマシテハ三十三萬六千圓以上アツタモノヲ、現内閣ハ之ヲ六萬四千圓ヲ殘シテ、其差額二十四萬二千九百餘圓ト云フモノヲ削リタノデアリマス、此處追加豫算ニ依リマシテ八萬圓ダケ回復シタノデアリマス、又種馬所及ビ種馬牧場修繕費モ政友會内閣ノ時ニハ九萬三千八百餘圓アリマシタノヲ、現内閣ハ一萬二千圓ト致シマシテ、差引八萬一千八百五十圓ト云フヤウナモノヲ減ジタノデアリマス、而シテ追加豫算ニ依ッテ僅ニ四萬四千五百餘圓ト云フモノガ増加致シマシタガ、要スルニ殆ド馬事振興ト云フコトニ關シテハ、官減法ニ豫算ヲ削リテ居ルノデアリマス、吾々カラ考ヘマスルト、又農民諸君カラ考ヘ、特ニ畜産ニ關係ノアリマス農村方面カラ考ヘマスルト、現内閣ト云フモノハ馬事振興ニ何等誠意ガナカクアツタト云フコトハ、此事實ニ依ッテ明瞭ナラザルヲ得ナイノデアリマス、斯ノ如クニ私ハ僅カニ二三ノ事項ヲ取ツタノデアリマスガ、之レ全體ヲ讀ンダラ諸君ハビツクリシマセウ、到ル處ニ馬事振興ニ關スル重要ナルモノガ殆ド全部削減、削除サレテ居リマス、例ヘバ其一ツヲ讀ンデ見マセウ、地方競馬指導獎勵費ト云フモノハ政友會内閣當時ハ二萬五千三百五十餘圓、現内閣ニナルト獎勵費ガ一萬圓削リテシマシテ僅ニ一萬三千四百五十圓ヲ殘シタ程度デアリマス、國家ノ馬事振興若クハ競馬獎勵ト云フヤウナ農村ニ最モ大切ナ馬ニ關係アル仕事ト云フモノハ、農林省ニ於キマシテ殆ド片端カラ之ヲ削リテ居ルヤウナ次第デアリマスカラ、先程申シマシタ通り現内閣ハ農村ニ理解ナク、及ビ農村ノ馬産ニ關シテ全然理解ガナイバカリダナク、何等誠意ノ見ルベキモノガナイト云フコトハ明瞭デアリマス、然ルニ承ル所ニ依リマスルト、是ハ陸軍大臣、農林大臣ニモ是非共聽イテ頂戴シナケレバナラヌノデアリマスガ、國家ノ

百圓ト云フモノヲ減ジテ居リマス、政友會内閣時代ニ於キマシテハ三十三萬六千圓以上アツタモノヲ、現内閣ハ之ヲ六萬四千圓ヲ殘シテ、其差額二十四萬二千九百餘圓ト云フモノヲ削リタノデアリマス、此處追加豫算ニ依リマシテ八萬圓ダケ回復シタノデアリマス、又種馬所及ビ種馬牧場修繕費モ政友會内閣ノ時ニハ九萬三千八百餘圓アリマシタノヲ、現内閣ハ一萬二千圓ト致シマシテ、差引八萬一千八百五十圓ト云フヤウナモノヲ減ジタノデアリマス、而シテ追加豫算ニ依ッテ僅ニ四萬四千五百餘圓ト云フモノガ増加致シマシタガ、要スルニ殆ド馬事振興ト云フコトニ關シテハ、官減法ニ豫算ヲ削リテ居ルノデアリマス、吾々カラ考ヘマスルト、又農民諸君カラ考ヘ、特ニ畜産ニ關係ノアリマス農村方面カラ考ヘマスルト、現内閣ト云フモノハ馬事振興ニ何等誠意ガナカクアツタト云フコトハ、此事實ニ依ッテ明瞭ナラザルヲ得ナイノデアリマス、斯ノ如クニ私ハ僅カニ二三ノ事項ヲ取ツタノデアリマスガ、之レ全體ヲ讀ンダラ諸君ハビツクリシマセウ、到ル處ニ馬事振興ニ關スル重要ナルモノガ殆ド全部削減、削除サレテ居リマス、例ヘバ其一ツヲ讀ンデ見マセウ、地方競馬指導獎勵費ト云フモノハ政友會内閣當時ハ二萬五千三百五十餘圓、現内閣ニナルト獎勵費ガ一萬圓削リテシマシテ僅ニ一萬三千四百五十圓ヲ殘シタ程度デアリマス、國家ノ馬事振興若クハ競馬獎勵ト云フヤウナ農村ニ最モ大切ナ馬ニ關係アル仕事ト云フモノハ、農林省ニ於キマシテ殆ド片端カラ之ヲ削リテ居ルヤウナ次第デアリマスカラ、先程申シマシタ通り現内閣ハ農村ニ理解ナク、及ビ農村ノ馬産ニ關シテ全然理解ガナイバカリダナク、何等誠意ノ見ルベキモノガナイト云フコトハ明瞭デアリマス、然ルニ承ル所ニ依リマスルト、是ハ陸軍大臣、農林大臣ニモ是非共聽イテ頂戴シナケレバナラヌノデアリマスガ、國家ノ

馬政方針遂行上ノ必要事業ノ概要ト致シマシテ、國有種雄馬ノ充實ガ三百二十五萬圓、民有種雄馬ノ充實ガ三百二十萬圓、官制ニ依ル馬制委員會ノ設置ガ三萬圓、地方競馬獎勵費二百萬圓、馬事獎勵其他畜産組合獎勵費百萬圓、馬産試驗場設置五十萬圓、競馬行政機關ノ充實費五十萬圓、馬匹利用獎勵費百五十萬圓、馬匹育成獎勵費五十萬圓、馬匹登錄助成費五十萬圓、馬匹繁殖能率増進施設費八十萬圓、衛生改善施設費五十萬圓、馬匹飼料作物優良原種ノ普及獎勵費二百五十萬圓總計一千三百四十三萬圓ト云フモノガナケレバ政府當局、取り分陸軍大臣方御考ニナッテ居リマス我國ノ國防上モ一旦事ノ有ツタ時ニ遺憾ナキヲ期スルコトガ出來ナイト云フコトデアリマス即チ是ハ明瞭ニ政府内部ノ大體ノ方針ニナッテ居ルト吾々ハ承テ居ルノデアリマス、然ルニ政友會内閣ハ之ニ向テ出來ルダケ此方針ヲ講ジテ居ルニモ拘ラズ、現内閣ガ出來マスルト云フト此大方針ヲ根柢カラ破壊シ、而モ此度馬事振興ニ熱心ナヤウナ額ヲ致シテ救護法ニ無理ニ財源ヲ抽出セシガ爲ニ國民諸君ノ間ニ於テ賭博デハナイカ、富饒デハナイカ、射倅心ヲ旺盛ニスルモノデアアル、誘導スルモノデアアルト議論アル競馬法ヲ改正シテ其財源ヲ求メ、而モ其財源ヲ所謂國家馬事振興ノ爲メニ多ク使ハズシテ、所謂競馬法ノ財源カラ產出シタル金ト云フモノヲ社會事業ノ名ヲ藉テ救護法ニ使用スルト云フコトニナリマスルナラバ、是ハ全ク國家ノ馬事方針ヲ根柢カラ破壊スルモノト私ハ思フノデアリマス、尙又陸軍當局ハ吾々カラ考ヘテ見マシテモ現ニ陸軍ガ軍事上重要ト云フテ、田中内閣ノ當時ニ於キマシテハ百四十三萬九千五百五十圓ト云フモノヲ馬匹買上ガニ計上シテ居ルタ、其馬匹買上代金ヲ百九十九萬五千九百三十五圓ニ減ラシクノデアリマスカラ、殆ド二十四萬圓ト云フモノヲ少ナクシテ居ルノデアリマ

ス、馬匹育成費ニ於キマシテハ田中内閣當時ニ於キマシテ百二十五萬三千八百四十二圓デアリマシタノヲ、百六十八萬八千六百七十六圓ヲ差引キ八萬五千圓減ルキウニナッテ居リマス、要スルニ此點ヲ考ヘマシテモ吾々ハ軍事上カラ考ヘテモ、政府ト云フモノハ政友會内閣方組ミマシタ當時ヨリモ餘程様々ノ點ニ於テ馬事振興ト云フモノニ不熱心ナノデアリマス、然ルニ此様ナ實情ニナッテ居ルニモ拘ラズ、突如トシテ此度此案ヲ出シテ改正ヲ斷行シテ、其斷行ニ依テ救護法ノ財源ヲ求メル爲メダト云フコトデアリマスレバ、吾々モ國民トシテ特ニ馬産地ニ關係ナル者トシテ、現内閣ト云フモノハ馬事振興ニ誠意ガナイト言ハザルヲ得ナイノデアリマス、私ハ最モ本法ノ改正ニ依ル政府ノ增收額ノ基礎及ビ其費途ト云フモノハ、全ク不安デアルト考ヘテ居リマス、何故之ヲ申シマスカト云フト、馬券ノ賣上代金ガ昭和二年ニ於キマシテ二千六百三十三千餘圓ニナッテ居ルノデアリマス、昭和三年度ニ於キマシテ三千二百三十五萬二千九百餘圓デアリマス、其差引額ガ昭和二年度ト三年度ニ於キマシテハ、六百三十一萬九千九百圓増ニナッテ居ルノデアリマス、所ガ昭和四年度ニナリマスト四千四百一十一萬六千九百二十圓、詰リ八百六十四千餘圓ガ昭和四年度ニ於テ増額シテ居ルノデアリマス、然ルニ五年度ニナリマス、茲ニ面白イ現象ガ現レテ居リマス、昭和四年度ハ三年度ニ較ベテ八百六十四千餘圓増加シタモノガ、四年ト五年ヲ比較致シマス、僅ニ四百一十一萬餘圓シカ増加シテ居ラスノデアリマス、此百四十幾萬餘圓ト云フヤウナ、三年、四年ニ比較致シマス、五分ノ一ノ程度ニ迄シカ増加シナイ、此現象ヲ考ヘルト、是ハ何ヲ物語テ居ルノデアリマスカ、言フ迄モナク現内閣ノ財政政策ト經濟政策ト云フモノガ、遂ニ國民ヲ瀕死ノド底ニ陥レテ射倅心デアアルト言ハレテ居リ

マスル競馬ニスラモ、幾ラ燒棄ニナッテ、ドウセ斯ウナクテ以上ハ棄鉢ニヤリタイト考ヘテ居ルテモ、懷ニ金ガナイカラヤレナイ結果、斯ノ如ク金額ハ少額ニ減ツタノデアアル、所謂現内閣ノ財政經濟政策ノ失敗ハ、射倅心ニマデ歴然ト現レテ居ルト言ハザルヲ得ナイノデアリマス(拍手)所ガ昭和四年度ノ政府收入金ガ幾ラアルカ調ベテ見マス、百二十萬六千六百餘圓アッタノデアリマス、五年度ニ於キマシテハ、百四十四萬九千餘圓、差引ドレダケ種殖エタカト云フト、驚ク勿レ僅ニ十四萬三千餘圓シカ種殖エテ居ラスノデアリマス、諸君、此十四萬三千餘圓シカ種殖ヘナイ、不景氣ノ下底ニ國民ヲ陥レマシタル現内閣ガ、如何ナル手品ヲ御使ヒニナルカハ存ジマセヌケレドモ、昭和六年度ノ競馬法改正ニ依ル收入ニ於テ、百萬元ト云フモノヲ得ルコトハ容易ナコトデアリナイト思フノデアリマス、若シモ政府ガ馬事振興デアアル、競馬獎勵デアアルト云フ名目ノ下ニ、博奕心ヲ射倅心ヲ盛ニ煽動獎勵シテヤツタラバ、或ハ百萬元ノ金ガ殘ルカモ知レマセヌケレドモ、現在ヲ見マスル時、誠ニ國民ハ餓死線上ニ彷徨致シ、噴火上上ニ踊ルヤウナ窮狀ニ立至ッテ居ル際故、百萬元ノ増額ヲ得ヤウト云フヤウナコトヲ御考ニナルコトハ、根本カラ御考ガ誤テ居ルト、私ハ大藏當局ニ御尋シナケレバナラヌノデアリマス、又面白イ現象ハ、如何ニ現内閣ガ財政ニ窮シテ手品、輕業ノ天勝式ノコトヲヤツテ居ルカト云フコトハ、茲ニ明瞭ニナッテ居リマス、救護法ノ爲ニ約七十萬餘圓ヲ、昭和七年一月一日カラ之ヲ御使用ニナルト云フコトデアリマスガ、此七十八萬餘圓ト云フモノヲ、算盤ニ合シテ計算シテ見マス、昨年度政府ノ收入金、所謂五年度ノ收入金ガ百三十四萬圓アッタノデアリマスカラ、之ニ六年度收入ノ百萬元ヲ足シマス、二百三十四萬餘圓ニナルノデアリマス、二百三十四萬餘圓ヲ三分致シマス、其一

ツガ七十八萬圓ニ當ルノデアアル、明カニ農林大臣ハ、救護法ノ財源ト云フモノハ、決シテ競馬カラ求メナイノデアアル、納付金カラ持テ來ルノデアアル、四十萬圓程度ト仰セニナルケレドモ、數字ハ逃レル譯ニハ參リマセヌ、七十八萬圓ト云フノガ、丁度本年度ノ百萬元ト、昨年度政府收入ノ百三十四萬ト足スト、丁度二百三十四萬圓ニナルノデアリマス、之ヲ三ツデ割ルト七十八萬圓程ニナル、サウシテ三分ノ二ヲ馬事振興ノ方ニ取ルト云フノデアリマスカラ、百五十六萬圓ト云フモノガ殘ルノデアリマス、全ク現内閣ノ救護法ノ財源ハ、馬ノ博奕カラ上ッテ來ルモノデアアルト云フコトハ、數字ニ依ッテ明瞭ナリト言ハザルヲ得ナイノデアリマス、ソレヲ胡麻化ス爲ニ關稅定率ノ改正ヲヤリ出シタルノデアアル、改正ニ依リマス、五十四萬圓上ルノデアリマス、追加豫算ノ中ニ種馬監督ニ關スル經費ト云フモノヲ計算シテ居リマス、或ハ經常部臨時部ヲ總計致シマス、約五十萬圓程度ニ上ルノデアリマス、サウシマス本法改正ニ依ッテ二百三十餘萬圓ノ收入ガアル、其三分ノ二ト云フモノヲ馬事振興ニ使用スルト致シマシタナラバ、百五十六萬圓ト云フモノガ馬事振興費ニナルノデアリマス、此處ガ手品ノ種ニナルノデアアル、本改正ヲシナクトモ、本年度ニ於テハ當然百三十四萬圓ノ收入ガアルコトハ、誰モ之ニ異議ヲ言フ者ハ無イト考ヘルノデアリマス、然ラバ馬事振興ノ方面カラ考ヘマストキニハ、本法ヲ改正シテ射倅心、富饒、博奕心ト云フモノヲ獎勵シナクトモ、當然從來田中内閣當時ニ於キマシテ、百分ノ四ト改正シマシタル立派ナル法案ニ依リマシテ、馬事振興費トシテ自

然約百五十六萬圓ホドノモノハ生ジテ來ルト吾々ハ思フノデアリマス、然ルニ救護法ニ金ヲ使フコトヲ胡麻化サンガ爲ニ、無理ニ此追加豫算ニ於テ、農林省ガ經常部ニ於テ競馬監督ニ關スル經費ノ增加ハ一萬五千

七百幾圓デアル、種牡馬ノ充實ニ要スル經費ガ十三万七千幾ラデアル、又臨時部ニ於キマシテ、種牡馬ノ充實ニ關スル經費ガ二十五万七千幾ラデアル、或ハ牧野改良ニ對シマシテ九万五千圓ト云フヤウナコトヲヤリマシタガ、結局本案ヲ改正シナクとも、百五十六万圓ト云フ程度ノモノハ殘ルノデアリマスカラ、本法改正ニ依テ恩惠ヲ蒙ル程度ト云フモノハ、僅ニ二三十万圓ノ程度ニ過ギナイノデアリマス、本案ヲ實施シマシテ、財源上政府豫期ノ如キ收入ガ無いコトニナツタ場合ハ、之ヲ胡麻化サネバナラヌ、救護法ニハドウシテモ金ヲ持テ行カナケレバナラヌノデアリマスカラ、此處デ馬事振興費ト云フヤウナモノヲ無理ニ製造シ、追加豫算ニ出シテ來テ、サウシテ救護ニ財源ガ足りヌ際ニハ政府ハ馬事振興ニ之ヲ使テ居ルヤウニ見セカケ、此理合セニ關稅ノ増收ヲ充當シ、國民ヲ欺ク爲ノ手練手管ノ手品ノ種ニ使用シタモノデアルト云フコトハ、數字ニ依テ明瞭ナリト言ハナケレバナラヌノデアリマス、ソコデ私ハ救護法ノ財源ハ大藏大臣竝ニ内務大臣ニ御尋シタイノデアリマスガ、救護法ノ財源ヲ他ニ御求ニナル御考ガナイカ、洵ニ救護法ト云フノガ我黨内閣當時ニ於キマシテ之ヲ制定致シ、民政黨ノ諸君ハ之ニ附帶決議ヲシテ作リ上ゲタ國家重要ナル法律デアリマス、此法案ニ對シテ民政黨ノ諸君ハ、其當時何ト仰セニナツタノデアリマスカ、政友會ガ唯法案ヲ制定シタバカリデハイカヌ、明カニ豫算ヲ制定致シ、其金額ヲ明カニシナケレバナラヌト云フコトカラシテ、昭和五年ノ四月一日カラ、之ヲ實行スルヤウニシヤウト云フコトガ、其當時朝野共ノ議論デアッタノデアリマス、現内閣ハ社會政策ト云フコトヲ高調シテ居ル手前カラ考ヘテモ——取分ケ現内閣ニナツテ以來ノ社會ノ狀態ヲ考ヘテ御覽ナサイ、是ハ誰人モ御異存ハナイト思フノデアリマス、現内閣財

政政策ノ根本ノ誤リカラ、或ハ金解禁ノ不注意ナル、不準備ナル斷行ニ依リマシタ結果トシテ、殆ド吾國會テナイ所ノ財政上經濟上ニ於キマスル困難ヲ招來シ、地方農村ハ言フマデモナク、中産階級、商工業者ニ至ルマデ、疲弊困憊ノ極度ニ立至リ、日々紙上ニ現レマヌル様々ノ記事ヲ見マスルト、一家心中ト云フヤウナコトマデ續出シテ居リマス、此狀態ヲ思ヒマスルナラバ現在是非共救護法ヲ實施ト云フモノハ、朝野異議ナキ所デアリマス、一日モ早く之ヲ斷行シタイト云フコトハ、國民總意ノ聲デアルト思フノデアリマス、然ルニ現内閣ハ、ヤレ財源ガナイノデアアル、無イ袖ハ振レヌト云フヤウナコトヲ以テ、遂ニ之ヲ履行セズ、已ムナク二万人ノ代表ノ方面委員ト云フモノガ、安達内務大臣ノ膝元ヘ參リマシテ、強硬談判ヲ致シ、尙ホ是デモ我慢シ切レズ致シマシテ、遂ニハ宮城前ニ於テ、是等ノ諸君ト云フモノガ陛下ニ對シマシテ、是此陳情ト云フモノヲ上奏スルヤウナ、最後ノ手段ニマデ出タモノデアリマス、若シ夫レ政府自ラガ救護法ニ御誠意ガアリマシラバ、他ニ財源ヲ疾クニ御求メニナリマシテ、之ニ充當スルト云フコトハ、一國ノ國務大臣トシテ、且又社會政策ヲ口ニ致シテ居リマスル現内閣ニ於テハ、必ズ當然爲サナケレバナラヌコトデアリマス、然ルニ遂ニ之ヲ爲サズシテ、因循致シテ居タノデアリマス、此點カラ私共ハ、現内閣ニ若シモウ少シ誠意ガアルナラバ、他ニ財源ヲ求メテ欲シイノデアリマス、例ヘバ失業救済デ二千二百萬圓ノ公債ヲ發行シテ見タリ、一億三千萬圓ノ地方公債ヲ出シテ見タリ、或ハ又一面ニ於キマシテハ、現内閣ハ昨年ノ五月ニ於キマシテ、獨逸賠償金ノ六百三十萬圓ト云フヤウナモノハ、是ハ特別會計ニ置イテ、サウシテ減債基金ノ爲ニ、之ヲ使用セネバナラヌナドト法律ヲ出シテ居ルカト思フト、本年度ニナリマスルト、之ヲ持

テ來テ一般會計ノ財源ニスルト云フヤウナ、マルデ手ヲ覆シ、片々タル才子風情ノヤルヤウナ手段ヲ執テ居ルノデアリマス、自己ノ主張ヤ政策ヲ片端カラ變更シテ、非募債主義ガ公債政策ニナリ、獨逸ノ賠償金ハ減債基金ニ振向ケテアッタノガ、一般會計ノ財源ニ持テ來ルト云フヤウナコトヲヤルヤウナ現内閣デアアルカラ、誠意ガアレバ此救護法ニ對スル財源デアリマスル四百萬圓、若クハ三百萬圓ノ金ヲ作ルコトガ出來ナイト云フヤウナコトハ、絕對ニナイノデアリマス、手練、手管、手品ノ上手ナ現内閣デアアルカラ、立子所ニソシナコトハ出來ルト私ハ考ヘルノデアリマス、謂ハハ誠意ガナイカラ、財政上ニ行詰テ遂ニ此財源ト云フモノヲ、所謂競馬ノ最初ノ目的デアリマスル馬事振興費ノ方ニ充當セズシテ、却テ本法ヲ改正致シ、無闇ニ射倅心ト云フモノヲ獎勵シ、誘導シナガラ、收入金ヲ他ノ目的ニ使用スルト云フコトハ、言語道斷沙汰ノ限リデアルト私ハ思フノデアリマス、本法改正ノ政府收入金ハ全部馬事振興ニ充當スベキデアリマス最後ニ本改正ノ條項ヲ御尋スルニ先テ一言致シテ置キマス、ソレハ本草案ノ内容ヲ制定スルニ當リ、陸軍省ハ非常ニ御反對デアッタト云フコトヲ吾々ハ聞イテ居リマス、其事實ガアルカドウカ、陸軍省ハ競馬法ノ目的以外ニ、之ヲ使用スルト云フコトハイケナイト云フ、盛ニ御主張ガアッタト云フコトヲ聞イテ居リマスガ、又サウ云フコトガアッタカドウカト云フコトヲ、明瞭ニ承リタイノデアリマス、尙ホ又一ツ不思議ニ思ヒマスノハ、從來馬事振興ノ爲ニ、競馬法ヲ改正ニ依リマシテ、國家ノ收入金ハ農村振興、馬事振興ノ爲ニ使用スルニ此度改正ヲ致シマシテ、三分ノ二以下ニナラザル程度ニ於テ、馬事振興ニ之ヲ使用セネバナラヌト云フ御說明ニナツテ居リマスガ、然ラバ從來ノ既得權ハドウナリマ

スカ、從來政府ガ地方ノ馬産家諸君ノ爲ニ、大體既得權ト申スコトハ、甚ダ烏滸ガマシイノデアリマスガ、大體與ヘテ居タ馬事振興ノ權利、即チ所謂從來政府收入金ヲ、馬事振興ノ爲ニ使用シテ居リマスルモノヲ除イタ、新ニ國家ノ收入トナル増額ノ三分ノ二ダケ、政府ガ馬事振興ニ充テ、残り三分ノ一ヲ救護法ニ充テルト云フノカドウカ、御聽キ致シタイノデアリマス、ナゼカト云フト、從來馬事振興ニ關シマシテ、農村ノ農民諸君、馬産家諸君ト云フモノハ、自分等ハ政府ノ所謂昭和四年當時ノ改正ニ依テ、大體年々是ダケノ馬事振興費ガ政府カラ出來ルノデアアルカラ、是ハ吾々ノ既得權ト考ヘテ居ルノデアリマス、然ルニ本法改正ニ依テ、所謂既得權利ガナクナルト云フコトハ、農村ノ馬産家ニ於キマシテハ、重大ナル影響ガアルノデアリマスカラ、其點ヲ明瞭ニ御聽キンテ置キタイト思フノデアリマス、最後ニ御尋致シマスノハ、本法ノ改正ニ依リマス所ノ刑罰デアリマス、改正前ノ法律ニ依リマス所、本法ヲ犯シタ者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處スル書イテ居リマシタモノヲ「五千圓以下ノ罰金ニ處シ又ハ其刑ヲ併科ス」ト書イテアル、是ハ餘程注意シナケレバナラヌ事項デアルト私ハ考ヘマス、ナゼカト申シマス、單勝式ノ勝馬券ト云フモノ、外ニ、更ニ複勝式勝馬券ヲモ一人デ買ヒ得ルヤウニ改正ヲシ、國民ノ射倅心ヲ煽動シテ置イテ、此射倅心ニ釣ラレテ知ラズ識ラズ刑法ヲ犯サウナ者ガ——本法ヲ犯サウナ不心得ナ者ガアリマス、從來ヨリモ罰則ヲ重クシテ、尙ホ體刑マデ併科スルト云フヤウナコトニナリマスカラ、其間ニ非常ナ矛盾ガアルト思ヒマス、此矛盾ヲ防ガントスルナラバ、射倅心ト云フモノヲ誘導シナイ方法ヲ取り、刑罰ノ適用ト云フモノヲ次第々々ニ狭クナルノデアリマスガ、徒ニ進ンデ政府ガ射倅心ヲ旺盛ニシ誘導シ、而シテ射倅心ニ驅ラレマシテ、罪

ヲ犯ス者ガアリマス、之ニ對シテ罰金ヲ加ヘ、尙ホ體刑ヲ併科スルト云フコトハ、餘リニ過酷ナル本法制定方法デアルト考ヘマスガ、當局ハ如何ニ御考カ、御答辯ヲ願ヒタイト思ヒマス、諸君、要スルニ本法ハ全ク吾々國民トシテ重大ナル法案デアリマス、特ニ農村ノ馬産家關係ニ於キマシテ、就中私ノ地方ノヤウナ風雪ノ多イ寒イ國ニ於キマシテハ、特別ニ農村ト云フモノハ疲弊シテ居リマス、此寒イ國ニ於キマシテハ、副業ノ一ツト致シマシテ、農村ガ馬産ヲ獎勵致シテ、此馬ニ依テ得テ代價ニ依テ、辛ウジテ家計ヲ立テ居ルト云フ者ガ、殆ド九割ヲ占メテ居ルト云フ状態ニナッテ居ルノデアリマス、然ルニ現内閣ガ成立シテ以來ト云フモノハ、農村ハ疲弊困憊致シ、取分ケ馬産家諸君ガ造テ居リマス馬ノ値段ハ、驚クベキ其價格ヲ減シテ居ルノデアリマス、民政黨ノ諸君ハ金解禁ヲスレバ、馬ノ値段ハ高クナルト云フヤウナ、様々ノ御演說ヲ各所デサレタト云フコトデアリマスガ、驚ク勿レ現内閣成立後金解禁ニ依リマシテ、馬ノ値段ハ從來ノ額ヨリモ半分ノ値段ニ下ッテ居リマス、中ニハ十五圓ノ馬モアレバ、七圓ノ馬モアルト云フヤウナ状態デ豚ノ値段ニモ尙ホ足ラザルヤウナ奇現象ヲ呈シテ居リマス、總テ是等ノ實情ハ言フマデモナク、現内閣ノ財政政策ト云フモノガ、根本カラ國民ヲ疲弊サセタモノデアリマスガ、之ニ付キマシテハ馬事振興ト云フコトハ、目下最モ重大デアリマス、ドウカ政府當局ト致シマシテハ、本法改正ノ政府收入ハ全部馬事ニ使用シ、救護法ノ財源ト云フモノハ、他ニ之ヲ求メ、而シテ此財源ニ依テ救護法ノ目的ヲ到達サレント望ムノデアリマスガ、他ニ財源ヲ御考メニナル御考ガ、大藏當局トシテアルカ否カ、之ニ付テ明快ナル御答辯ヲ御聽キシタイト思フノデアリマス

○國務大臣(宇垣一成君) 藤井君ノ御質問ニ御答ヲ致シマス、藤井君ノ是ハ御質問デハナカク、御意見ノヤウニモ思ヒマシタガ、陸軍當局ハ競馬法制定當時ノ精神ヲ全ク忘レテ居リハセヌカ、没却シテ居ラヌカ、斯ウ云フ意味ノ御話ガアリマシタガ、決シテ忘却ハ致シテ居リマセヌ、即チ制定當時ノ精神ト云フモノハ、競馬カラ得テ收入ハ、國民ノ馬事思想ノ振興、馬ノ改良、増殖、之ニ用キルト云フコトニナッテ居ルノデアリマシテ、今日私自ラハ依然ト左様ニ考ヘテ居リマス(拍手)所ガ今回提出サレタ競馬法ノ改正案ニ依テ、其收入ノ一部分ヲ他ノ事業ニ用ユル、其處ニ矛盾ガアリハセヌカ、其點ヲ抑ヘテ制定當時ノ精神ヲ忘レテ居ルデハナイカト、斯ウ云フ御考ガ起、タノチヤナイカト存ズルノデアリマス、制定當時ノ此納付金額ト云フモノハ、極メテ僅少デアリマシテ、隨テソレヲ全部馬事ニ充當スルト云フコトガ、當事ニ於テハ最モ至當ナコトデアッタデアラウト思フノデアリマスガ、今日ニ於テハ競馬ニ依テ政府ノ納付金額モ相當ニ殖エテ参リマス、又此度ノ改正ニ依レバ、尙更ニソレガ殖エテ参ルノデアリマス、隨テ馬事ノ改良ニ關スル施設モ、益、現在ヨリハヨリ良クナリ得ルノデアリマスルカラ、其一部ヲ社會事業ニ充當スルト云フ如キコトモ、當局トシテハ一向差支ナイコト、考ヘテ居リマス、尙ホ陸軍省豫算ノ中ノ育成費、或ハ馬匹買上代、是等ガ積テ二十餘萬圓減少ニナッテ居ル、ソレヲ以テ私共ノ馬ニ對スル熱意ガ缺ケテ居ルカ、或ハ馬事ヲ等閑ニ付シテ居ルコト云フウナ御議論モアリマシタガ、此減少ト云フモノハ物價ノ下落、之ニ伴フ自然ノ結果デアリマス、決シテソレニ依テ馬事ヲ等閑ニ付シ、或ハ之ニ對スル熱意、誠意ガ缺ケテ居ルト云フ譯デハナイノデアリマス、寧ロ熱意、誠意ハ前當局ヨリモ、私自ラハ程度ノ高マッタモノヲ有シテ居ル積リデアリマス、ソレデアアルカラコソ、今度ノ改正ヲ贊成致

シテ居ルノデアリマス、陸軍省ハ此改正ニ反對デハナイカ、反對デアッタト云フヤウナコトヲ聞イテ居ルガドウカ、斯ウ云フ御話モアリマシタガ、無論改正ニ依テ得テ收入ノ全部ヲ馬ノ方ニ向ケ得ルト云フコトナラバ、是ハ多々益、辨ズルデ、望ム所デアリマス、併ナガラ國防ハ申スマデモナク馬事ダケデアリマセヌ、即チ社會ノ施設ヲ改善シテ、ソレニ依テ國民思想ヲ穩健ニ導イテ行クト云フコトモ、是ハ國防ヲ堅實ナラシムル一大要素デアアルト存スルノデアリマス、左様ニ御承知ヲ願ヒマス(拍手)

○國務大臣(町田忠治君) 藤井君ノ私ニ對スル御尋ハ、計數ニ關スルコトガ多イノデアリマスルガ故ニ、委員會デ詳細申上ゲマス、唯一言申述ベテ置キタイノハ、此度ノ救護法ノ豫算ノ財源ノ全部ガ、競馬法ニ依テ得テ財源ニアルカノ如キ御質問ガアリマシタガ、サウデアリマセヌ、何カ私共ガ此豫算ヲ作ルニ、一時無理ヲヤッタカノ如キ御尋デアリマスガ、左様デアリマセヌ、是ハ誤解ヲ防グ爲ニ私ハ明カニ申上ゲマス、此度ノ救護法ノ財源ノ全部ハ、競馬法カラ出タモノトノ御解釋ハ誤リデアリマス、其詳細ハ委員會ニ於テ申上ゲマス(拍手)

○政府委員(泉三新熊君登壇) 刑罰ヲ此度ノ改正案ニ依テ重クスルト云フコトハ酷デハナイカ、大體サウ云フ御質問ノ趣意デアッタト思ヒマス、洵ニ御尤ノ御見解ト思ヒマスケレドモ、一面ニ於キマシテハ、刑罰制或ハ重クスルト云フコトモ、ヤハリ必要ガアルト思フノデアリマス、即チ許可ヲ受ケマシタ競馬會ガヤル場合デアリマスレバ、是ハ法律デ許スノデアリマスカラ、處罰ノ範圍ニ屬シマセヌケレドモ、許可ヲ受ケナイモノ、許可ノ範圍ニ屬セザルモノ、又殊ニ所謂呑屋ト稱スル者ノ行爲デアリマス、其弊害ガ非常ニ多イノデアアル、殊ニ呑屋ノ如

キハ、刑法第百八十六條ノ第二項賭博開帳ト云フノ性質ガ類似致シテ居ルノデアリマス、此刑法第百八十六條ノ第二項ノ規定ヲ御覽ニナリマスレバ、三箇月以上五年以下ノ懲役ト云フ刑罰制裁ヲ加ヘラレテ居ルノデアリマス、ソレ程マデニ重クシマセヌデモ、現行法ヨリハ少シク此取締ヲ嚴重ニスル、刑罰上ノ取締ヲ嚴重ニスルト云フコトガ、今回ノ改正ニ伴ヒマシテ適當デアラウト云フ考カラ致シマシテ、案ニアリマス通りノ幾分ノ重イ刑罰ヲ定ムルト云フコトニナッタ次第デアリマス

○政府委員(小川郷太郎君) 救護法實施ノ財源ニ付テ御尋デアッタヤウデアリマス、救護法實施ニ要スル經費ヲ支辨スル財源ハ、一ツハ一般財源デアリマスガ、一ツハ競馬法改正ニ依ル所ノ收入デアリマス、競馬法ノ改正ハ、一部ヲ社會事業ノ爲ニ使フ、其社會事業ニ使フト云フノハ、救護法ノ實施ニ要スル費用ニ要スル費用ニ使ヒタイト考ヘテ居リマス、是ハ既ニ農林大臣カラモ御話ガアリマシタヤウナ風ニ、歐羅巴ニ於テモ其例ガアルノデアリマス、前内閣モ斯ウ云フコトヲ考ヘテ居ラレタト思ヒマス、ソレハ政府委員ノ説明ノ中ニモアリマス、是ハ決シテ不當ナコトデハナイ、財源トシマシテハ、斯ル特殊ノ財源ト云フモノハ正當ナモノト考ヘマス

○副議長(小山松壽君) 堀部久太郎君(堀部久太郎君登壇) 堀部久太郎君鳥君ノ御質問ニ對シテ御答辯ガアリマシタ、農林大臣ノ只今ノ御説明デハ、歐米諸國ニ於テハ競馬ニ依ル納入金ガヤハリ社會事業ニ使ハレテ居ル、隨テ我國ニ於テモ差支ガナイト云フヤウナ、御答辯デアッタヤウニ承、タノデアリマスガ、只今陸相閣下ノ御説明ニ依ルト、ヤハリ日本ノ競馬法ハ、政府ノ取上ゲル所ノ納入金ト云フモノガ、馬

事振興或ハ馬匹ノ改良ニ使フノガ本旨デア  
ルト云フコトヲ御述ベニナッタヤウデアリ  
マスガ、歐米諸國ノ競馬ト云フモノハ、是  
ハ賭博行爲ノ公許デアアル、ヤハリ日本ノ競  
馬ノ精神ト云フモノハ、今陸相閣下ノ仰セ  
ノヤウデナクテハイケナイ、斯ウ私ハ考ヘ  
ルノデアリマスガ、今回ノ競馬法ノ改正ニ  
付キマシテ、競馬法其モノノ缺陷ニ關シマ  
シテハ川島議員、ソレカラ藤井議員カラ指  
摘爲サレマシタ、私ハ競馬法ニ依テ得ラル  
ル政府納入金ノ一部ガ流用サレル所ノ此救  
護法ハ、其實施ガ緊急ヲ要スル、斯ウ云フ  
意味ニ於キマシテ完全ニ速行ヲシテ戴キタ  
イガ、此際私ハ政府當局ニ御考直シテ御願  
申上ゲタイコトガアル、今日ハ與黨カラ登  
壇時間ガ制限サレテ居ルノデアリマスガ  
ラ、簡單ニ私ノ希望ヲ述ベテ政府ノ御意向  
ヲ伺ヒタイノデアリマス

救護法ノ實施ノ急ヲ要スルト云フコトハ  
今日ノ輿論デアアテモ、最早異論ハナイ、ド  
ナタモ非常ニ熱心ニ其實施ヲ御希望ニナ  
タノデアリマス、今回ノ實施ガ假令不完全  
ナモノデアリ、或ハ其財源ニ付テハ隨分不  
評ハアルケレドモ、兎ニ角爲スハ爲サザル  
ニ優ルノデアリマスカラ、政府ガ意、御實行  
ニナルト云フコトニナッタコトハ、私共非常  
ニ喜ブノデアリマス、所ガ唯茲ニ一ツ遺憾  
ナコトガアル、是程大事ナ此重要法案ガ今  
日マデ首鼠逡巡シテ一向抄ラズ、丁度中風  
病ミガフヲト歩イテバタツト腰ヲ抜カ  
ス、又歩イテバタツリ腰ヲ抜カス、コンナ狀  
態デスル重要議案ガ今日マデ更ニ決定サレ  
ナカッタガ、此頃全國方面委員カラ手酷イ目  
ニ遭ハサレテ、ヤツト不承無精政府當局ガ腰  
ヲ上ゲタト云フ、齒搔イ不體裁ヲ見セツケ  
ラレタ吾々ハ、政府ノ政治ノ實行ニ對スル  
御誠意ヲ疑ヒ、又斯ル大切ナ法律案ヲ今日  
マデ實施スルコトガ出來ナカッタト云フ優  
柔不斷ニ殊ニ今日大衆ガ塗炭ノ苦ミヲ嘗  
メテ居ル政治上大事ナ時期デアアルダケ、政

府ノ優柔不斷ヲ嘆カザルヲ得ヌノデアリマ  
ス、ソレデ私ハ一體此救護法ナド、云フ間  
題ハ、理窟デ解決スベキ問題デハナイト思  
フ、要スルニ今日窮民ガ如何ナル状態ニ苦  
ンデ居ルカト云フコトヲ政府ノ大官、當局  
ノ方々ガ十分御理解下サラナケレバ實際出  
來ヌコトダ、所ガ遺憾ナガラ當局ニハ其御  
理解ガナイ——必ズ私ハナイト思ヒマス、  
ソレデ私ハ下ラヌ例ダト思ヘルカ知ラヌ  
ガ、質問ノ前提トシテ先ヅ御理解ヲ願フタ  
メニ……(下ラヌコトナンカ言フナ)ト呼  
フ者アリ)所ガ大事ナコトナンダ、閣下君ハ  
與サンガ新シイセイカ、近頃氣ガ立テ居ラ  
レタイケナイ、少シ落付キナサイ……  
〔發言スル者多シ〕

○副議長(小山松壽君) 私語ハ爲サラヌヤ  
ウニ願ヒマス  
○堀部久太郎君(續) 是ハ政府當局ニ取  
テハ寧ろ參考ニナル良イ話デアリマスガ  
ラ、御聽キヲ願ヒマス、私ハ一昨年此議會  
へ出ルマデ實ハ大阪デ一膳飯屋ヲ經營シテ  
居タ、ソレハ民政黨ノ本田彌市郎君モ近所  
ニ居テ能ク御承知デアアル、其時ノ統計ヲ申  
上ゲレバ、今日政府當局ガ社會ノ實情ヲ如  
何ニ御理解ガナイカト云フコトガハ、キリ  
分ルト思フ、一昨年ノ三月——一膳飯屋デ  
アリマスカラ來ル客ハドウ云フ人デアアルカ  
ト云フト、ソレハ勞働階級ノ極ク下ノ人々  
デアアル、收入ノ少イ極ク貧シイ人達デア  
ル……其統計ヲ申上ゲナケレバ政府當局ニ  
御分リニナラヌト思フ、ソレデ三月ニソレ  
等ノ客ガ私ノ店ヘ來ラレテ食ハレマシタ、  
其平均ノ使ヒ高ト云フモノハ、是ハ毎月統  
計ヲ取テ居リマシタガ、一昨年ノ三月ニ於  
テ一人當リガ一日三十二錢、アナタ方ガ御  
聽キニナルト甚ダ「ケチ」ナ話デアアルガ、一  
膳飯屋ノ客ガカラ仕樣ガナイ、三月ガ一人  
當リ三十二錢、ソレカラ四月ニナリマス  
二十九錢ニナリ、五月ニナルト二十六錢ニ  
ナリ、現内閣ガ成立シタ七月ニナルト十八

錢ト段々下テ來タ、ソレデ一昨年ノ春カラ  
世ノ中ノ不景氣ガ如何ニ深刻ニナッタ來タ  
ト云フコトハ皆様ノ御承知ノ通りデアリ、  
又此事實ガ證明シテ居ル、所ガ(勉強シナ  
イカラダ)下呼フ者アリ)勉強ハシテ居ル、  
來ル客ガ減タノデアリ、使ヒ高ガ段々  
減テ來タノデアアル、朝飯ヲ食テ居タ人  
モ朝飯ヲ抜ク、三皿食テ居タ人ガ二皿ニ  
ナル、一皿ニナル、斯ウ云フコトニナツテ來  
タ、恐ラクハ今日デハ贅澤ノ出來ル皆サン  
デモ、晝食ナド多少御節約ナサテイルカモ  
知レヌト思フノデアリマス、兎ニ角サウ云  
フ風ニ食ヒタイ物モ食ハヌト云フヤウナ悲  
慘ナ状態ヲ呈シテ來タ、併シ是等ノ人々ハ  
マダ「金ヲ拂テ飯ノ食ヘル人」ダガ、現内  
閣ガ成立シ、其後金解禁ヲ斷行セラレテ以  
來食ヘナクナッタ人間ガドレ程アルカ、一昨  
年私ノ調査シタ所デモ尙且ツ斯ノ如キ状態  
デアリマスカラ、食ヘナイ人間ガドレ程今  
日殖エテ居ルカト云フコトハ、皆様モ御想  
像ニ難クナイデアラウト思フ、一體御役人  
ガ貧民窟ノ視察ニ出掛ケタヤウナ場合ニ  
ハ、自動車ニ乘テ行ク、貧民窟ノ入口デ車  
ヲ捨テ、鼻ヲ撮ンデグル「急イデ見テ歩  
ク、ソレデハ實際ガ分ルモノデハナイ、逆  
モ貧乏氣分ハ味ヘルモノデハナイ、一膳飯  
屋ト云フモノハ今日ノ社會ノ景氣不景氣ト  
云フコトガ如實ニハ、キリ寫ル所ノ明鏡ノ  
如キモノデアリマス、ソコデ井上サンガ現  
内閣入閣ナサレタカラ、愈々金解禁ト云フコ  
トヲ最近ニスルカラ節約シテ、緊縮ヲシ  
ロト國民ニ強制サレタガ、實ハ其以前ニモ  
ウ多クノ人々ハホ上ニソソナ事ヲ言ハレナ  
クテモ——私ノ一膳飯屋ノ例ヲ見テモ分ル  
通り、食フ物マデ追々ニ減ラシテ緊縮ヲ實  
行シテ居タ(競馬法ノ本論ニ入ルベシ)ト  
呼フ者アリ)是カラ入りマス、是ハ前ニ云  
フ通り私ガ質問スル前提トシテ當局ニ悲  
慘ナ社會相ノ御理解ヲ願フテ置カナケレバ  
ナラヌ、此救護法ノ實施ニ付テハ安達内務

大臣閣下ハ可ナリ御心配ニナッタガ、財布ノ  
元締ヲサレル井上藏相閣下ハドウシタ譯カ、  
一向冷淡デ居ラレタヤウニ思ヘル、安達内  
務大臣閣下ハアレ程議會前カラ實施ノ爲ニ  
御努力下サッタニ拘ラズ、井上藏相ハ更ニ御  
容レニナラヌ在再會期ノ迫ツ今日ニナツテ  
漸ク競馬法ノ改正ニ依テ一部ノ財源ヲ捻  
出シテ、姑息ナヤリ方ヲシヤウト云フノデ  
アル、井上大藏大臣閣下ハ生憎此席ニ御出  
ニナラヌカラ、次官ノ小川サンカラ私ノ申  
スコトヲ明カニ御取次ヲ願ヒタイ、一體藏  
相ハアレ程緊縮々々トヤカマシク言ハレタ  
ガ、藏相御自身ハ決シテ緊縮ナサツテ居ラヌ  
ト信ズル、藏相ガ世間ニ對シテ緊縮ヲ要求  
シテ居ル手前、俺ノ家庭デモツト緊縮シタ  
ケレバ世間ニ對シテ工合ガ悪イ、ソコデ與  
サンニ對シテ、金ヲ使フト云フコトハ御法  
度デアアルカラ、御召ノ著物ナドヲ著テハナ  
ラヌゾ、或ハ「ダイヤ」ノ指環ナドハ買ッテ  
ハナラヌゾト言ハレル、ソシテ眞面目ナ事ヲ  
井上サンガ家庭デ井上サンガ眞實所謂緊縮  
ヲ御家庭デ實行ナサツテ居、タトシタナラ  
バ、與サンニ逃出サレテシマフ、ダカラ井  
上サンハ必ズ自分ノ家庭ニ於テハ、緊縮ダ  
儉約ダナドト云フコトハ實行サレテ居ラヌ  
筈デアアル、小川サントウゾ此事ヲ井上サン  
ヘ申上テ頂キタイ、必ズ爲サツテ居ラヌト思ヒ  
マス、(ソレガ競馬法ニ何ノ關係ガアルカ)  
ト呼フ者アリ)ダカラ御理解ヲ願フ爲ニ  
申述ベルノデアアル、ソコデ私ハ競馬法ニ付  
テ申上ゲマス(今日ノ事方何ダト呼フ者  
アリ)ソレハ今日ハ最モ眞劍ナ政治ヲ要ス  
ル秋ナノデアアル、ダカラ兎ニ角當局諸公ニ  
社會相ニ付テ御理解ヲ戴キタイ、決シテ井  
上サン御一人デハナイ、是ハ上流ノ人々ハ  
總テサウダト思ハレル、由來競馬法ノ納入  
金ハ先程陸相閣下ガ仰シヤッタヤウニ、馬匹  
改良或ハ馬事振興ニ御使ヒニナルト云フコ  
トガ勿論宜シイ、又正當デアアル尤歐洲諸國  
ニ於テハ或ハ社會事業ニ使ウテ居ルノデア

大臣閣下ハ可ナリ御心配ニナッタガ、財布ノ  
元締ヲサレル井上藏相閣下ハドウシタ譯カ、  
一向冷淡デ居ラレタヤウニ思ヘル、安達内  
務大臣閣下ハアレ程議會前カラ實施ノ爲ニ  
御努力下サッタニ拘ラズ、井上藏相ハ更ニ御  
容レニナラヌ在再會期ノ迫ツ今日ニナツテ  
漸ク競馬法ノ改正ニ依テ一部ノ財源ヲ捻  
出シテ、姑息ナヤリ方ヲシヤウト云フノデ  
アル、井上大藏大臣閣下ハ生憎此席ニ御出  
ニナラヌカラ、次官ノ小川サンカラ私ノ申  
スコトヲ明カニ御取次ヲ願ヒタイ、一體藏  
相ハアレ程緊縮々々トヤカマシク言ハレタ  
ガ、藏相御自身ハ決シテ緊縮ナサツテ居ラヌ  
ト信ズル、藏相ガ世間ニ對シテ緊縮ヲ要求  
シテ居ル手前、俺ノ家庭デモツト緊縮シタ  
ケレバ世間ニ對シテ工合ガ悪イ、ソコデ與  
サンニ對シテ、金ヲ使フト云フコトハ御法  
度デアアルカラ、御召ノ著物ナドヲ著テハナ  
ラヌゾ、或ハ「ダイヤ」ノ指環ナドハ買ッテ  
ハナラヌゾト言ハレル、ソシテ眞面目ナ事ヲ  
井上サンガ家庭デ井上サンガ眞實所謂緊縮  
ヲ御家庭デ實行ナサツテ居、タトシタナラ  
バ、與サンニ逃出サレテシマフ、ダカラ井  
上サンハ必ズ自分ノ家庭ニ於テハ、緊縮ダ  
儉約ダナドト云フコトハ實行サレテ居ラヌ  
筈デアアル、小川サントウゾ此事ヲ井上サン  
ヘ申上テ頂キタイ、必ズ爲サツテ居ラヌト思ヒ  
マス、(ソレガ競馬法ニ何ノ關係ガアルカ)  
ト呼フ者アリ)ダカラ御理解ヲ願フ爲ニ  
申述ベルノデアアル、ソコデ私ハ競馬法ニ付  
テ申上ゲマス(今日ノ事方何ダト呼フ者  
アリ)ソレハ今日ハ最モ眞劍ナ政治ヲ要ス  
ル秋ナノデアアル、ダカラ兎ニ角當局諸公ニ  
社會相ニ付テ御理解ヲ戴キタイ、決シテ井  
上サン御一人デハナイ、是ハ上流ノ人々ハ  
總テサウダト思ハレル、由來競馬法ノ納入  
金ハ先程陸相閣下ガ仰シヤッタヤウニ、馬匹  
改良或ハ馬事振興ニ御使ヒニナルト云フコ  
トガ勿論宜シイ、又正當デアアル尤歐洲諸國  
ニ於テハ或ハ社會事業ニ使ウテ居ルノデア

ルカラ、好い事ニ使フノハ宜イデヤナイカ、  
寧ろ之ヲ公許シテ今後政府ノ納入金ヲ無暗  
ニ殖ヤスト云フ先例ヲ作ル時ニハ、非常ナ弊  
害ガ起リハセヌカト云フコトヲ憂フルノデ  
アリマス、先日モ或ル婦人聯盟ノ主ナル婦人  
ノ集々席ニ行キマシタガヤハリ政府ニ對  
シテ、ドウカ社會風教ノ爲ニ、今度政府ニ  
於テ此救護法ノ實施ヲ御心配下サルサウデ  
アルケレドモ、成ルベクナラバ、一ツ競馬ナ  
ドカラ財源ヲ得ヌヤウニ願ヒタイ、實ハ先  
般井上サンノ所ニ伺ヒニ出タケレドモ、御  
會ヒ下サナイ、ドウシタラ御會ヒ下サル  
カ又、吾々ノ御願ガ通ルカト云フコトヲ申  
シテ居リマシタ、カ、ル財源ハ此競馬法ナ  
ドカラ得ナイ方宜カラウ他ニ適當ナ方策  
ヲ講ジテ貰ヒタイト云フ考ガ社會運動ニ關  
係スル是等ノ婦人方ニモアル、又、貴族院  
方面ニモ反對ノ意見ガ多イヨウデアル、ナラ  
ウコトナラ——外ニ絕對財源ガナイト云フ  
ナラバ已ム得ヌ(無イカラ宜カラウ)ト  
呼フ者アリ、無イ、ソレナラ是カラ其財源ヲ  
教ヘテ上ゲル……

〔拍手發言スル者多シ〕

○副議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス  
○堀部久太郎君(續) ソレデハ、私ハ教ハ  
リタイト言フナラ矢釜シイ時間ヲ少シ延長  
シテモラッテ教ヘテ上ゲル、ソコデハ、特ニ  
内閣閣下ニ願ハナケレバナラヌト思フ、ア  
ルナラバ速ニ是等ノ窮民ヲ救ハレコトガ  
宜イデヤアリマセヌカ、ソコデ今競馬法、  
此競馬ノ納入金ニ依ルト甚ダ面白クナイト  
云フコトハ、前質問者兩君ガ詳シク御話ニ  
ナツタカラ、私ハ時間モナシ是ヲ略シマセウ  
ソレデ第一ニ斯ウ云フコトガ最モ穩健デア  
ラウト私ハ考ヘタノデアリマスガ、此問題  
ハ安達内閣閣下ガソレヲ實行スル御意思ガ  
ナイト云ハレタガ、適當ノ財源ナキ場合ニ  
ハ公債ヲ發行シテ戴クト云フコトハ穩健著  
實デ最モ宜イ、決シテ政府ノ今日マデノ非  
募債ノ主張ニ反シタ譯ノモノデハナイト私

ハ思フ、即チ失業救済ノ爲ニ三千万圓ノ公  
債ヲ起サウト云フ政府ガ、失命スル者ノ爲  
ニ、失命公債ノ三百万圓ヤ四百万圓ノ公債  
ガドウシテ發行出來ナイ、弱イ失命スルホ  
ドノ者ハ餘命ガナイ爲ニ打ッテ置イテ  
モ文句ヲ言ハナイ、失業者ハマダ死ナヌ選  
舉ノ時ニハ出テ來ルカモ知レヌトイフノカ、  
若シ是ガイカヌト言フナラモウ一ツ教ヘテ  
上ゲル、即チ政府ハ、擔稅能力ノ豐富ナ有  
產階級即チ富豪階級ニ對シテ適宜ニ負擔ヲ  
サセテ下サル譯ニ行カヌカ(武藤ニサセ  
ロト呼フ者アリ)武藤氏モ勿論宜シイガ、  
三井、三菱ノ兩家ノ如キハ假ニ三千万圓位  
ノ負擔ヲサセテモ何デモナイ一向コトヘナ  
イ(ソノ法律ガ制定出來ルカト呼フ者  
アリ)ソレハアナタ方デ誠意ヲ以テヤレバ  
出來ル、必ズ出來ル、今私ハ名ヲ指シタカ  
ライカヌガ、其收入ノ程度ニ應ジテ、假ニ  
最高三十万圓、ソレカラ以下ノ富豪ニハ低  
下シテズト負擔サセレバ、社會上物質的ニ  
最モ上位ニ居ル所ノ少數ノ富豪階級ノ負擔  
ニ依ッテ、社會ノ最モ底ニ居ル多數ノ食  
フニ食ヘナイ窮民ガ樂ニ救ヘルデハナイカ  
又所謂富豪階級自身ヲ擁護スル所以デモア  
ル(ソノコトガ出來ルカト呼フ者アリ)  
ヤレナイノデハナイ、ヤラナイノデアアル、  
是モイカヌト仰シヤル、ナラ是ナラドウカ、  
現内閣ハ組閣當時ニ官吏ノ減俸ト云フコト  
ヲ御聲明ニナツタ、是ハ具體的ニ十分ニ御研  
究ニナツテ成案ヲ得ラレタコトデアリマス  
カラ、今日慌テ、成案ヲ拵ヘナクテモ既ニ  
其成案ヲ持ッテ居ラレラレラレラ、ソレヲ出  
シサヘスレバ何時デモ出來ル、一體此問題  
ニ付テハ當時安達内務大臣閣下ハ確カ熊本  
ニ御遊説デアッタ、所ガ此問題ニ付テ東京ニ  
於テ文句ガ起ッテ、折角出シタモノヲ引込メ  
ヨウト云フコトニナツタ、當時新聞ノ報ジタ  
所デアアルガ、安達内務大臣ハ九州カラ電報  
ヲ打ラレタ、即チドコノ演説會デモ減俸ノ  
コトヲ吹張スルト、聽衆ガ非常ニ喜ブト、

是ハ實ニ名案ダカラ、是非トモ政府ハ實行  
シナケレバナラヌト云フコトヲ電報セラレ  
タト云フコトヲ、新聞デ拜見シテ居タ、ダ  
カラ安達内閣閣下ノ如キモ是ハ寧ろ名案デ  
アルト御確信ニナツテ居ルニ相違ナイ、殊ニ  
二月中ノ請願委員會ニ官吏ノ減俸ヲ請願シ  
テ來タ請願人員ノ數ハ一万六千三百四十七  
人デアアル、是等ノ人々ハハリ輿論ヲ代表  
シテ居ル人デアアル、斯ウ解シテ差支ナイト  
私ハ信ズルノデアリマス、殊ニ與黨ノ皆樣  
ハ此減俸ノ問題ノ爲ニハ非常ニ忠實ニ御考  
ニナツテ、過日來屢、政府ニ對シテ是ガ實行  
ヲ御要望ニナツテ居ルト云フコトヲ聞イテ  
居ル、私共ハ皆樣ノ御決意ニ對シテ敬意ヲ  
表シ、非常ニ感謝シテ居ルノデアリマス、  
且又財源ヲ競馬法ノ改正カラ得ルコトハ閣  
僚間ニサヘ異論ガアッタノデアアリマセン  
カ(質問ニ移リ給ヘト呼フ者アリ)私ハ簡  
單ニ切上ゲマスガ、今一ツ適當ナ財源トシ  
テ申上タイモノガアリ又是ガ私ノ本論トモ  
云フベキモノデアリマスガ何分時間ヲ制限  
サレテ居マスカラ是ハ委員會ニ於テ詳シク  
述ベサセテ戴クコトニ致シテ要領ダケヲ申  
シマス、今申シタ減俸案ト云フモノヲ政府  
ガ無ゾウサニ引込メラレタノデ再ビ之ヲ出  
スト云フコトハ世間體ガ惡イ、吾々デモ個  
人的ニサウ云フ場合ハアル、オ上デモヤハ  
リサウカモ知レヌ、ソレデ一度引込メタモ  
ノヲ再ビ出ス譯ニ行カヌト云フナラバ、一  
割減俸ナドト云フソノ亂暴ナ怨マレルヨ  
ウナコトヲセヌデ、モト低イ率デモ四百五  
十萬ヤ五百万圓ハ樂ニ出來ル(ソノコトガ  
出來ルカト云フ者アリ)、無イト仰シヤルカ  
ラ言フノデアアル、此ノ重要ナ問題ハ時間ノ都  
合デ殘念乍ラ其詳シイコトハ委員會デ説明  
ヲスルコトニ致シマス、今與黨ノ諸君ハ全  
ク財源ガナイト云ハレラ、ドウシテモ競馬  
法ヲ改正シテ財源ヲ得シケレバナラヌト云  
ハレラノデアアルガ、今申上ゲタ通り私ハ詳  
シクハ委員會デ其方法ヲ申述ベマスガ、政

府ハ宜シク他ノ適當ナ財源ヲ御選ビニナ  
テ救護法ノ完全ナル即行ヲ御決意下サレ、  
其原案ヲ再提出ナサル御意思ガナイカドウ  
カト云フコトヲ御伺ヲ致シタイノデアリマ  
ス、之ヲ要スルニ是等ノ財源ニ依リマス  
云フト、完全即行ハ決シテ出來ヌノデヤナ  
イ、私ハマダ何ウ云フ風ニ救護法ヲ御實行  
ニナルカ、即チ本年度ニ於テ何程ノ金ヲ投  
ズルカ、或ハ平年度ニ於テドウ云フ方法ニ  
依ッテ其資金ガ供サレルカト云フコトヲ深  
ク存ジマセヌガ、コノ財源ヲ得ル爲ニ競馬  
法ノ改正ヲ行フタト云フコトハ否認スルコ  
トハ出來ナイ明白ナ事實デアアル、内務大臣  
ノ如キハ議會前カラ之ガ實施ニハ非常ニ御  
心配ナサレタヨウデアアルガ私ハ井上藏相ニ  
申上ゲル、完全即行ガ出來ヌノデアハナクテ  
シナイノデアアル、ツマリ斷行力ガナイノデ  
アル、此際一言附加ヘテ置キタイノハ先日  
豫算案討論ノ際與黨側トシテ立タレタ、堤  
代議士ノ發言デアリマス、即チ先般ノ豫算  
案ノ討論ノ際ニ堤君ハ斯ウ云フコトヲ云  
テ居ルガ、是ハ大變ナ間違デアアル、ソレハ  
井上藏相ガ所謂金解禁ヲ爲サツタコトヲ賞  
揚シ、其斷行ヲ非常ニ稱ヘテ昭和ノ井伊大  
老ト云フテ居ラレラレラレラ、大老ノ心  
事ハ斯ウデアアル、櫻田門外ノ雪ト消ヘル直  
前ニ大老ハ春淺ニ野中ノ清水氷リ居テ底ノ  
心ヲ汲ム人ゾナキト詠マレテ居ル、所ガ井  
上サンハドウカト云フト、金解禁ヲ鳴物入  
デハヤシタテ宣傳ニ寧日ナシト云フ有様デ  
其後造幣局ノオツイシヨウデアッタカ知リ  
マセヌガ、肖像入りノ「マーク」マデ造ッテ  
騒ガレタ、政治家トシテノ氣分ガ全ク違ッテ  
居ル、ソレカラ大老ノ斷行ト云フノハ、自  
分ノ一身一命ヲ賭シテ國家國民ノ爲ニ開國  
ヲ斷行シタノデアアルガ失禮ダガ井上サンハ  
黨利黨略ノ爲メ國家ガ衰ヘ國民ガ塗炭ノ苦  
ミニ陥ルノモ構ハズ、金解禁ヲ斷行サレタ、  
此二ツノ斷行ノ本質ニハ大變ナ相違ガア  
ル、又先見ノ明ハドウデアッタカ、大老ハ競

レテモ開國ノ國是ハ確立シタガ今日井上閣下ノ金解禁後ノ豫言ハ財界恢復ノ「曙光アリ」モ「金貨ノ流出ナシ」モ皆「ナ」當ガハズ

レタケデハナク國民ハ學テ酷イ目ニ遭ヒ財界ハ沈衰シ農漁村小商工業者ハ青息吐息ノ悲境ニアヘイデ居ルノデアリマス、井上サンハ算數ノ事ニハ長ケテ居ラレマシヨウガ堤君ガ態ニ大老ニ比較シテ昭和ノ井伊大老ナド、云ハル、コトハ吾々根柢舊藩士

一同ノ名譽ノ爲メニ默過スルコトハ出來ナイノデアリマス、堤君ハ同藩デモ士分デナイカラ眞ノ大政治家ノ心事ヲ御理解ナイト思ヒマス、此席デ其發言ノ御取消ヲ願フテ置キマス、私ハ是カラ寧ロ本論ニ入りタイノデスガ、モハヤ時間ガアリマセンカラ

後ハ委員會ニ讓ルコトニ致シマス、甚ダ時間ヲ取テ恐縮ニ存ジマス

〔國務大臣安達謙藏君登壇〕

○國務大臣(安達謙藏君) 堀部サンノ一膳飯屋ノ御話ハ謹ンデ拜聽致シマシタ、救護法ノ實施ノコトニ付キマシテハ即行ノ御注文ガアリマシタケレドモガ、是ハ財源ノ關係モアリマス、御注文ニ應ズル譯ニ參リマゼズシテ、七年度ノ一月カラ實行致スコト、致シテ居リマス、サリナガラ其準備ノ爲ニ數箇月間ヲ要シマス、左様御承知ヲ願フテ置キマス、而シテ財源トシテ今御注意ニナリマシタガ、救護法ハ恆久ノ財源ヲ要シマスカラ、之ヲ公債ヲ以テ支辨スル譯ニ參リマセヌ

其次ニ少數ノ有産階級ニ課稅ヲスルト云フコト、官吏ノ減俸ト云フコトヲ御話ニナリマシタガ、現在ノ所ニ於テハサウ云フ考ヲ持ツテ居リマセヌ

○副議長(小山松壽君) 質疑ハ終了致シマシタ、日程第二、右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○作田高太郎君 本案ハ議長指名十八名ノ

委員ニ付託セラレシコトヲ望ミマス  
○副議長(小山松壽君) 作田君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕  
○副議長(小山松壽君) 御異議ナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第三、牧野法案ノ第一讀會ヲ開キマス、町田國務大臣

第三、牧野法案(政府提出) 第一讀會

牧野法案

第一條 本法ニ於テ牧野ト稱スルハ牛馬ノ生産飼育ノ爲放牧又ハ採草ヲ爲スラ目的トスル土地ヲ謂フ

第二條 地方公共團體ハ其ノ所有スル牧野ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ管理方法ヲ定メ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ認可ヲ受ケタル管理方法ヲ廢止又ハ變更セントスルキ亦同ジ

第三條 牧野ノ荒廢防止、害蟲ノ驅除豫防其ノ他牧野ノ保護ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 命令ヲ以テ規定シタル者ヲ除クノ外牧野ニ於テ放牧又ハ採草ヲ爲ス者ハ協同シテ牧野ノ維持又ハ改良ヲ圖ル目的ヲ以テ牧野組合ヲ設立スルコトヲ得

第五條 牧野組合ハ法人トス  
第六條 牧野組合ハ其ノ名稱中ニ牧野組合ナル文字ヲ用フベシ  
第七條 牧野組合ニ非ザルモノハ其ノ名稱中ニ牧野組合タルコトヲ示スベキ文字ヲ用フルコトヲ得ズ

第八條 牧野組合ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フコトヲ得  
一 牧野ノ維持又ハ改良ニ必要ナル共

同設備ノ設置  
二 草生ノ改良  
三 荊棘、土石其ノ他障害物ノ除去  
四 害蟲ノ驅除豫防  
五 牧野ニ關スル利用統制  
六 前各號ニ掲グルモノノ外牧野ノ維持又ハ改良ヲ圖ルニ必要ナル施設

第九條 政府ハ牧野組合ニ對シ豫算ノ範圍内ニ於テ獎勵金ヲ交付スルコトヲ得  
第十條 牧野組合ヲ設立セントスルキハ組合ノ地域タルベキ牧野ニ付組合員タル資格ヲ有スル者三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ定款ヲ作成シ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ

第十一條 牧野組合ハ前項ノ認可ヲ受ケタル時成立ス  
第十二條 牧野組合ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 目的  
二 名稱  
三 地區  
四 事務所ノ所在地  
五 組合員タル資格ニ關スル規定  
六 事業及其ノ執行ニ關スル規定  
七 牧野ノ利用統制ノ定ラ爲ス組合ニ在リテハ之ニ關スル規定  
八 役員ニ關スル規定  
九 經費ノ分擔方法  
十 組合ガ公告ヲ爲ス方法

第十一條 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由  
前項ニ規定スルモノノ外定款ニ定ムル

コトヲ要スベキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム  
第十三條 牧野組合ハ第十條ノ認可ヲ受ケタルトキハ設立ノ登記ヲ爲スベシ  
登記スベキ事項左ノ如シ  
一 前條第一項第一號乃至第三號、第十號及第十一號ニ掲グル事項  
二 事務所  
三 設立認可ノ年月日  
四 理事ノ氏名、住所

第十四條 牧野組合ノ理事ハ總會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任ス但シ特別ノ事由アルトキハ組合員ニ非ザル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得  
組合設立當時ノ理事ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムベシ  
理事ハ何時ニテモ總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得

第十六條 第一項及第二項ノ規定ハ理事ノ選任又ハ解任ニ之ヲ準用ス  
第十五條 牧野組合ハ牧野ノ改良事業ヲ行ハントスルトキハ其ノ改良計畫ヲ定メ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ認可ヲ受ケタル改良計畫ヲ廢止又ハ變更セントスルトキ亦同ジ

第十六條 牧野組合ノ定款ノ變更ハ總會ニ於テ總組合員半數以上出席シ出席者ノ議決權ノ三分ノ二以上ヲ以テ之ヲ決ス  
定款ノ變更ハ行政官廳ノ認可ヲ受ケタルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ  
定款ノ變更ガ地區ノ増減ニ關スルトキハ第一項ノ規定ニ依リ決議ノ外新ニ編入セラレ又ハ削除セラレルベキ地區タル牧野ニ付組合員タル資格ヲ有スル者又ハ組合員ノ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

第十七條 牧野組合ノ組合員ハ定款ノ定ムル所ニ依リ總會ニ於テ書面又ハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場

合ニ於テハ之ヲ出席者ト看做ス但シ組合員ニ非ザレバ代理人タルコトヲ得ス

第十八條 牧野組合ノ總會ノ決議ニ依ル解散ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十九條 行政官廳ハ牧野組合ニ對シ業務ノ關スル報告ヲ爲サシメ、書類帳簿、業務ノ執行又ハ財産ノ狀況ヲ検査シ、定款又ハ經費ノ分擔方法ノ變更ヲ命ジ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十條 牧野組合ノ總會ノ招集ノ手續又ハ決議ノ方法ガ法令又ハ定款ノ規定ニ違反スルトキハ組合員ハ決議ノ日ヨリ一月以内ニ其ノ決議ノ無効ノ宣告ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第二十一條 牧野組合ノ行爲又ハ總會ノ決議ガ法令又ハ定款ニ違反シ其ノ他公益ヲ害スルノ虞アルトキハ行政官廳ハ其ノ決議ヲ取消シ、理事、監事若ハ清算人ヲ解任シ、組合ノ業務ヲ停止シ又ハ組合ノ解散ヲ命ズルコトヲ得

第二十二條 民法第四十四條、第四十五條、第四十六條第二項、第四十七條、第四十八條、第五十條乃至第六十四條、第六十五條第一項第三項、第六十六條、第六十八條乃至第七十條、第七十二條乃至第七十五條、第七十七條乃至第八十一條及第八十三條並ニ非訟事件手續法第三十五條第一項、第一百七十七條、第一百九十九條乃至第二百二十二條、第二百三十一條乃至第三百三十八條、第四百二十二條乃至第四百五十七條、第四百七十五條、第四百七十六條及第四百九十五條ノノ規定ハ牧野組合ニ之ヲ準用ス但シ民法第四十五條、第四十六條第二項、第四十八條及第七十七條中一週間トアルハ之ヲ二週間トス

第二十三條 牧野組合ガ本法ニ基キテ爲ス登記ニ付テハ登録稅ヲ課セズ

第二十四條 牧野組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ定款違反者ニ對シ過怠金ヲ課スルコトヲ得

第二十五條 第十五條ノ規定ハ牧野ヲ設置スル畜産組合、畜産組合聯合會及主務大臣ノ指定スル團體ニ之ヲ準用ス

第二十六條 左ノ場合ニ於テハ牧野組合ノ理事、監事又ハ清算人ヲ五圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

一 本法ニ依リ行政官廳ノ認可ヲ受ケテ爲スベキ事項ヲ之ヲ受ケズシテ爲シタルトキ

二 本法ニ依ル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ  
三 行政官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ  
四 本法ニ依リ行政官廳ノ徵スル報告ヲ差出サズ又ハ其ノ検査ヲ拒ミ其ノ他行政官廳ノ命令若ハ處分ニ從ハザルトキ  
五 本法ニ依ル總會ノ招集ヲ怠リタルトキ  
六 組合ノ目的ニ非ザル事業ヲ爲シタルトキ  
七 本法ニ依リ事務所ニ備ヘ置クベキ書類ヲ備ヘズ、其ノ書類ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ若ハ不正ノ記載ヲ爲シ又ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ閱覽ヲ拒ミタルトキ  
八 本法ニ違反シテ破産ノ宣告ヲ請求セザルトキ  
九 本法ニ依ル公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ  
十 清算ノ場合ニ於テ本法ニ違反シテ辨濟ヲ爲シ又ハ組合財産ノ分配ヲ爲シタルトキ

者第二十五條ノ規定ニ依リ準用スル第十五條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケザルトキハ五圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

第二十八條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ過料ニ之ヲ準用ス

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
本法施行ノ日ヨリ六月以内ニ於テ第二十五條ニ掲グル者ノ行フ改良事業ニ付テハ同條ノ規定ニ依リ準用スル第十五條ノ規定ヲ適用セズ

○國務大臣(町田忠治君) 只今上程セラレテ居リマスル牧野法案提出ノ理由ヲ極メテ簡單ニ説明致シマス、我國牧野ノ現狀ヲ見マスルニ、其多クハ多年ノ慣行ニ隨テ之ヲ使用シテ居ルノデアリマス、而モ牧野ヲ使用スル者ハ小農デアリマシテ、從來其手入レモ不十分デアアルノミナラズ、濫牧、濫獲ノ結果漸次牧野ノ荒廢ヲ見ルニ至リマシタコトハ洵ニ遺憾ニ堪ヘマセヌ、是ガ維持改善ノ對策ヲ講ズルコトハ必要デアリマス、仍テ本案ニ於キマシテハ地方公共團體ノ所有スル牧野ニ對シ、其所有者ヲシテ管理方法ヲ定メシメ、牧野ノ維持改良ノ基礎ヲ確立スルト共ニ、一般牧野ニ於テ放牧又ハ採草ヲ爲ス者ヲシテ國家助成ノ下ニ牧野組合ヲ組成スルコトヲ得セシメ、從來ノ濫牧濫獲ノ弊ヲ矯正スルト共ニ、進ンデ牧野ノ維持改良ニ關スル各種ノ施設ヲ行ハシメ、且ツ牧野ノ荒廢防止及ビ害蟲驅除豫防ニ關シ、ソレノ適當ナル方法ヲ講ジ、以テ牧野ノ維持改善ヲ圖ラントスルノデゴザイマス、何卒御審議ノ上御協賛アラントラ望ミマス

○副議長(小山松壽君) 日程第四、右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第四、右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉

○作田高太郎君 本案ハ政府提出競馬法中改正法律案ノ委員ニ併セテ付託セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(小山松壽君) 作田君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

○副議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○作田高太郎君 殘餘ノ日程ハ延期シ、本日ハ之ニテ散會セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(小山松壽君) 作田君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ  
○副議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、次回ノ日程ハ公報ヲ以テ御通知致シマス、本日はニテ散會致シマス  
午後六時四十分散會

衆議院議事速記録第二十四號中正誤

頁	段	行	誤	正
六一七	一	二五	相當ニ考ヘ	相當ニアリ
六一七	四	三七	天然樹植	人工樹植

